平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金

（文化遺産総合活用推進事業）

# ぐんまの神楽シンポジウム

# 報 告 書

# はじめに

県内には数多くの伝統芸能が伝承されています。なかでも神楽は群馬を代表するものであり、かつては伝承する地域が160か所近くありました。過疎化や少子高齢化など、時代の流れのなかで減少してしまいましたが、現在でも120か所以上で伝えられています。神楽をはじめとする伝統芸能は、五穀豊穣や天下泰平などの願いがこめられ、人々の生活と密接に関わりあって伝承されてきた貴重な文化です。一度途絶えてしまうと蘇らせることは極めて難しいため、存続させる取り組みが重要です。

群馬県教育文化事業団では、県内神楽の活動や伝承状況を把握するためアンケート調査を行い、その調査資料をもとに今後の保存や伝承の道筋を探る「ぐんまの神楽シンポジウム」を開催いたしました。この報告書は、シンポジウムと調査結果をまとめたものです。調査でお世話になった神楽団体の皆様をはじめ、御協力いただいた各市町村等関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

伝統芸能は過去のことではなく、演じているのは今です。同じ演目や同じ所作であっても、演じ手によって趣が異なります。これが伝統芸能の魅力です。一人でも多くの方に伝統芸能のよき理解者となっていただき、本書が神楽を次世代に継承する糸口となれば幸いです。

また、各地域の神楽が奉納される際にはぜひ現地へ足をお運びください。神楽を伝承する人たちの大きな励みになります。

平成30年３月

公益財団法人群馬県教育文化事業団
理事長　**吉　野　　勉**

# 目　次

はじめに
目　　次
例　　言

**Ⅰ　ぐんまの神楽シンポジウム** …… 1

概　　要…… 1
基調講演…… 3
シンポジウム…… 11
来場者アンケート…… 19

**Ⅱ　ぐんまの神楽アンケート調査** …… 21

概　　要…… 21
調査結果…… 21
調 査 票…… 45

**資　　料**…… 49

神楽の伝承地…… 50

前　橋　市……50
高　崎　市……55
桐　生　市……60
太　田　市……61
沼　田　市……61
館　林　市……62
渋　川　市……63
藤　岡　市……66
富　岡　市……70
安　中　市……72
みどり市……73
榛　東　村……74
吉　岡　町……75
上　野　村……76
神　流　町……76
甘　楽　町……76
中之条町……79
長野原町……83
高　山　村……84
東吾妻町……85
昭　和　村……88
みなかみ町……88
板　倉　町……91
明　和　町……92
大　泉　町……92
邑　楽　町……93

神楽の開催日程…… 94

## 例　言

1．本書は平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）の補助を受けて実施いたしました。
2．本書は群馬会館において平成29年12月９日に開催した「ぐんまの神楽シンポジウム」と「ぐんまの神楽アンケート調査」の結果をまとめた報告書です。
3．本書に掲載されている発言内容や発表資料には、シンポジウム後に加えられた訂正や構成上の変更を含む修正が含まれています。
4．本書に使用した写真は各神楽伝承団体より提供いただいたもののほかに関孝夫氏、市町村及び市町村教育委員会、群馬県教育文化事業団所有の写真です。
5．本書に掲載された神楽の名称は、群馬県教育文化事業団が運営するWEBサイト「ぐんま地域文化マップ」で使用する名称を用いました。
6．神楽の演目名等の表記は各団体で伝承されているとおりとし、特に統一せずそのまま掲載しました。
7．本書作成にあたり神楽伝承団体、神社、市町村及び市町村教育委員会、並びに関係者の皆様から多大なご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

# Ⅰ ぐんまの神楽シンポジウム

## 概　要

県内には、民俗芸能が数多くありますが、なかでも神楽は群馬を代表するものです。県内神楽の活動や伝承状況を把握するためぐんまの神楽アンケート調査を行い、また調査資料をもとに今後の県内における神楽の保存・伝承の道筋を探るためシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは団体が相互に情報を共有し、継承に向けた連携を図ることを目的としました。

**日　時**　平成29年12月９日㈯　13：00～15：45
**会　場**　群馬会館ホール
**来場数**　275人
**主　催**　群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会
（実施：公益財団法人群馬県教育文化事業団）

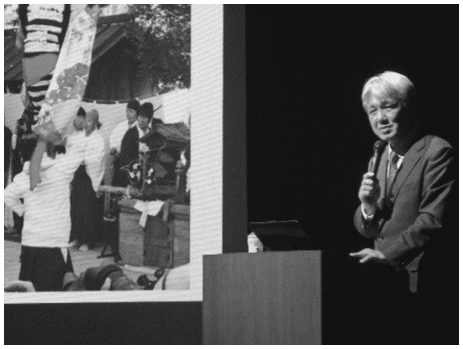
群馬会館

### 基調講演

「神楽って何？―群馬の太々神楽と里神楽―」

上尾市教育委員会教育総務部次長
ぐんま伝統文化調査員
**関　　孝夫**

県内には「神楽」と呼ばれる民俗芸能が伝承されています。その多くは太々神楽・神代神楽・里神楽などと呼ばれ、古いものでは江戸時代から上演されてきました。講演では、神楽の種類、上演される演目、演者、流派の伝承などから県内の神楽の特徴について考えました。


関氏による基調講演

### シンポジウム

「神楽の継承と課題」

県を代表する３つの神楽団体の皆さんに神楽の「カタ」の継承のための映像記録、地域での後継者育成などについて報告をいただき、民俗芸能としての神楽の継承や将来の方向性について議論を深めました。

**パネリスト**
佐藤　眞一　榛名神社宮司
下田　弘二　下南室太々御神楽講講長
諸田　友秋　下南室太々御神楽講副講長
森泉寿義雄　咲前神社太々神楽保存会会長
田中　米壽　咲前神社太々神楽保存会副会長
**コーディネーター**
関　　孝夫　上尾市教育委員会教育総務部次長

（左から）パネリスト　佐藤氏、下田氏
諸田氏、森泉氏、田中氏

## 神楽上演

### 「岩戸の舞」「養蚕の舞」

出演　下南室太々御神楽

渋川市重要無形民俗文化財に指定されている下南室太々御神楽が２演目を披露しました。式舞の１つである「岩戸の舞」では手力男の命が力強い舞を熱演。続いて、愛嬌舞の１つである県指定無形民俗文化財の「養蚕の舞」が披露されました。この舞はかつて群馬の基幹産業であった養蚕を伝える貴重な演目です。蚕の神様（絹笠大明神）から蚕の卵と飼い方を授かった農婦（女）が若者３人と蚕のふ化から桑の葉を与えて繭を作り上げるまでをおどけた仕草で演じました。上演中に舞台からお菓子などの供物が客席に投げられると来場者の拍手と歓声が上がりました。

**■配役**

| | | |
|---|---|---|
| 「岩戸の舞」 | 祖神手力男の命 | 下田　博 |
| | 岩戸廻し | 星野　俊之 |
| 「養蚕の舞」 | 絹笠大明神 | 諸田　友秋 |
| | 女 | 諸田　泰志 |
| | 若者（喜面） | 下田　雅史 |
| | 若者（口曲面） | 高橋　和芳 |
| | 若者（ヒョットコ） | 狩野　誠一 |

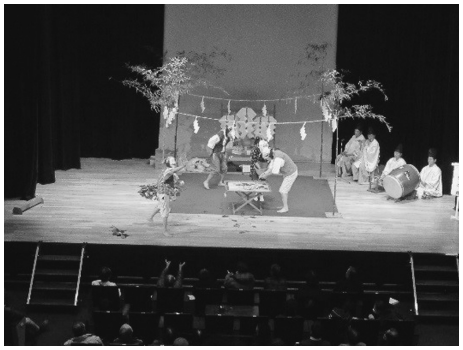
**■囃子**

| | | |
|---|---|---|
| 篠笛 | 諸田 | 孝・金古　俊之 |
| 大太鼓 | 斉藤 | 均 |
| 締太鼓 | 斉藤 | 浩 |

**■解説**　下田　弘二

「岩戸の舞」

「養蚕の舞」



客席にお菓子を投げる若者（「養蚕の舞」）

## 基調講演

# 神楽とは何か？　―群馬の太々神楽と里神楽―

関　孝夫（上尾市教育委員会）

### 1　神楽の種類

#### ⑴　獅子神楽

群馬県内の神楽は、大きく太々神楽・里神楽と獅子神楽に分けることができる。

獅子神楽とは、獅子頭を御神体とし、これを使って舞うことを儀礼の中心とする神楽で、三重県の伊勢太神楽や岩手県の山伏神楽が代表的な例とされる。

三重県の伊勢太神楽は、桑名市大字太夫の山本源太夫、森本忠太夫、山本勘太夫、加藤菊太夫、石川源太夫の５組が、年間を通じて近畿・中国地方と香川県を廻村して歩く行事で、国指定無形民俗文化財となっている。基本的には、獅子による祓いを行う民俗芸能であるが、放下芸系の曲芸を取り入れて発達したものであり、毎年12月24日には、５組によって増田神社での奉納がある。

山伏神楽は、権現様と称する獅子頭を御神体として舞う神楽で、檀家の家々を回って火伏や祓いをする。岩手県の早池峰神楽が代表的であり、日本海側では番楽、青森県下北半島では能舞ともいわれる。

一方で、群馬県内の獅子神楽は、県西部に集中して伝承されている。いわゆる２人立ち獅子舞と分類されるものであり、隣接する長野県では多く伝承されている。甘楽町では獅子神楽、神楽舞などと呼ばれ、轟の神楽獅子、天引の神楽舞、小幡八幡宮の神楽獅子舞、白倉の神楽舞、大山の神楽舞などが知られる。

伊勢太神楽（三重県桑名市）

轟の神楽獅子（甘楽町轟）

#### ⑵　里神楽と宮比講神楽

里神楽は、「江戸の里神楽」の影響を受けたものと考えられている。江戸の里神楽は、集落で伝承されるという形態ではなく、神事舞太夫・神楽師によって伝承されてきたもので、埼玉県久喜市の鷲宮神社に伝承されている土師一流催馬楽神楽を流祖とし、江戸時代中期以降に関東一円で行われてきたものである。形態としては、日本神話を中心した内容の黙劇であり、神楽面といわれる面を着けて舞うのが一般的である。明治維新を迎え宗教政策の転換のなかで、これまで神楽師が行ってきたものが、中教院直轄の教導職が行うものとして位置づけられるようになった。この際に演目の整理も行われたという。

江戸里神楽と同系統のさいたま市大宮区大成の松沢社中の神楽は、最初に三番叟（住吉三神）を舞い、そ

の後、蛇殺し（出雲神詠）、種蒔き（神明種蒔）、恵比寿様（敬神愛国）などが演じられ、最後に山神（磐長姫）を上演している。最初に三番叟を舞うのが基本となっており、この時、供えてある酒を三番御神酒という。この三番御神酒をいただかなければ、神楽は始まらないとされる。

栃木県佐野市鐙塚の神楽を宮比講神楽といい、栃木県指定無形民俗文化財となっている。この神楽については、文政年間（1818～1830）に神田の宮比という神社から伝授を受けたものであり、神田囃子系の里神楽といわれる。俗にひょっとこ踊りともいわれ、大蛇退治というように日本神話に題材を求める演目があるものの、観客の笑いを誘う茶番狂言を演じる特徴がある。この宮比講神楽も、最初の演目は三番叟となっている点が、さいたま市の里神楽と共通する。なお、演目としては、三番叟のほか、種蒔き三番叟、大蛇退治、はやぎつねの舞、恵比須の舞、葛の葉子別れ、ひょっとこの狐狩の舞、ひょっとこの山芋掘り、おかめの子守、ひょっとこの舞などがある。

群馬県内には、宮比講神楽として、桐生市広沢の賀茂神社太々神楽がある。この神楽は、文化12年（1815）に当時の神官である飯塚伊豆正が発起したもので、その後、明治初期に中断して明治15年頃再興されたものという。この神楽も最初に三番叟を行う。演目は、①白黒翁の三番叟之舞、②猿田彦之舞、③屑紙拾い三番叟之舞、④天の岩戸之舞、⑤大蛇退治之舞、⑥稲荷山の種蒔き之舞（餅撒き）、⑦蛭子之舞、⑧狐釣り之舞、⑨子守之舞となっている。このように、最初に三番叟を行うという形は、宮比講神楽の伝統を継承しているが、実際の内容は、天の岩戸、餅撒きを含む狐（稲荷山）の舞、蛭子の舞があるなど、群馬県内に広くみられる太々神楽に大変よく似た形となっている。

「はやぎつねの舞」鐙塚の宮比講神楽（佐野市鐙塚町）

「三番叟」賀茂神社太々神楽（桐生市広沢町）

### ⑶　太々神楽と愛嬌舞・興舞

日本の代表的な神楽の１つで、ユネスコの無形文化遺産にもなっている佐陀神能は、島根県松江市鹿島町佐陀の佐太神社に伝わる民俗芸能である。御座替祭で行われるもので、祭式色の強い七座神事と、翌日夜に演舞され法楽として行われる式三番・神能から構成される。また、広島県庄原市東城町などに伝わる比婆荒神神楽も、祭式色の強い七座の神事と大蛇退治などの神能で構成されている。このように儀礼的な舞と親しみやすい舞の組み合わせは、群馬県の太々神楽にもみられる。

群馬県で最もポピュラーな神楽は太々神楽である。その中でも東毛・中毛・西毛といった群馬県の南部地域の太々神楽は、儀礼的な式舞（神事舞）と親しみやすい興舞（愛嬌舞・裏舞）に分けて伝承している。

下南室太々御神楽（渋川市北橘町下南室）では式舞と愛嬌舞、二宮赤城神社太々神楽（前橋市二之宮町）では本座と裏座（興舞）、大島岡里神代神楽（館林市大島町）では式舞と興舞、高島天満宮太々神楽（板倉町大高嶋）では式舞と興舞という具合である。

下南室太々御神楽では、演目の１つ「養蚕の舞」が群馬県指定重要無形民俗文化財となっているが、愛嬌舞である。神楽は、御神迎え―返拝の舞―四神の舞―細目の舞―岩戸の舞―火の神の舞―四方固めの舞という式舞を演じ、その後、愛嬌舞である「養蚕の舞」などが演じられている。この「養蚕の舞」は、農婦が蚕の祖神・「絹笠大神」から習った蚕の飼育方法を若者に伝授する過程を表現したもので、そのやり取りが面

白おかしい内容となっている。

こうした、養蚕関係の神楽としては、春日神社太々神楽（前橋市上佐鳥町）の「蚕の舞」がある。現在14座の舞が上演されているが、このうち第９座目の演目として「蚕の舞」。ここの神楽では、前半には式舞が多く上演されるが、式舞と愛嬌舞は混在している。愛嬌舞の多くは、撒き物といって観客に餅などを撒くのも特徴の１つである。

「大蛇退治の素戔嗚命」比婆荒神神楽（広島県庄原市）

「蚕の舞（餅撒き）」春日神社太々神楽（前橋市上佐鳥町）

## 2　神楽の上演と演目

### ⑴　演目の基本的傾向

神楽の基本的な傾向としては、題材を日本神話に求めていること、そして黙劇であるということである。日本神話以外の題材もあり、場合によっては台詞のある神楽もあるが、これは本来例外である。ただし、日本神話中心の神楽は、明治時代以降の所産かもしれない。

上演する際には、神楽面といわれる面を着けて演じる神楽が多い。これも例外があり、最初の儀礼的な舞などでは、素面といって面を着けずに演じるものもある。また、手に鈴や御幣などを持って舞う。この手に持つ物を「採り物」と呼び、演目によって「採り物」が異なる例も多い。

上演する場所は、神楽殿と呼ばれる専用の舞台で行うのが一般的である。神楽殿には祭壇が設けられ、この祭壇に神を迎えて上演する例も見られる。一方で、里神楽では民家の座敷で行われることもある。この場合、舞場の正面に採り物などが置かれて、仮設の祭壇になっている。

また、群馬県の神楽の特徴として、撒き物がある。本来は、神前に供えられていた餅を、最後に観客に対して撒くのが基本であったと考えられる。現在では、適宜行われるものであるが、餅だけでなく、様々なものを撒き物として撒いている。

### ⑵　榛名神社神代神楽（高崎市榛名山町）

群馬県の代表的な神楽として、榛名神社神代神楽があり、平成15年に群馬県指定重要無形民俗文化財に指定されている。榛名神社は、古くから榛名山として信仰され、近世には満行権現として「坊」と呼ばれる山内にある多くの寺によって、その信仰が広く関東地方一円に広がっていた。

榛名神社の神代神楽は、本来、36座の演目が伝承されてきたとされる。このうち、現在では男子舞９座、巫女舞５座、合計14座程度が伝承されている。２月15日が神楽始式であり、５月５日の端午祭、５月８日の神輿渡御祭で上演されるほか、本来は榛名講による奉納などで上演された。

神楽殿は、榛名神社の本社と向かい合うように立地し、舞台の高さは本社の高さに合わせて建っている。この建物は、「榛名神社の神楽殿」として国指定重要文化財となっている。この神楽殿で、神楽は榛名神社と正対するようにして奉納されてきたのである。また、神楽殿から本社に向かって左側に国祖社・額殿がある。ここは、神楽殿の舞台と同じ高さとなっており、神楽を奉納した榛名講の講社の人々が見学する場所と

なってきた。そもそも額殿とは、神楽を奉納した榛名講の講社が、奉納したことを額にして寄進したものである。昭和40年代まで神楽を行う人たちは、特に代参のある春先には、毎日神楽殿に出勤していたという。神楽殿から代参者に声をかけて神楽の奉納を勧めていたもので、三座神楽とか五座神楽といった神楽は、こうしたときに奉納してもらうための簡易な神楽であった。三座神楽は六合固め―御幣神楽―天狗、五座神楽は六合固め―御幣神楽―鯛釣り―左右清目―天狗といった具合であった。

現在、伝承されている14座の神楽は次のとおりである。

①六合固め（岐神六合堅）、②御幣神楽（三輪之式）、③翁（老翁鎮悪神）、④天狐（天狐乱護）、⑤扇神楽（末広清目）、⑥鯛釣り（海宮遊行）、⑦柄杓（身曽貴舞）、⑧鍛冶屋（神劔御調）、⑨種蒔き（神明種蒔）、⑩太刀神楽（多伊波久）、⑪稲刈り（草薙宝劔）、⑫神満祢貴、⑬天狗（悪神劔掃）、⑭餅撒き（山神之祭）

これらの神楽演目のうち、①・②・③・⑥・⑦・⑬は１人舞、④・⑤・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑭は２人舞である。また、②・⑤・⑦・⑩・⑫は巫女舞である。これらの巫女舞は面を着けずに舞う素面の舞である。こうした巫女舞は、群馬県内で上演する事例は少ないが、西毛地方から埼玉県にかけて、座と座の間をつなぐ舞として存在していた傾向がある。

①の神楽は、宮司によって演じられる素面の舞である。六合（国）固めというように、場を清める舞であり、儀礼的な舞となっている。また、⑭は演目名のとおり観客に対して餅撒きを行う。

なお、榛名神社神代神楽は、太鼓・大拍子・笛による演奏に合わせて上演するものである。しかし、平成20年頃から唯一の笛の伝承者が出られなくなり、現在は笛の演奏ができない状態となっている。

「六合固め」榛名神社神代神楽（高崎市榛名山町）

「御幣神楽」榛名神社神代神楽（高崎市榛名山町）

### ⑶　咲前神社太々神楽（安中市鷺宮）

咲前神社太々神楽は、鷺宮の鎮守である咲前神社の例大祭に奉納する神楽で、昭和54年に安中市指定重要無形文化財に指定されている。例大祭は現在４月１日であり、この日神社の境内には、一の市といって市が立つ。市に出る店の数としては食べ物が圧倒的に多いが、現在でも籠屋や鍛冶屋を基本とする店が各１店ずつ出ている。

この神楽は、伝承では高崎市石原町の小祝神社から伝えられたとされる。神楽殿の額には、文化12年（1815）の銘があり、このことから平成27年には神楽奉納200年を迎えた。これを記念して神楽殿改修、記録映像制作、記念誌作成と記念祭を行っている。神楽殿は、参道の本殿に向かって左側にある。

この神楽は、咲前神社太々神楽保存会が保存団体となって継承している。すなわち氏子全体、地域全体が保存会ということである。一方で、実際に神楽の技術を伝承しているのは神楽技能者である。本来、伝承者は、大字鷺宮の神社の周辺である宮本地区の長男に限られていた。現在では、長男に限ることはなく、他所から移住してきた人も対象となっており、伝承地域も大字鷺宮全体となっている。

伝承されている演目は12演目である。ただし、最初と最後に上演されるのは、「猿田彦大神」である。いずれも四方祓の舞であるが、採り物が最初に舞う際は鉾、最後に舞う際は太刀となる。また、最後の「猿田

彦大神」には踏み足の所作もない。このため、これを含めると13演目となる。

①猿田彦大神（四方祓・鉾）、②伊佐那岐命・伊佐那美命（国造の舞）、③鹿島大神・香取大神（大神慰の舞）、④細目命・太刀雄大神（天の岩戸）、⑤誉田別大神（弓引きの舞）、⑥稲倉大神（苗代種蒔の舞）、⑦天津摩良大神（刀鍛冶の舞）、⑧両刀（草薙宝剣）、⑨天狐（ヒョットコ・餅投げの舞）、⑩松尾大神（神酒造りの舞）⑪素佐之男大神（大蛇退治の舞）、⑫事代主命（鯛釣りの舞・餅投げ）、⑬猿田彦大神（四方祓・太刀）

このうち、⑨天狐と⑫事代主命で餅投げを行う。古来は、菱形の菱餅だけであったが、近年では小さなダルマや菓子、カラーボールなども撒いている。このような餅投げを行うのは後半であるが、前半は天の岩戸が中心となっている。

12演目の中で、①・⑤・⑧・⑩・⑬は１人舞、②・③・④・⑦は２人舞である。いずれも様式的な舞であるが、２人舞の④細目命・太刀雄大神（天の岩戸）と⑦天津摩良大神（刀鍛冶の舞）はそれぞれストーリーを感じさせる舞である。一方、⑪素佐之男大神（大蛇退治の舞）は３人舞であり、明らかなストーリーのある舞。⑥・⑨・⑫はヒョットコの登場する舞であり、⑥・⑨は３人、⑫は３～４人の舞である。

咲前神社の一の市（安中市鷺宮）

「八岐大蛇・素佐之男大神」咲前神社太々神楽（安中市鷺宮）

### ⑷　下南室太々御神楽（渋川市北橘町下南室）

下南室太々御神楽は、下南室の鎮守である赤城神社の例大祭・４月第一日曜日に奉納される神楽である。この神楽は、神事舞である式舞７座、滑稽な仕草で舞う愛嬌舞20座、合計27座で構成される。この神楽は、昭和45年に当時の北橘村により指定文化財となっており、現在は合併に伴い渋川市指定重要無形民俗文化財となっている。

この20座ある愛嬌舞のうち「養蚕の舞」が、平成24年に群馬県指定重要無形民俗文化財に指定されている。養蚕の給桑から上蔟までの手順や仕草を丁寧に描写したものであり、群馬県の主要産業である養蚕に関する神楽演目として貴重なものとされている。

かつては、下南室の赤城神社、三夜沢の赤城神社、旧荒砥村の産泰神社の３社の神官や修験者が中心となって奉納していたという。その後、明治５年の神仏分離と同時に、修験者の廃止などがあり、神楽も衰退した。これを下南室赤城神社の神官・金古常陸介が、武州御嶽神社の豊穂教会の神楽を受け入れ、囃子は明治15年に女淵村（現在の前橋市粕川町）から伝授をうけ、明治16年には神楽講の許可があったという。

この神楽の伝承は、下南室自治会全体が保存会となっている。このため、保存会長は自治会長である。一方、伝承を行うのは講長を代表者とする集団である。講長は、初代が金古常陸介であり、現在34代目となっている。

現在伝承されている演目は、次の14演目である。

①御神迎え、②返拝の舞（大天狗・小天狗など４人）、③四神の舞（木々知之命・加久槌之命・金山彦之命・水花目之命）、④細目の舞、⑤岩戸の舞（手力男命）、⑥火の神の舞（加久槌之命）、⑦四方固めの舞（像儀の舞、大国主命＋天若彦之命）、⑧種子蒔きの舞（稲荷大明神＋白狐など５人）、⑨大工の舞

（八意天之思兼之命ほか）、⑩養蚕の舞、⑪鍛冶屋の舞（天之目一之神ほか）、⑫鯛釣りの舞（大国主之命）、⑬蛸釣りの舞（河童三番叟、恵比須様＋河童など）、⑭玉取りの舞（姫神＋鬼＋須佐之男命＋医者ほか）

このうち①御神迎えは文字どおり神迎えであり、①から⑦までが式舞である。④細目の舞と⑤岩戸の舞が天の岩戸の舞となる。⑦は像儀の舞で問答がある。この式舞が終わるまで、赤城神社境内の露店の開店すら許さないとされる。

⑧から⑭までが愛嬌舞である。演目が農業、大工、養蚕、鍛冶、交易、漁撈などを教える舞とされる。特にこのうち⑩の養蚕の舞は言うまでもなく養蚕を教える舞である。

「養蚕の舞（繭をつめる）」下南室太々御神楽
（渋川市北橘町下南室）

「四神の舞」下南室太々御神楽
（渋川市北橘町下南室）

### ⑸　春日神社太々神楽（前橋市上佐鳥町）

春日神社太々神楽は、上佐鳥町の鎮守である春日神社の例大祭・５月３日に奉納される。昭和49年には前橋市指定重要無形民俗文化財として指定されている。産泰神社から明治時代中期に伝承されたものといわれ、次の14座で構成される。

①二人天狗ノ舞、②四柱ノ舞（素面）、③猿田彦ノ舞、④細目ノ舞、⑤餅搗ノ舞（餅撒き）、⑥戸隠ノ舞（岩戸開き）、⑦剣ノ舞、⑧鍛冶屋ノ舞、⑨蚕ノ舞（餅撒き）、⑩春日ノ舞、⑪明神ノ舞、⑫大工ノ舞（餅撒き）、⑬火神ノ舞、⑭種蒔ノ舞

「蚕の舞（蚕を見せる）」春日神社太々神楽（前橋市上佐鳥）

この神楽では、式舞は８座、愛嬌舞は６座で混在している。①、②、③、④、⑥、⑦、⑩、⑬は式舞、⑤、⑧、⑨、⑪、⑫、⑭は愛嬌舞であり、撒き物は愛嬌舞で行われる。

前述のとおり、この神楽の愛嬌舞として蚕の舞がある。おおよそ下南室太々御神楽と同様であり、養蚕の掃き立てから上蔟までの所作を行うもので、繭の出荷を祝い、縁起物として撒き物をするのだという。なお、緒端の天狗の舞―四柱の舞―細目の舞―戸隠の舞（岩戸開き）という流れも、下南室太々御神楽と同様である。

神楽の上演は神楽殿で行われる。神楽殿は、春日神社本殿に向かって参道の右側にある。

### ⑹　大島岡里神代神楽（館林市大島町）

大島岡里神代神楽は、館林市大島町の大島神社の例大祭である４月15日に近い日曜日に奉納するのが基本

である。このほか、板倉町西岡・除川、藤岡町大前・東原・藤岡などの神社から依頼されて奉納している。

演目は次の12演目である。

①幣舞武者（素面・四方堅め）、②翁、③児屋根（天の岩屋前）、④太玉（天の岩戸前）、⑤細女（天の岩戸前）、⑥戸隠（岩戸はがし）、⑦天狗（作神で悪霊を払う）、⑧金山（鍛冶屋）、⑨恵比須（餅撒き）、⑩大黒（餅撒き）、⑪狐（種蒔きの舞・餅撒き）、⑫山神（残りの餅撒き）

「恵比寿（餅をつけて釣る）」大島岡里神代神楽
（館林市大島町）

このうち、①から⑦が式舞、⑧から⑫が興舞である。現在では①、②、⑤、⑥、⑦、⑨、⑩などが主として上演されている。興舞ではその多くで餅撒きが行われる。特に⑨の恵比須では、釣り竿の先に餅をつけて、観客がお金と取り換えて釣り上げさせる。これを何度か繰り返すが、この間、撒き餌と称して餅を撒く。

板倉町大高嶋の高鳥天満宮では、大高嶋で神楽の保存会がある。ここでは大島岡里神代神楽の指導を受けて、平成29年からは大高嶋だけで太々神楽の奉納を行っている。現在上演しているのは、天狗・金山・夷（恵比須）・戸隠で、夷では釣竿の先に餅をつけて、観客がお金を取り換えて釣り上げさせている。

### ⑺　折田太々神楽（中之条町折田）

折田太々神楽は、中之条町折田の報徳折田神社の例大祭である９月27日に近い日曜日に奉納されるのが基本である。神楽は神楽殿で上演され、神社本殿に向かい合うように建てられている。ただし、正対している訳ではなく、やや正面から外れた形になっている。演目は次の12演目である。

①雲切り（国常立命（くにのとこたちのみこと））、②鏡砥ぎ（石凝姥命（いしこりどめのみこと）・神鏡を造る）、③住吉大神、④岩戸開き、⑤苗代狐（雄狐・鍬）、⑥地神様（種蒔き・餅撒きあり）、⑦八幡様（害虫を追う）、⑧稲刈り狐（雌狐・鎌）、⑨酒造り、⑩二刀の舞（大蛇退治・叢雲の剣）、⑪恵比寿の舞（事代主＋河童、餅撒きあり）、⑫結び

「岩戸開きの天手力男命」折田太々神楽
（中之条町折田）

この神楽では、最初の演目を雲切りという。天地開闢の際に現れた国常立命の舞であり、根源神として教派神道では重要視した神である。まだ混沌とした整わない世を、切り払う舞としている。前半には天の岩戸、後半には大蛇退治を配しており、途中、⑥地神様（種蒔き）と最後の⑪恵比寿の舞、⑫結びで餅撒きを行う。

## 3　太々神楽の変遷

### ⑴　古い創始伝承

群馬県の神楽として、古い創始伝承としては、貫前神社、赤城神社、榛名神社、総社神社などの神楽が明治以前の創始伝承を持っている。ただし、当然であるがこのほかの太々神楽についても、江戸時代からの流れを感じさせるものも多い。

特に、榛名神社と貫前神社については、明治以前の上演について伝承がある。貫前神社太々神楽は、明治

初年に神楽を行う社人がいなくなり、帰農した民間人の手によって継承されたとされる。榛名神社神代神楽は、明治時代以降に門前の住民も伝承に参加するようになったとされる。

一方、総社神社太々神楽は、赤石家の祖先が神道管領から伝承してきたが、特に第２次世界大戦以後は青年有志によって伝承されてきたという。

### ⑵　明治維新と教派神道

神楽については、神社で神に対して奉納するという性質上、明治維新を迎えて大きな転換点を迎えた。これは廃仏毀釈や宗教政策の転換や国家神道の導入など、神楽を巡る周辺環境が大きく転換したためである。

基本的に神社附属の神楽については、一般的に保護される傾向であった。群馬県に隣接する埼玉県児玉郡神川町の金鑽神社では、出自の異なる周辺の神楽を金鑽神楽〇〇組と称し、武蔵二宮の金鑽神社の神楽としてまとめている。このように神楽を調整していく傾向もあった。調整は、余興的な部分に関しても行われたという。また、こうした中で神楽の一部については、遊芸人鑑札を所持し、芸人として公演を行うという形式も見られた。

さらにもう一つの方向性として、教派神道の傘下に入ることによって、神楽を続ける例も見られた。こうした教派神道の教会の講社として豊穂教会との関連がある。教派神道の神道修正派や豊穂教会と、群馬県の神楽のかかわりについては、森林憲史氏の論に詳しい（例えば「群馬県内の「御嶽流・豊穂講神楽」」『民俗芸能研究第54号』）。

前述したように、渋川市の下南室太々御神楽は、衰退していった神楽を、武州御嶽神社の豊穂教会の講社となり、明治16年に認可されたという伝承を持つ。さらにこれにかかわった元神官の金古常陸介は初代の講長となっている。

また、東吾妻町郷原の関庄八は、明治15年に神楽講を組織し、武州御嶽神社の神楽を継承したという。神楽を伝承している松谷神社の境内には、境内には神楽講20年記念碑。台座に「豊穂教会講社大講長関庄八」と小講長７人の名がある。神楽は「豊穂教会本院神道直轄太々神楽」と称するという。

一方で、江戸時代末から明治にかけての時代に、現在の前橋市城東町諏訪神社の隣に居を構えた馬場美豆穂は、御嶽神社を建てている。馬場美豆穂は、武州御嶽神社の御師の家系で、布教のために単身前橋に移った。この御嶽神社から伝授を受けた神楽は御嶽流を名乗ったという。

以上のように、直接の伝授関係を検証することは難しいが、明治維新の宗教政策の中で、教派神道のみが布教を行うことが可能であるなかで、神道本局や神道修成派とのかかわりがあったことが考えられる。

# 「神楽の継承と課題」

**パネリスト**

榛名神社宮司　佐藤　眞一
下南室太々御神楽講講長　下田　弘二
下南室太々御神楽講副講長　諸田　友秋
咲前神社太々神楽保存会会長　森泉寿義雄
咲前神社太々神楽保存会副会長　田中　米壽

**コーディネーター**

上尾市教育委員会教育総務部次長　関　孝夫

---

当日の雰囲気を伝えるため、話し言葉のまま掲載します。

**関**：それでは、拙い進行ではございますが、シンポジウムを進めさせていただきます。今回のシンポジウムの狙いですが、まず１点目は、県内神楽に対する関係者や県民の皆さんの理解を深めること。２点目は、神楽の今後の在り方について考える機会を提供すること。この２つがこのシンポジウムの大きな目的となっております。シンポジウムでは、３つの団体の方々に現状と課題について語っていただきます。私も先程の講演で少し話してしまいましたが、特徴や歴史的な背景を踏まえて自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、榛名神社の佐藤宮司からお願いいたします。

**佐藤**：ご紹介いただきました榛名神社の宮司の佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。榛名神社のお神楽ということで、前半の関先生のお話の中にもありましたが、建物が立派で、神社の神楽としては36座の演目が伝えられています。現在はそのうち

榛名神社の神楽殿と額殿（高崎市榛名山町）

（左から）コーディネーター関氏、パネリスト佐藤氏
下田氏、諸田氏、森泉氏、田中氏

４割の16座が我々の舞う神楽になっております。本来であれば保存会会長さんがお出でになるところですが都合が悪いので、神楽をやっている宮司がお邪魔した次第でございます。榛名神社の神楽は今から300年近い昔の享保13年（1728）の記録の中に、２年前の1726年丙午の年に60年に一度の大祭がございます。その年に、絶えていた神楽が再興された記録が残っているということで、神社の御師（おし）と言う、神社に奉仕する家々の中から24人が選ばれて12人で２組の神楽組織が整えられました。その12人が交代で神楽殿に毎日詰めて、参拝のお客様から神楽奉納の依頼があればその場でお金を頂いて舞うというやり方をずっと昭和の40年代くらいまでやっていたと聞いております。私が子供の頃のお祖父さんの時代は、お巫女さん２人とお囃子の方が５、６人で毎日お弁当を持って榛名神社の神楽殿に詰めていました。３月から11月の末までお客さんが来るか来ないかは分からないけれど神楽殿に詰めて、神楽の奉納者がいればその場で神楽を上げていたということでございます。榛名神社は神代舞という名前でございますけども、先生が先程おっしゃっておられま

した太々神楽という形です。榛名神社は36座全部、奉納でお金を出していただいた方に奏上する太々神楽です。その次に22座に数を落として舞う神楽を小神楽。その他に13座の舞。それから７座神楽。５座の５座神楽。３座神楽。そして巫女さんだけが舞う花神楽という名前を付けて演目の数が違う神楽で上げていたと言われております。40年代に私が子供の頃見た神楽は、そういった方が神楽殿に詰めて御参拝の皆様に「ようこそ榛名神社にお参りになりました。ついては是非、この榛名神社のお神楽をお上げくださいまし」ということで、竿の先に袋、今でいう網を出してお客様からお金を頂いたら「（ドンドンドン）頂きました」と言って締め太鼓が鳴って、お神楽をすぐ奏上したというのを覚えております。神楽は今言ったように24人編成でやってきたわけでありますが、明治の初めになりまして、明治維新で神仏習合だった時代が終わって、お坊さんたちが榛名山を去って、お坊さんから神主に還俗した方がそのまま残ったということです。その中にお神楽をやっていた方々も榛名を出なくてはならなくなりまして、衰退したわけです。先程、話にありましたとおり明治の中頃になってからは色々と難しい政策が出てきて、大正の半ばになってくると人数が減り、お神楽をその家だけでやるのではなくて、氏子の家の中からでもやりたい方もやっていいということになり、また勢いを盛り返すわけです。太平洋戦争に若い人が出されてしまって、戦後また衰退しました。残ったお年寄りから若い方が習って、今現在につながっているわけです。そうした中で、榛名山という場所柄、豊作の神様ということで、先程の講演の中でも埼玉県にもたくさん榛名講があったということで、関東一円に榛名神社の榛名講、お札を持ち帰って豊作が続いたと。皆交代でお札を貰っていたのを全員で参拝してお礼のお神楽を上げようと。一番デラックスな太々神楽を上げようということで36座上げるとなると、その記念のためにも自分たちの名前を記した額、奉納額を掲げたのがお神楽拝見場です。そこに太々神楽を奉納した方々のお名前を記録した額を納めているものですから、額殿という名前になって、あの場所でお神楽を見るようになっております。額の中には文化財級の額縁もございます。大体、宝暦年間から文化年間（1751～1818）までの額が沢山残っております。現在は我々神職が中心となってお神楽の練習をやっております。そして、巫女舞も女性の神職の方、また氏子の中の女性の方と先程写真の中にお二人が写っておりましたが、そうした方々に習ってもらって現在、榛名神社の太々神楽が行われている現状にあります。

**関**：ありがとうございました。榛名神社の神楽は、群馬県の指定重要無形民俗文化財となっており、祭日である５月５日に奉納されます。この後にお話いただく下南室太々御神楽の「養蚕の舞」も同じく県指定の民俗文化財です。それでは、続きまして下南室太々御神楽について副講長の諸田さんから団体紹介をお願いしたいと思います。

**諸田**：下南室太々御神楽講の諸田です。どうぞよろしくお願いします。私ども下南室太々御神楽は、二百数十年の歴史があります。式舞７座、愛嬌舞20座の27座があり、天下泰平、五穀豊穣、無病息災を古式ゆかしく祈願する地域住民のお祭りとして、毎年４月の第１日曜日に下南室の赤城神社で講員によって厳かに奉納しています。主立った活動といたしましては、４月の第１日曜日の例大祭。それから渋川市横堀の大山祇神社での奉納。11月に行われる渋川市総合文化祭での郷土芸能発表会に出演しております。４月の第１日曜の祭礼については、多くの方に神楽の鑑賞と祭りの楽しさを経験していただきたいと思います。お友達をお誘いの上お出かけください。よろしくお願いいたします。

赤城神社の例大祭（渋川市北橘町下南室）

**関**：下南室さんにつきましては、この後、実際に神楽上演がございますので、たっぷり楽しんでいただければと存じます。それでは、最後に咲前神社太々神楽保存会長の森泉さんから団体紹介をお願いします。

**森泉**：安中市鷺宮地区に咲前神社という神社がございますが、そこで舞っている太々神楽です。神楽殿に奉納額がございまして、そこに文化12年（1815）

と記されています。それをもとに一昨年、平成27年に二百年記念事業を行いました。実はその事業の中で調査をしたところ、それより10年以上前の奉納額が見つかりました。多分、神楽殿を作り、奉納するまでには相当の年月がかかるということなのかと。だとすると、二百数十年は経っている神楽であろうと思っております。舞ですが、毎年４月１日に神社の例大祭、春に毎年市が３回立ちますが、その一番市に合わせて奉納しています。曜日は関係なく４月１日に行われます。舞は13座ありまして、実質は１座目と13座目が同じですので、演目としては12座です。13座全てを行いますと、10時から始めて午後の３時半頃までやっております。長い時間舞っておりますので、ぜひ時間を見つけて来ていただきたいと思います。

今日は、シンポジウムのテーマが継承と課題ということなので、ちょっと私から。この神楽が復活したのは昭和50年です。それまでは色々な事情で中断もありました。復活以降は毎年４月１日にお囃子をいれて13座全て行っています。なぜ、神楽が毎年奉納できるかということをお話ししたいと思います。まず１点目は、神社関係者のおかげで春の例祭、一番市が盛大に行われていること。その様な状況でありますから、舞う方も励みになっています。２点目は、21人舞う人間がいますがお互いが舞えるように全ての演目、少なくとも数演目舞えるように日々努力しております。続いて３点目は、保存会の話になりますが、私ども保存会は地元約650世帯から年会費をもらっております。そういう意味で、実は各地区の自治会長全員が保存会の役員をやっております。ですから、地域郷土の結びつきが強い。また、そういったことがあるから舞う方も誇りにもなっている。そして地域からの支援、協力があると言う点が毎年滞りなく実施できている理由だと思います。

**関**：そう。先程、一番市のお話しがありましたが、今年は４月１日が日曜日ということもありまして、たくさんの人がお見えになっていました。かつても、やはり一番市の日に農具などを揃えるものですから、かなりの人の参拝があったと聞いております。例大祭が定例のため平日にあたることがあり厳しい分もあるのでしょうが、今のお話を聞いておりますと頑張っているということが分ります。

さて、伝承をやっていく中で欠かせないのが芸態の記録になってくると思います。下南室さんは、実は平成26年に映像の記録を作っておられます。今日は神楽上演がありますので映像を流しませんが、榛名神社から伺っていきたいと思います。佐藤宮司、榛名神社では映像の記録を撮っておられますか。

**佐藤**：そうですね。平成２年にふるさと創生事業というものがありまして、その時の旧榛名町の一億円。これを地区でどのような使い方をするのかということがございまして。榛名山地区では、榛名神社の神代舞を保存するための映像記録を作ることになりました。

**関**：あの、ふるさと創生事業ですか。お作りになった映像は、平成２年ということですね。

**佐藤**：そうです。

**関**：それでは、実際に映像を見てみましょう。今日は、２つの舞について実際の映像を見ていただきたいと思います。音声も入っております。まず、「末広清目」の扇神楽ですね。続いて「天狐の舞」を見ていただきます。この日はかなりの雪ですね。

― 映像上映「末広清目」「天狐乱護」 ―

咲前神社の例大祭（安中市鷺宮）

榛名神社神代舞保存会「榛名神社神代神楽」1990年

**関**：ということで、２つの舞の映像をご覧いただきました。さて、宮司。ご覧いただいて、今どう思いますか。今と比べていかがでしょうか。

**佐藤**：そうですね。皆さんがご覧になったとおり、雪が降っていて見づらかったと思いますし、また当時はVHSの時代ですので鮮明ではありませんから、大変見づらかったと思います。平成２年ですから、今から27年前の映像ですか。お囃子の方々は、ほとんど亡くなられて残っておられません。そうした映像を見て我々は踊っている。またはお囃子の音を今もこうして聞くわけであります。実際にこれが記録ですから、今見た神楽が良かったのか、悪かったのかというのは、皆さんには分からないと思いますね。これを見た方は、この神楽が本当だろうと思われるのでしょう。実際に天狐で舞われた方々の舞も、舞っている人たちの形で行っているわけですから。実際に私どもは大先生から教わった狐の踊り方、足の上げ方、進み方。全部、個人の独特のやり方でやっておりますので、これが全部このまま伝わるのが良いのか悪いのかとなりますと、映像を作るということは非常に責任が重い部分があるのかなと感じております。

**関**：今日の結論が見えてしまった気もしますけれど。実は、この映像の前にも榛名神社さんは映像を１本制作されていますよね。そちらを上映しても良いのかなとも思い、16ミリフィルム（昭和29年制作）になっているのを見てみたのですが、映像が粗くて無理かなと思いました。でも、そっちの方は、そっちの方で、またなかなか神楽の技術が高いと。

**佐藤**：そうですね。今の天狐をご覧になると、古い昭和28年代位の映像で踊られている天狐の踊りはびっくりするほど立派で、驚くような踊りです。

**関**：古ければ、古いほど良いという話にもなりますが。でも、やはりいつかの段階で一回記録をしておかなければならないと思いますね。無形文化財とはそうじゃないですか。今日私も先程、講演で話しましたけど。これも芸能なのかな。あれと同じ話し方をしろと言われても無理ですね。出来ません。やはり、芸能ってそういう意味では一過性のものということがあります。でも、最低限のラインもあるのかなと思っている部分があります。またこの話題は考えてみたいと思います。もう一つ、咲前神社の映像記録ですが、皆さんにお配りしている資料があると思いますので、ご紹介いただければと思います。

**森泉**：奉納神楽は二百年記念という事業の一環で、DVD制作を行いました。相当大がかりな記録となっております。正面にカメラ２台、神楽殿内に定点ですがカメラ３台、神楽殿内にマイク３台を設置しました。その成果記録を有料ですが、こういったものを作っております。これを作った理由ですが、今日のテーマに関わりますが、いかにこういった文化を後世に伝えていくか、ということが私どもの方からも出まして２種類の映像記録を制作しました。完全記録版は一日見ていないと終わらない内容です。これでは見ている方も大変ということで、もう一つダイジェスト版を制作いたしました。この事業が出来たのが200年目という節目の年で、県の「群馬のふるさと伝統文化支援事業」から３分の２の補助をいただいて実施しました。これを作るにあたっては、単にこれが記録ということだけではつまらないだろうと。将来これが伝承に耐えうる記録にしたいということで、長時間５台のカメラで撮っておりますから大変でした。それと合わせて、将来のためということで『二百年記念誌』も制作いたしました。この中に細かい所作や舞方の説明、解説がなされています。これと合わせて映像を見ると、我々がそのうちいなくなっても、万が一の場合にも平成27年の舞は復活出来るように考えております。ダイジェストのDVDは、小学校や教育機関、県の図書館などにも随分送りました。一つは宣伝周知、啓発。これを見て、学校の教材としても使えるようにと、短いものにいたしました。もし補足があれば、副会長の方からお願いします。

鷺宮咲前神社太々神楽
伝承教本全５巻DVD(左)・ダイジェスト版DVD(中)・
二百年記念誌(右)

**関**：田中副会長。この映像は完全なものなのでしょうか？

**田中**：奉納二百周年記念事業でこの事業をやったのですが。私も実際に踊っているうちの１人です。私も踊って、引き継いで42年目になりますか。私の親父さんの代から私が引き継いで42年。始めた頃は「あれ、どうやって踊ったのかな」と。そのうち親父さんが亡くなり、先輩も亡くなり、ここはどう踊ったのかなという話が出てきて。このままでは大事な所作等も引き継いでいけないということで、会長が先程おっしゃったとおり、記録に残すことが重要だろうということであります。残すのもただ一遍に残すのではなくて足の運びは、天井からカメラを置いて、足を右から左。どう回るのか。四方固めとか。そういった所作までが見られるような形です。また、笛や太鼓の音等も舞と併せて、一括で分かるよう５台のカメラで撮ってあります。それを見ますと、現在までの踊り方は継承できるのかなと思います。これを思いますと、世界に一つしかない太々神楽なのかなと。こういった文化、芸能は難しいので大変こういった面が苦慮される点でありますけれども、現時点では、現在の芸態は留められるのではないかなと思っております。

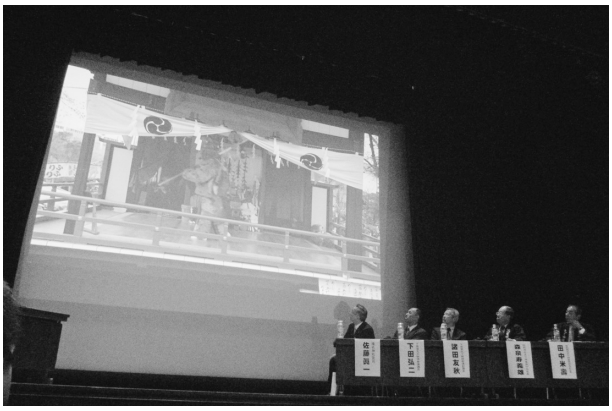
**関**：なるほど。お話を聞いたのですが、映像内に間違っているところがありますよね。

**田中**：４月１日の例大祭一日で映像を撮りましたので、間違いも映像内にあります。それはそれなりに、私どもは分かっておりますけれど。見る方はあれが正解なのかと思うはずです。これは口伝いに、見ながら後継者に伝えていきたいということであります。一日で撮影するものですから、踊り手もあがってしまい所作等が若干違った点がいくつかありますが、ほぼ98％の出来といったところでしょうか。

**関**：ありがとうございます。わざと意地悪で質問しましたが、実は重要なことなのです。それを伝承する人たちが分かっていることが重要なことですよね。それを伝えていく事もまた重要なことだと思います。先程、佐藤宮司がおっしゃっていたとおり同じ事は出来ない。機械じゃないから。生きた意味での伝承であるのかなと思っております。ここでダイジェスト版ですが、咲前神社太々神楽の映像を見ていただきましょうか。「猿田彦の舞」という最初と最後に舞う舞をご覧いただきます。ダイジェスト版の解説入りです。

**関**：ありがとうございました。映像を見ていると、５か所のアングルで撮影されていました。お気づきになったと思います。上の方から、囃子の方から、正面からなど。これは新しいやり方だと思いますし、まさに世界にたった一つの咲前神社の太々神楽ですね。それをきちっと、伝えていこうとする意欲が伝わってきました。よくできている映像です。先程、お話の中にもあった群馬県の文化振興課が行っている「群馬県ふるさと補助金支援事業補助金」というパンフレットを見かけますが、皆さんはご存じでしょうか。これを活用された映像記録ですね。下南室さんもこの補助金を活用して、DVD を作られましたよね。

― 映像上映「猿田彦の舞」 ―



鷺宮咲前神社太々神楽奉納200年記念事業実行委員会・鷺宮咲前神社太々神楽保存会「鷺宮咲前神太々神楽」2015年

**下田**：下南室太々御神楽は、平成26年度の支援事業補助金で映像（DVD）を制作いたしました。実際には27座ありますが、式舞12座と愛嬌舞５座を収録しました。

**関**：せっかくですので、今、保存会の関係者の方々がいらっしゃいましたら、ぜひこういうものを活用していただければと思います。こういった補助金等を活用していただきながら、映像記録制作や、修繕などを行って欲しいと思います。逆にこういった事業があると、県民にとって非常に有り難い事なのかなと思います。

さて、記録媒体で記録をして、それが後々まで残っていくということは、尊いことだと思っており

ます。そんな中で榛名神社も神楽のことに関しまして伝承者のことは苦戦されているということですが、特に笛がいないと聞いております。その辺についてどの様にお考えでしょうか。

**佐藤**：榛名神社は、現在笛がない状況になっておりまして。どうしてこの様になったかと言いますと、榛名神社のことに限らないと思いますが、神楽というのは同じ演奏でずっと舞っているわけではないですね。それぞれの演者が、あるところの場所でこういう事をすると決まっている。その決まった動作に入る時は、笛はこう吹かなければならないと決まりがあってですね。笛を吹く人は、踊りが分からないと笛を吹いてもしょうがないという教えがありました。ですから、我々がどこまでいけば笛を教えてもらえるのかと思っておりました。そういうことをしているうちに指導者が先に亡くなってしまい、非常に今現在は難儀しているところでございます。笛の場合は、口で教わらないと吹けないですね。今のこのビデオテープを見て吹けるだろうと言われても、伴奏に合せて踊れれば上手な人は吹けるかもしれません。実際に笛を吹く方が咲前神社さんでも神楽殿の楽屋入口で見て吹いていましたよね。ですから、踊る人が何をしているのか分かっていて笛を吹いていますから。笛を吹く方は踊りが分からないと吹けないのは当たり前ですね。笛を吹くためには、まず舞を習得して、そして太鼓、締め太鼓あるいは大太鼓、手拍子の鉄具を叩く。熟練の人たちが伴奏にまわるというのが、恐らくどこの神楽の団体さんでも同じだろうと思います。ですから、これから榛名神社の神楽の中で笛は同じ伴奏で踊る違う踊りもあります。この辺も記録という作業の中ではこの笛はこの踊りとこの踊りという目安がつきます。また、ビデオを見まして、どの踊りにはどのお面で、どの毛の色で、どの長さということが記録に残っていないと。楽屋部屋には、どの舞のどれということが書いてありますが、上と下の袴の合わせなどはほとんど経験だけでやっております。そういった部分では、記録の画像というのは貴重なものであると感じます。ただ、私どものように笛が一度途絶えてしまうと、なかなか難しいと考えています。

**関**：佐藤宮司ご自身がかなり伝承者として技術的に高いです。最初にお伺いした時に「狐はね、天狐はね」と、ご自身で動き踊り出してくれました。今日はやってくれなかったですけど。

シンポジウム会場内

やっぱり芸に厳しいと、どうしても笛についてもこうあるべきという話があると思います。それで笛がないと、皆さんはどうかと思うでしょう。でも神楽を見てみると、ちゃんと成り立っています。そういう意味では、笛のない榛名の神楽はしっかりしているなと思っていたところであります。今後とも伝承を続けていきながら、もしなら笛の復活を今度どの様にやっていかれるのか気になるところです。その辺はどうでしょうかね。

**佐藤**：一昨年に、旧群馬町の金古諏訪神社の上原先生に「笛を吹くには耳で聞かないとなかなかできない」ということで。笛の音だけを今の伴奏の中から分離していただいて、音声を取り出しました。そこから入っていかないと無理かなと思っております。

**関**：これは先が長い話しかもしれません。技術的にも難しい部分もあるかと思いますけれども、いろいろと頑張ってもらえればなと思います。

続きまして２団体に関しましては、今までの私の常識とは異なる伝承の見解をお持ちかなという印象です。下南室太々御神楽については、講長を中心に伝承を行っているということですが、世帯主でないと駄目等ということが緩和されました。実際の伝承状況はどの様な感じでしょうか。

**下田**：継承への実践ということですが、下南室では30歳以上で、妻帯者が条件です。下南室地区の人口は600人、世帯は219世帯です。この中で後継者を探すのは非常に大変です。講員の方々の人脈やつながりの中で講員を集めています。これは例ですが、野球などのスポーツクラブのチームから会員を集める。具体的な対策方法といたしましては、神楽講の中に神歩会という会を作りまして年間を通してゴル

フ大会や旅行、バーベキュー大会などをして親睦を図っております。これで継承につなげております。

**関**：地区で継承に取り組んでらっしゃるわけですね。

**下田**：そうですね。保存会会長さんを中心にですね。

**関**：そういう意味では、地域コミュニティを活用しながら。単に神楽だけでなく、様々なことを熱心にやってらっしゃいますね。

**下田**：そうですね。神楽の継承といいますのは人でありますから、自治会の長の方を中心に人間の和を大切にしております。

**関**：それで、妻帯者ですよね。

**下田**：これは所帯を持っていないと神様になるのが難しいと、そういうわけでございます。

**関**：ありがとうございます。実際に若過ぎると地域に根付かない。地域コミュ二ティと同じことだと思います。妻帯者で実際に地域に住み、子供がいてということになると伝承者としての位置づけとして大きくなってくる。定着するということがあると思います。妻帯者という言葉が出てくるとは思わなかったので、どきっとしてしまいました。

続いて咲前神社に関しましても、技能者が今21名。その上、例大祭が平日にあたると、３分の２しか参加できないそうですが、大丈夫ですか。

**田中**：私どもには21名の神楽師がおりますが、４月１日が定例で決まっているものですから。その日が日曜なり土曜日ですと技能士も集まりますが、今は勤め人も多くなりまして、４月の１日は辞令交付や人事異動に重なるものですから、どうしても休めない日ですよね。うちの森泉会長が言われたように１人が３役、４役できるようローテーションを組みながら、長く続けてやってきているわけであります。21人いてもそういう事情があって、この太々神楽を舞わないということが今までにない。200年という長い年月をかけて伝承されてきておりますが、その中では戦前に中断、また昭和24年に復活してまた再度中断し、昭和50年に私どもで復活した経緯があります。３回くらいの変遷があったわけでありますけれど。当初は地元農家の長男が引き継ぐと決まっておりました。そういうことを言っていたのでは、人がいなくて回らない。勤めに行ったり、学生は大学に行ったり東京に出たりと、非常に後継者不足になってきました。現在はまだ21名の中でローテーションを組みながらやってきている。それから今日も咲前神社の和田宮司さんが来ておられますが、神社の総代会それから私ども太々神楽の保存会、氏子さんの３者が協力的に盛り上げようと頑張っています。神楽の奉納日４月１日を変更しないで続けておるわけであります。

もう一つに、神楽保存会の会費の問題があります。どうしてもお金がかかるものですから。氏子さん１軒500円以上という年会費を頂いて運営をしています。神社の総代会からも助成金を頂き、また安中市の無形民俗文化財に指定されているのでそこから若干の助成金を頂きながら、４月の１日に途切れることなく上手く運営を図っています。３者が一体となって運営しているものですから、今のところ21人で回しております。今年は中学生が入ってきたわけでありますけれど。その中学生も高校へ行ったり、大学へ行ったり就職をするとこの地に留まる可能性が非常に少ない。そういう面からすると若者を入れてどうかという面もあります。地区で中心となる自営の方と、消防団員など家から通っている方がいいなと。ましては家を持ち、落ち着いた方というのが長く神楽が伝承できる秘訣かなと思います。よくよく継承者がいなくなると、安中市内や市外にも呼びかけをしないといけないのかと思いますが。今のところ、21人で回っている現状であります。

パネリスト

**関**：ありがとうございました。今のお話では、若い人、子供たちに伝承することは悪いことではないはずですが、ただそれがカンフル剤にはならない。後々、伝承に効いてくる可能性はあります。ただ、一番効果的なのはどうやら地域に定着している妻帯

者や自営の方、地域コミュニティにいる人なのかなとお話を聞いていて思った次第であります。それでは、一言ずつ各団体から今後の抱負を含めて、頂ければと存じます。まずは、佐藤宮司からよろしくお願いいたします。

**佐藤**：下南室の皆さん、そして咲前神社の神楽の皆さんのお話を聞いて大変羨ましいなと思いました。いかんせん、私ども氏子の皆さんは会社や店舗を含めても80軒くらいしかないものですから。どうしても人を集めるとなりますと、旧榛名町、この辺にお神楽をやりたい人はいるのかと打診するのが一番早い事かと思います。ただ、榛名神社の神楽の場合はですね、一歩足の踏み出し方から違うと言われる神楽ですので、その辺が我慢できる方がいらっしゃるかどうかが鍵になるかと思います。

**関**：厳しいですね。続いて、下南室太々御神楽講の下田さんお願いします。

**下田**：下南室の御神楽講は渋川市や群馬県のいろいろな協力をいただき、太々神楽の継承で一番大切な人間の和を大切にしながら、末永く継承させていただきたいと思います。

**関**：ありがとうございました。引き続き、咲前神社太々神楽の森泉さんよろしくお願いします。

**森泉**：今までは農村社会という立派な共同社会があって、こういう文化が守られてきたと思います。今は逆に地域の郷土づくりに役立つ伝統芸能。そういうものが必要なのではないかと思っております。文化があることで、地域のコミュニティが深まれば大変良いのではないかと。私はその一言に尽きるのではないかと思っております。

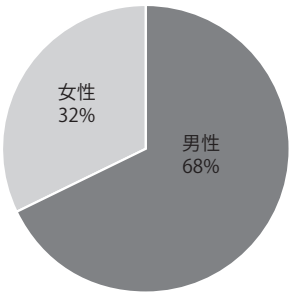
**関**：ありがとうございました。本日は短い時間ではありましたが、３団体の皆様に貴重なご意見をいただきました。神楽関係者の皆様もご来場いただいているかと思います。ぜひ参考にしていただいて、今後のこういった伝統文化が長く続き、上手く活用していってくれればと思っております。本日は大変お世話になり、ありがとうございました。

（以上）

# 来場者アンケート

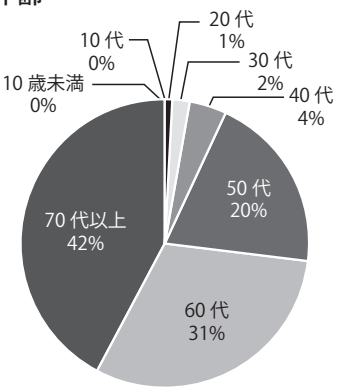
「ぐんまの神楽シンポジウム」会場でアンケートを実施したところ来場者275名のうち、178名の方にご回答いただきました（回収率64.7%）。多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。来場者アンケートの結果概要は以下のとおりです。

## ■回答者の性別



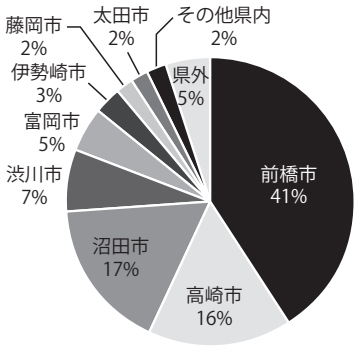

回答者の68%の方が「男性」でした。

## ■回答者の年齢




回答者の73%の方が「60代以上」でした。

## ■回答者の住まい

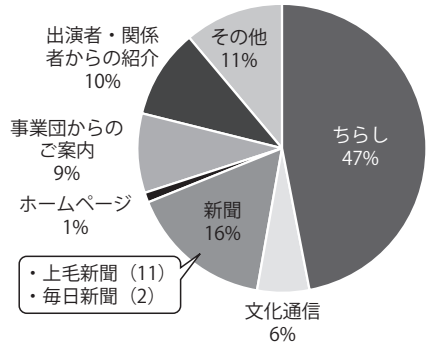



【その他県内】
玉村町(2)・中之条町(2)・吉岡町(2)・榛東村(2)・上野村(2)・みどり(1)・安中市(1)・東吾妻町(1)
【県外】
埼玉県(4)・栃木県(2)・茨城県(1)

回答者の95%の方が「県内」在住で、会場と同じ「前橋市」在住の方が41%と最も多かったです。

## ■この催しを何でお知りになりましたか？

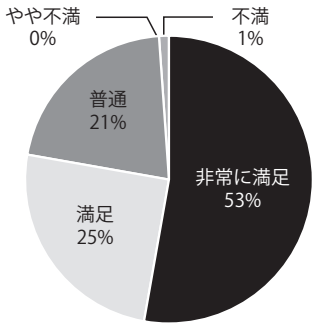
（複数回答）




【その他】
・ポスター（元気21・岩櫃ふれあいの郷）
・伊勢町郷土芸能保存会会長より
・粕川町女渕御霊神社の神楽師より
・神楽を行っている(3)　・友達・知人(4)　・教育委員会
・ベイシア文化ホール　・ラジオ　・吉岡町役場

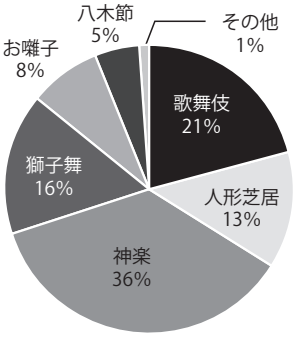
回答者の47%の方が「ちらし」と回答しました。

## ■本公演についてご感想



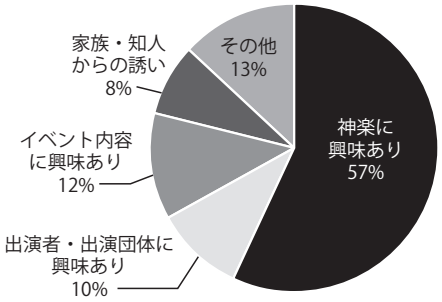

回答者の78%の方が「満足」と回答しました。

## ■あなたが観たい郷土芸能は何ですか？（複数回答）




回答者の36%の方が「神楽」を観たいと回答しました。

## ■ご来場のきっかけ




回答者の57%の方が「神楽に興味あり」と回答しました。

【その他】
・神楽を行っている(5)
・乃久里神楽保存会（上野村）
・横町太々神楽（みどり市）
・地域で奉納している（宇芸神社：富岡市）
・上小塙太々神楽（烏子神社：高崎市）に所属。今後の勉強のつもりで来た。９年後に御神体を開いたお祭りがある。
・片貝神社神楽（前橋市）の先生からの紹介
・出演者が知り合い
・知人が神楽をやっている
・祖父の郷土芸能だから
・中之条で今年はじめて神楽を見て、魅了された
・懐かしさから
・神楽と能の関係
・神楽に興味あり
・神楽とはどのようなものか知るため
・関西から来たので群馬に興味がある

## ■ご意見、ご感想をご自由にお書き下さい。

・旅先やテレビで見て何となく神楽というものが気になっていたのですが、元々日本神話が好きなのでとても面白かったです。祝祭日の休みがなかなかとれないので、来年の４月１日の咲前神社の例大祭を狙って行って見ようと思います。（高崎市・30代女性）
・初めて参加しました。色々と話を聴くと歴史や文化を知ることができ嬉しかったです。下南室の太々神楽が楽しかったです。（渋川市・40代女性）
・とても有意義でした。他団体の実情を知ることができました。定期的に開催していただきたい。存続に向けて、参考になる事がたくさんありました。ありがとうございます。（前橋市・50代男性）
・とても良いシンポジウムでした。太々神楽が身近なものになりました。（渋川市・50代女性）
・養蚕の舞というのがあることを初めて知りました。面をつけての所作を覚えて演じるのも容易ではないと思いますが、伝承のためにも子どもたちに受け継いでもらえることを希望します。私の曽祖父は養蚕仲買人でした。（太田市・50代女性）
・伝承してゆくことの苦労が分かるシンポジウムだった。今は映像記録が簡単に撮れるが、それゆえに後世に引き継ぐこと。後継者を育ててゆくことの難しさを感じました。芝居も音楽も生で見る以上の感動はありません。その神楽殿で祭りの当日に色々な思い、願いをいだいて神楽を見る機会が楽しみになりました。子どもに経験させることは、後に大きな力になると思います。大人になって定着する時の力になると思います。（沼田市・50代女性）
・シンポジウムで我々の神楽を見つめ直すことができました。今後、県内の神楽団体の横のつながりができればと思います。今後もこのような催しをお願いします。（高崎市・60代男性）
・パネリスト３団体も神楽師不足、伝承の危機について共通の悩みを持っている。試行錯誤の繰り返しと根本的な解決策を持っていないことは、140年余りの我々保存会と共通点であると思う。（富岡市・60代男性）
・名の通った榛名神社さえ、後継者問題は深刻である。それでも、宮司さんの取り組みや考え方には共感した。（前橋市・70代以上男性）
・こんなにも神楽があったとは知らなかった。実際の神楽殿で見たいです。ありがとうございました。（沼田市・70代以上男性）
・神楽シンポジウムに参加して、今までの認識が大きく変わった。伝承に苦労されている事も良くわかり、素晴らしい一日を過ごせたことを感謝します。（前橋市・70代以上男性）
・伝統芸能の後継者の苦労が良くわかりました。私共の地域でも途絶えてしまい残念に思いますが、皆さんと話し合いを継続して考えてゆきたい。（高崎市・70代以上男性）
・下田さん（下南室太々神楽御神楽）のお話を聞いて、地元に帰り、神楽師の協力者を発掘してみようかなと参考になりました。頑張ります。娯楽の多様化で神楽の面白さ、興味を引き出す方法。他人任せではなく、自らの力で開発するしかないのかなと思案中。上手い方法があるのかなと来ましたが、自ら火種になることか！（前橋市・70代以上男性）
・大変有意義なシンポジウムでした。継続していかれることには皆々様がご苦労なさっている事がよくわかりました。でも、お話の中で楽しみながら行えている事、本当に頭が下がります。前々から榛名神社に行きたいと思っていましたが、今日のシンポジウムに参加いたしまして、さらに興味が深くなりました。（前橋市・70代以上女性）

ほか

# Ⅱ ぐんまの神楽アンケート調査

## 概　要

**調査目的**　県内神楽の現状と課題を把握し、団体が相互に情報を共有することで継承のための連携を図り、県内神楽の特長や特性をまとめ県内外に発信する。

**調査機関**　公益財団法人群馬県教育文化事業団

**調査期間**　平成29年６月14日～10月30日

**調査対象**　県内の神楽伝承団体（太々神楽・里神楽・神楽獅子）132団体

※平成25年２月に群馬県が実施した「伝統文化継承状況アンケート」送付時に伝承状況が順調な団体及び文化財指定団体

**調査方法**　紙面調査（郵送配布、郵送・電話回収）

**回収結果**　回収数89件（有効回収率67％）

**集計結果の見方**

単純集計に加え、クロス集計を行った。グラフ中の「ｎ」は、設問に対する有効回答数を示しており、グラフ中の回答率（％）は「ｎ」100％としたものである。

設問によっては、サンプル数（ｎ）が少ないため、必ずしも全体の傾向を反映していない場合がある。なお、ｎ＜30の設問については、傾向の把握が難しいが参考として掲載している。

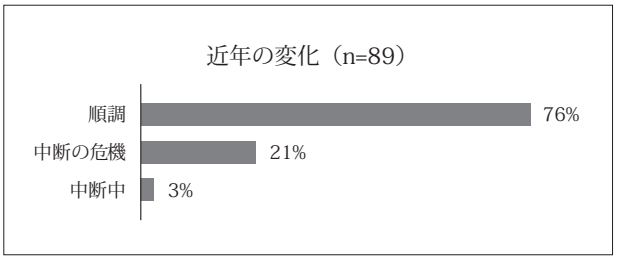
## 調査結果

### １.伝承状況について

神楽伝承団体の近年の変化と今後の見通しは次のとおりである。

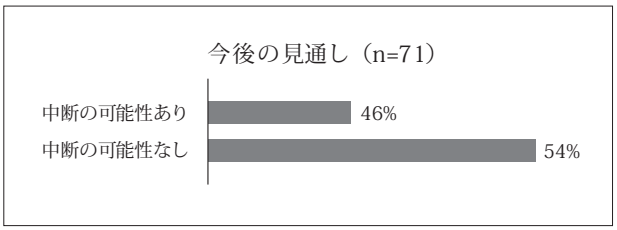
#### ⑴　近年の変化

近年の伝承状況については「順調」が76％、「中断の危機」が21％、「中断中」が３％である。



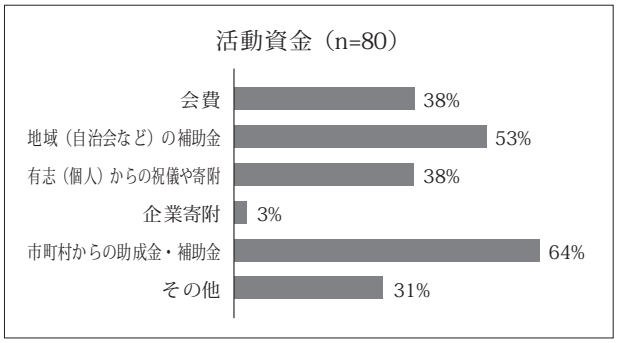

#### ⑵　今後の見通し

今後の伝承状況の見通しについては「中断の可能性なし」が54％、「中断の可能性あり」が46％であり伝承状況の難しさがうかがえる。




### ２.活動資金について（複数回答）

活動資金については「市町村からの助成金・補助金」が64％と最も多く、次いで「地域（自治会など）の補助金」(53％)、「会費」「有志（個人）からの祝儀や寄附」(38％)、「企業寄附」(３％）となっている。「その他」(31％）は「神社からの謝礼（補助金)」「氏子会から」である。



## 3. 構成員について

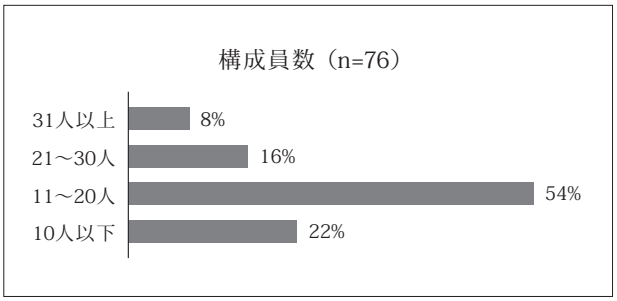
伝承団体の構成員数及び構成員の変化は次のとおりである。

### (1) 構成員数

構成員数については「11～20人」が54％と最も多く、次いで「10人以下」(22％)、「21～30人」(16％)、「31人以上」(８％) となっている。

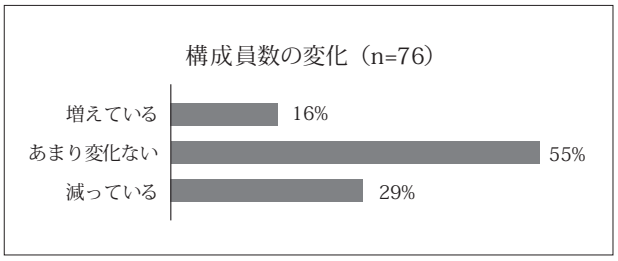
構成員数が多い団体は次のとおりである。

・春日神社太々神楽（前橋市）：56人
・猿田彦神社の大和神楽（渋川市）：56人
・中栗須神明宮太々神楽（藤岡市）：41人　ほか




### (2) 構成員数の変化

過去３年間の構成員数については「あまり変化ない」が55％と最も多く、次いで「減っている」(29％)、「増えている」（16％）となっている。




## 4. 神楽出演者の年代・性別について

（複数回答）

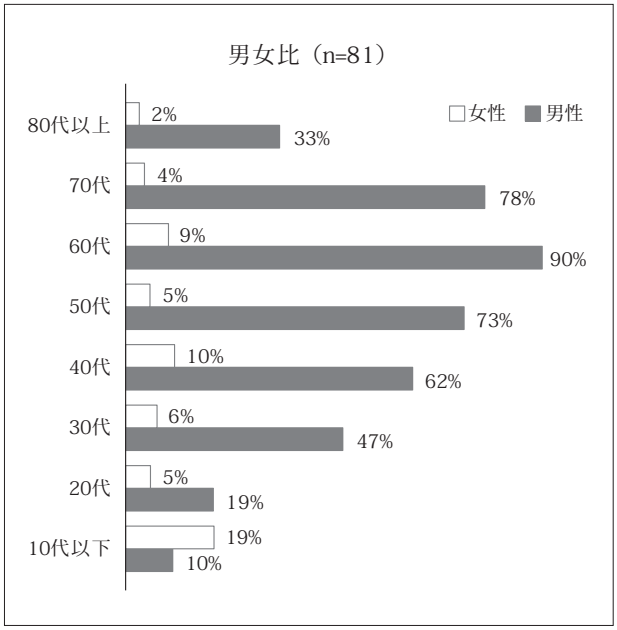
舞や囃子などの神楽出演者の年代及び性別の詳細は次のとおりである。

男性出演者については「60代」が90％と最も多く、次いで「70代」(78％)、「50代」(73％)、「40代」(62％)、「30代」(47％)、「80代」(33％) となっている。

女性出演者については「10代以下」が19％と最も多く、次いで「40代」(10％)、「60代」(９％)、「30代」(６％)、「20代」「50代」(５％) となっている。男性は「60代」が最も多いのに対して、女性は「10代以下」が多い。

女性出演者が多い団体は次のとおりである。

・吉田西里神楽（大泉町）：９人
・金古諏訪神社の太々神楽（高崎市）：９人
・中栗須太々神楽（藤岡市）：６人
・八幡八幡宮の大大神楽（高崎市）：５人
・横町太々神楽（みどり市）：５人
・中之条太々神楽（中之条町）：５人　ほか

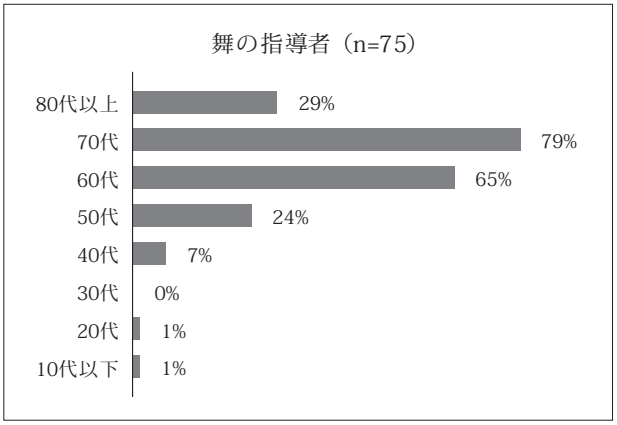


## 5．指導者の年代について

神楽の指導者については「60代」と「70代」が多く技術習得から指導できるまでに年月を要し、また指導者の高齢化がうかがえる。舞や笛、太鼓の詳細は次のとおりである。

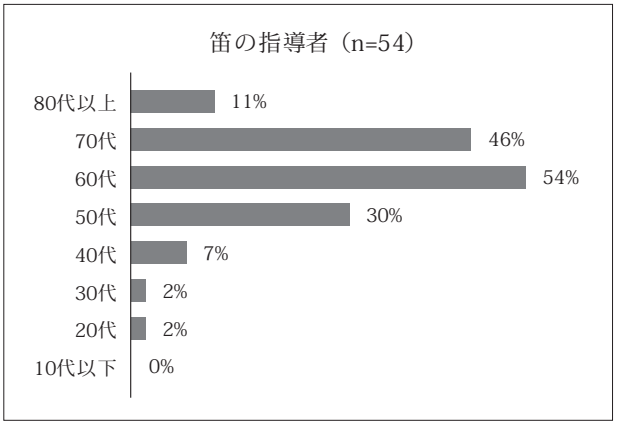
### (1) 舞の指導者（複数回答）

舞の指導者は「70代」が79％と最も多く、次いで「60代」(65％)、「80代以上」(29％)、「50代」(24％)、「40代」(７％) となっている。



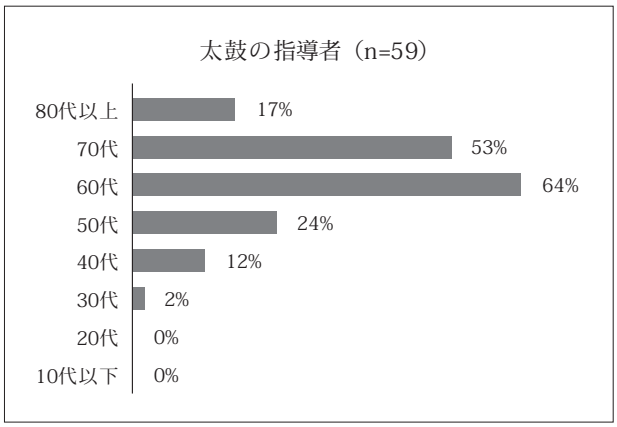

### (2) 笛の指導者（複数回答）

笛の指導者は「60代」が54％と最も多く、次いで「70代」(46％)、「50代」(30％)、「80代以上」(11％)、「40代」(７％)、「30代」「20代」(２％) となっている。



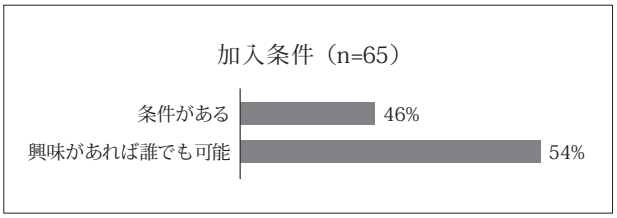

### (3) 太鼓の指導者（複数回答）

太鼓の指導者もやはり「60代」が64％と最も多く、次いで「70代」(53％)、「50代」(24％)、「80代以上」(17％)、「40代」(12％)、「30代」(２％) となっている。



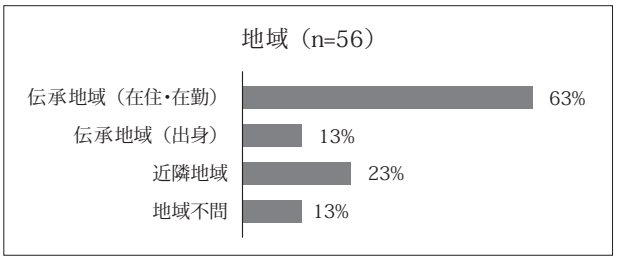
## 6 . 伝承団体への加入条件について

伝承団体への加入条件は「興味があれば誰でも可能」が54%、「条件がある」が46%となっている。地域や性別、年齢、その他の加入条件は次のとおりである。



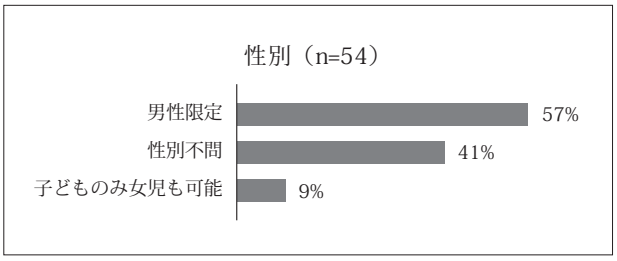

### ⑴　地域（複数回答）

地域については「伝承地域（在住・在勤）」が最も多く63%、次いで「近隣地域」(23%)、「伝承地域(出身)」「地域不問」(13%）である。



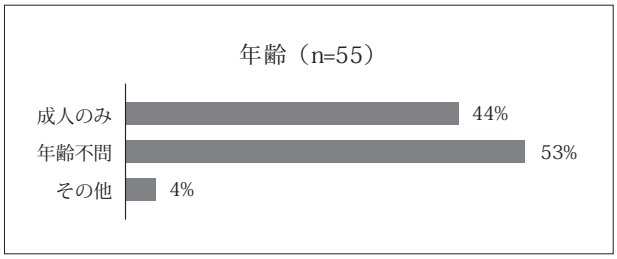

### ⑵　性別（複数回答）

性別については「男性限定」が57%、次いで「性別不問」(41%)、「子供のみ女児も可能」（９%）である。




### ⑶　年齢（複数回答）

年齢については「年齢不問」が53%、次いで「成人のみ」（44%）となっている。「その他」は高校生以上である。

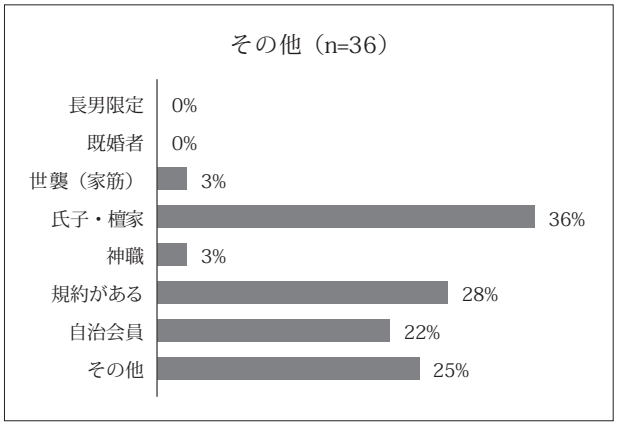



### ⑷　その他（複数回答）

その他の条件としては「氏子・檀家」(36%)、「規約がある」(28%)、「自治会員」(22%)、「世襲（家筋）」「神職」(３%）となっている。「長男限定」などの条件はないようである。

【その他】

- 限定なし（不問）
- 地域人
- 親から子供へ
- 興味関心が高くやる気のある人　ほか

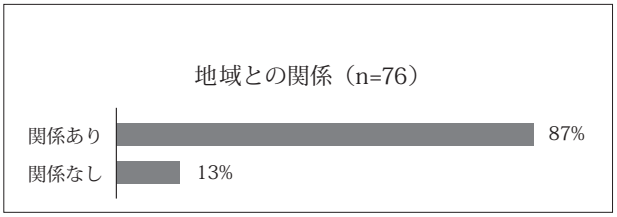


## 7. 地域との関係について

伝承団体と地域との関わりについては次のとおりである。

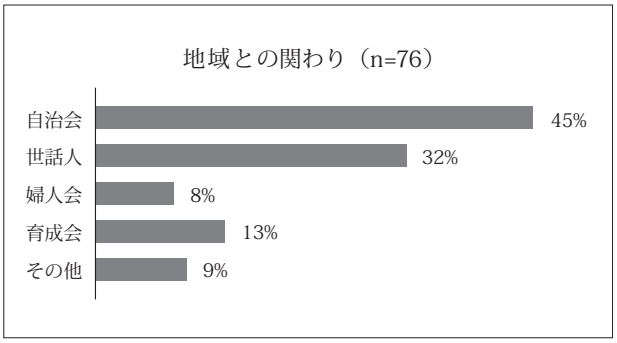
### (1) 関係の有無

地域との関係の有無については「関係あり」が87%、「関係なし」が13%である。



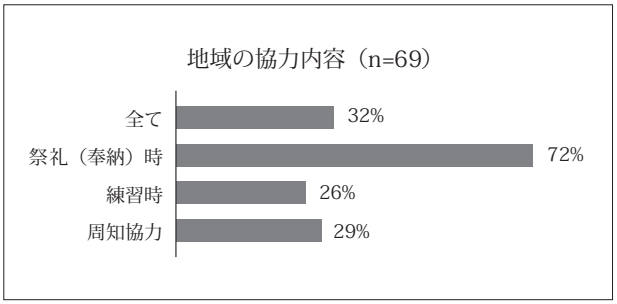

### (2) 地域との関わり（複数回答）

地域との関わりで最も深いものが「自治会」(45%)で、次いで「世話人」(32%)、「育成会」(13%)、「婦人会」(８%）である。「その他」は神社や神社総代等である。




### (3) 地域の協力内容（複数回答）

地域の協力を行事別にみると「祭礼（奉納）時」が72%と最も多く、次いで「全て」(32%)、「周知協力」(29%)、「練習時」(26%）となっている。

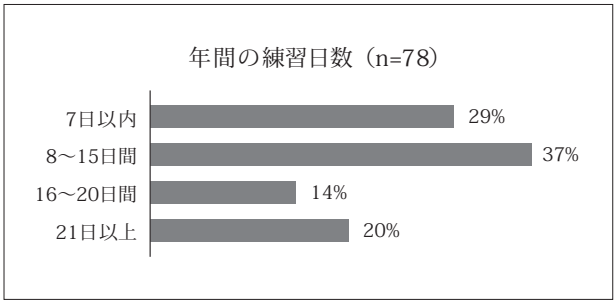



## 8. 練習日数について

伝承団体の年間の練習状況は次のとおりである。

### (1) 練習日数（年間）

年間の練習日数については「８～15日間」が37%と最も多く、次いで「７日以内」(29%)、「21日以上」(20%)、「16～20日間」(14%）となっている。

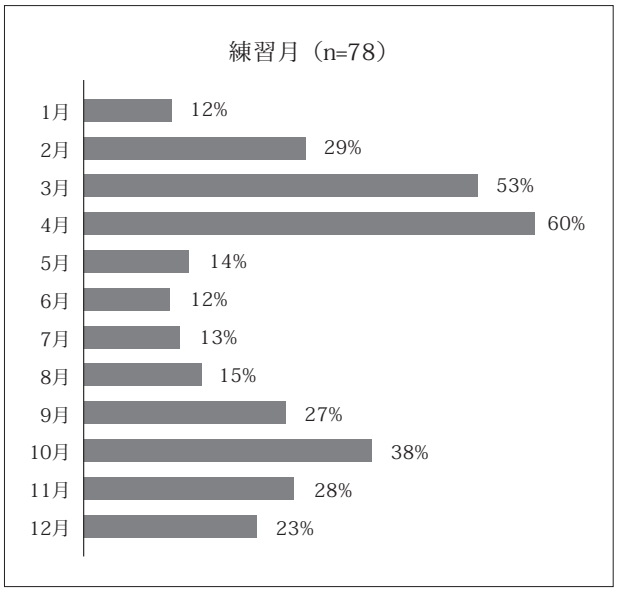



### (2) 練習月（複数回答）

年間で最も多い練習月は「４月」(60%)、次いで「３月」(53%)、「10月」(38%)、「２月」(29%)、「11月」(28%)、「９月」(27%)、「12月」(23%)、「８月」(15%)、「５月」(14%)、「７月」(13%)、「１月」「６月」(12%）となっている。

通年練習を行う団体は次のとおりである。

- 植野稲荷神社太々神楽（前橋市）
- 長根神社宿神楽獅子舞（高崎市）
- 八木原諏訪神社の太々神楽（渋川市）
- 吉田西里神楽（大泉町）



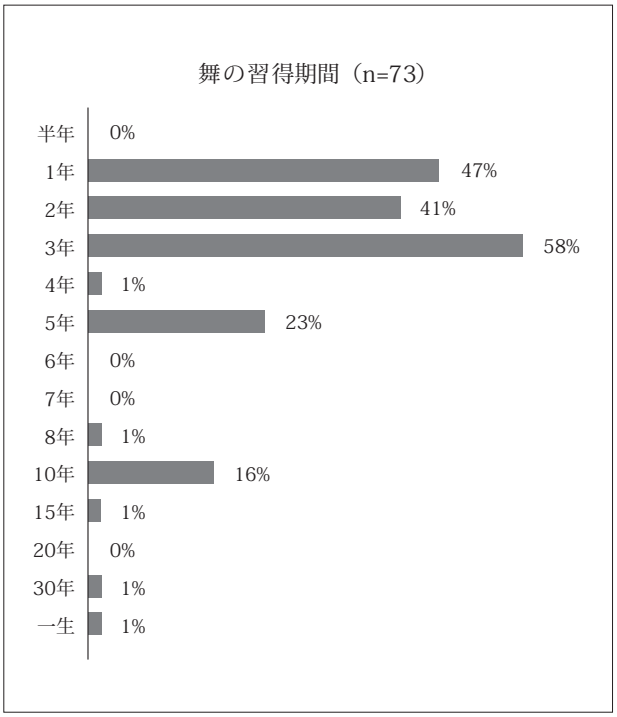
## 9. 習得期間について

舞や笛、太鼓の各習得期間は次のとおりである。

### (1) 舞（複数回答）

舞の習得期間については「３年」が58％と最も多く、次いで「１年」(47％)、「２年」(41％)、「５年」(23％)、「10年」(16％) となっている。舞の習得期間の平均は3.7年である。

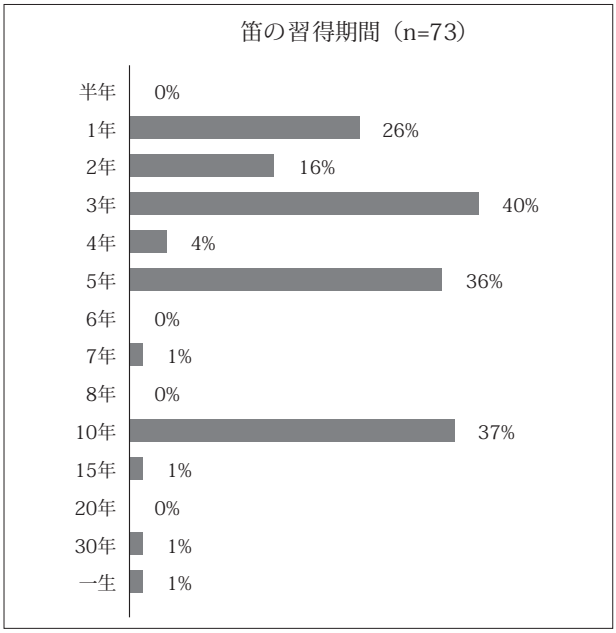
なお、習得期間には「一生」、「30年」かかるとの意見もある。




### (2) 笛（複数回答）

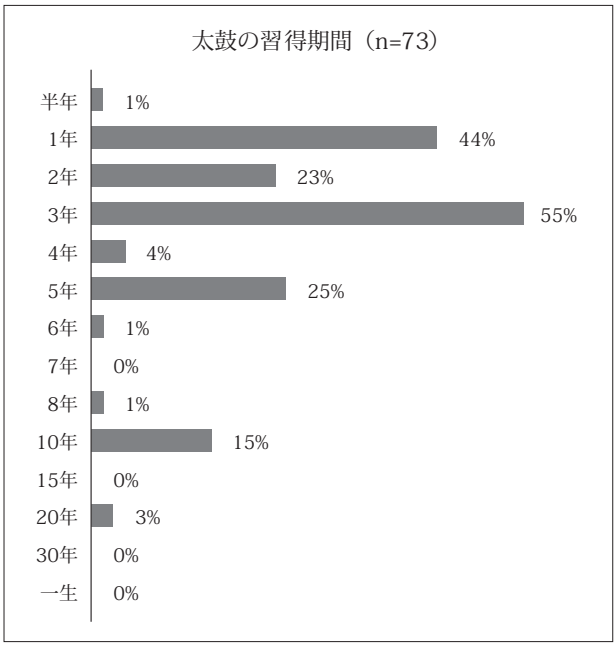
笛の習得期間については「３年」(40％) が最も多く、次いで「10年」(37％)、「５年」(36％)、「１年」(26％)、２年（16％）となっている。笛の習得期間の平均は5.1年である。笛は、舞や太鼓以上に技術習得に時間を要することがうかがえる。

なお、習得期間には舞と同様に「一生」、「30年」かかるとの意見がある。



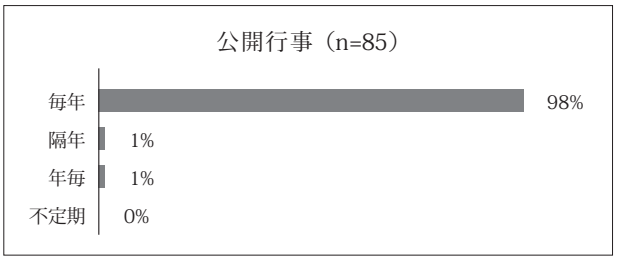

### (3) 太鼓（複数回答）

太鼓の習得期間については「３年」が55％と最も多く、次いで「１年」(44％)、「５年」(25％)、「２年」(23％)、「10年」(15％) となっている。太鼓の習得期間の平均は3.7年である。



## 10. 公開行事について

公開行事については「毎年実施している」が98％であり、定期的に神楽が行われていることがうかがえる。公開行事の詳細は次のとおりである。

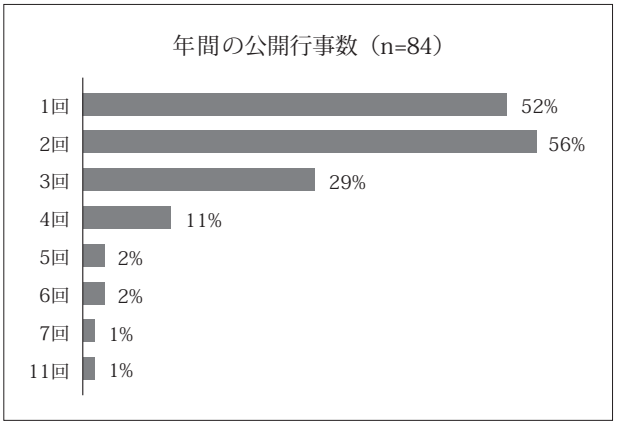



### ⑴　公行事数（複数回答）

年間の公開行事数については「年２回」が56％と最も多く、次いで「年１回」(52％)、「年３回」(29％)、「年４回」(11％)、「年５回」「年６回」(２％)、「年７回」「年11回」(１％) となっている。なお、公開行事には神社奉納のほかに地域の芸能祭への出演等も含まれている。

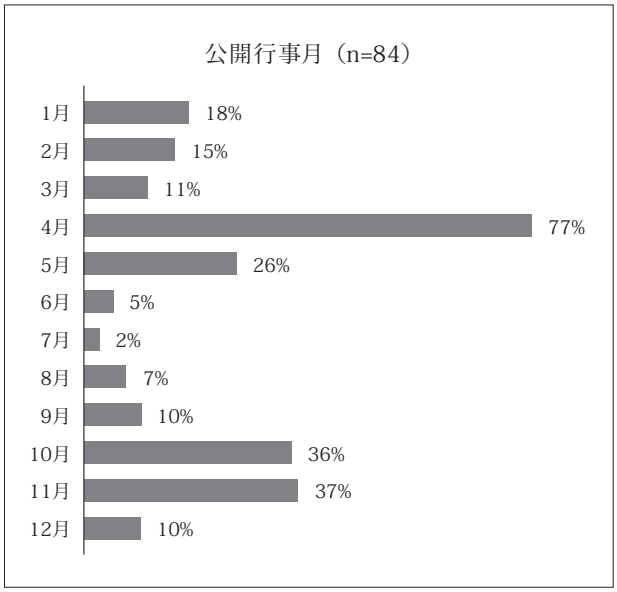
年間の公開行事数が多い団体は次のとおりである。

・大島岡里神代神楽（館林市）
・横町太々神楽（みどり市）
・薄根太々神楽（沼田市硯田町）
・長良神社の里神楽（邑楽町）　ほか




### ⑵　公開行事月（複数回答）

公開行事月は「４月」が77％と最も多く、次いで「11月」(37％)、「10月」(36％)、「 ５ 月」(26％)、「１月」(18％)、「２月」(15％)、「３月」(11％)、「９月」「12月」(10％)、「８月」(７％)、「６月」(５％)、「７月」(２％) となっている。なお、公開行事には神社奉納のほかに地域の芸能祭への出演等も含まれている。

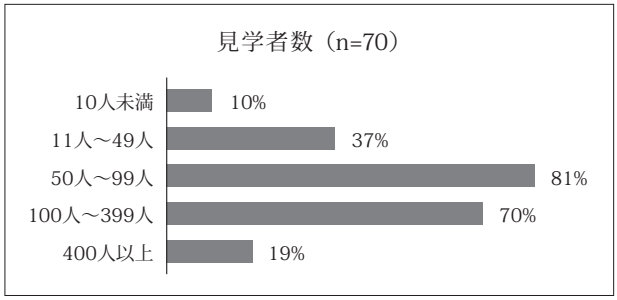



### ⑶　見学者数（複数回答）

各公開行事の見学者数は「50人～99人」が81％と最も多く、次いで「100人～399人」(70％)、「11人～49人」(37％)、「400人以上」(19％)、「10人未満」(10％) となっている。なお、見学者数には年末年始に行われる神楽奉納や恵比寿講、芸能祭での発表等も含まれている。

400人以上の見学者が訪れる主な神楽（神社例大祭）は次のとおりである。

・八幡八幡宮大々神楽（高崎市）：４月・11月
・咲前神社太々神楽（安中市）：４月　ほか

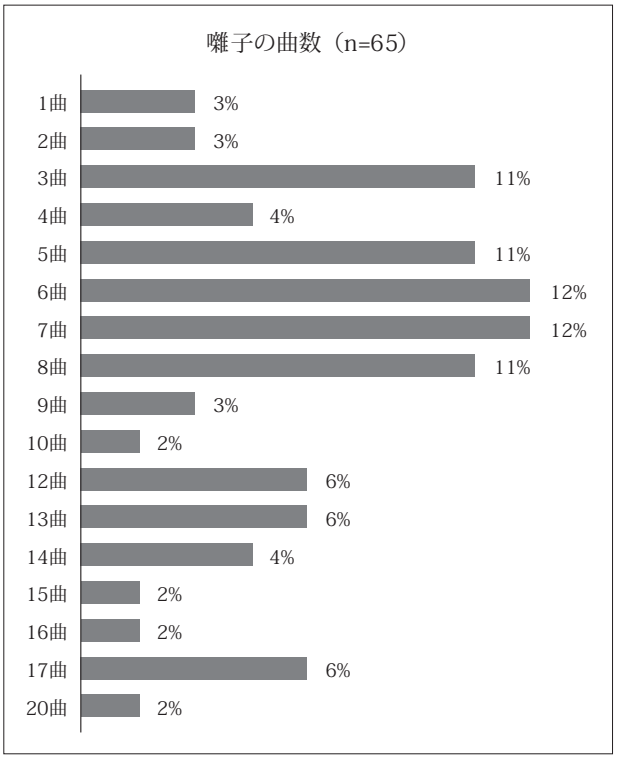


## 11.囃子について

囃子の曲数及び演奏する囃子の位置については次のとおりである。

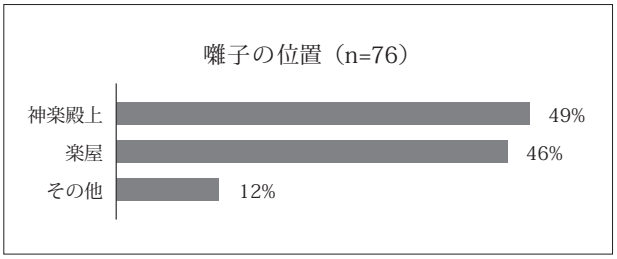
### (1) 曲数

囃子の曲数については「６曲」「７曲」が12％と最も多く、続いて「３曲」「５曲」「８曲」(11％)、「12曲」「13曲」「17曲」(６％)、「４曲」「14曲」(４％)となっている。神楽獅子の囃子については「１曲」、「２曲」が多いようである。




### (2) 位置（複数回答）

神楽奉納時の囃子位置は「神楽殿上」が49％で、神楽殿裏の「楽屋」が46％である。また笛と太鼓が「神楽殿上」と「楽屋」に分かれて位置する団体もある。「その他」には「神楽殿横」「神楽殿脇特設ステージ」のほかに神楽獅子の境内も含まれている。

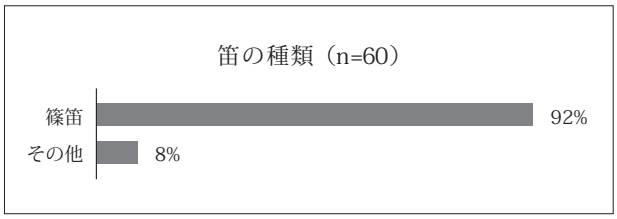



## 12. 笛について

伝承団体が使用する笛は次のとおりである。

### (1) 種類

使用する笛のほとんどが「篠笛」(92％）であり、「その他」(８％）が龍笛や手作りの横笛などである。

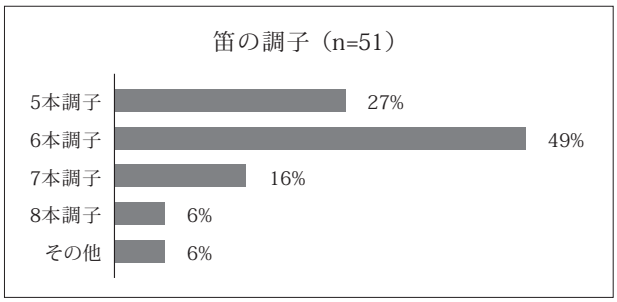



### (2) 調子（複数回答）

笛の調子は「６本調子」が49％と最も多く、次いで「５本調子」(27％)、「７本調子」(16％)、「８本調子」（６％）となっている。

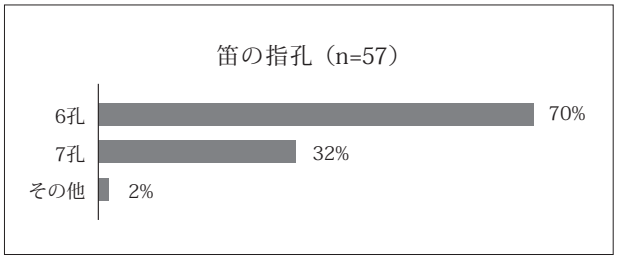
【その他】

- ４本調子の篠笛
- 手作りの横笛
- 使い分ける
- 不明　ほか



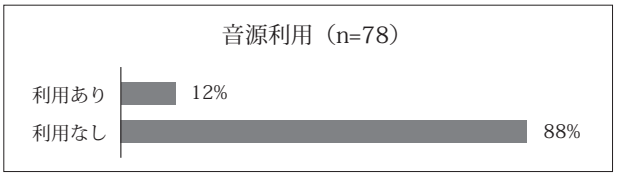

### (3) 指孔（複数回答）

笛の指孔は「６孔」が70％と最も多く、次いで「７孔」が32％となっている。「その他」は「８孔」の回答である。



## 13. 音源利用

神楽上演時におけるカセットテープやCD等の音源利用状況は88％が「利用なし」で生演奏である。音源の「利用あり」は12％である。また笛の音源と太鼓等の生演奏を併用する団体もある。

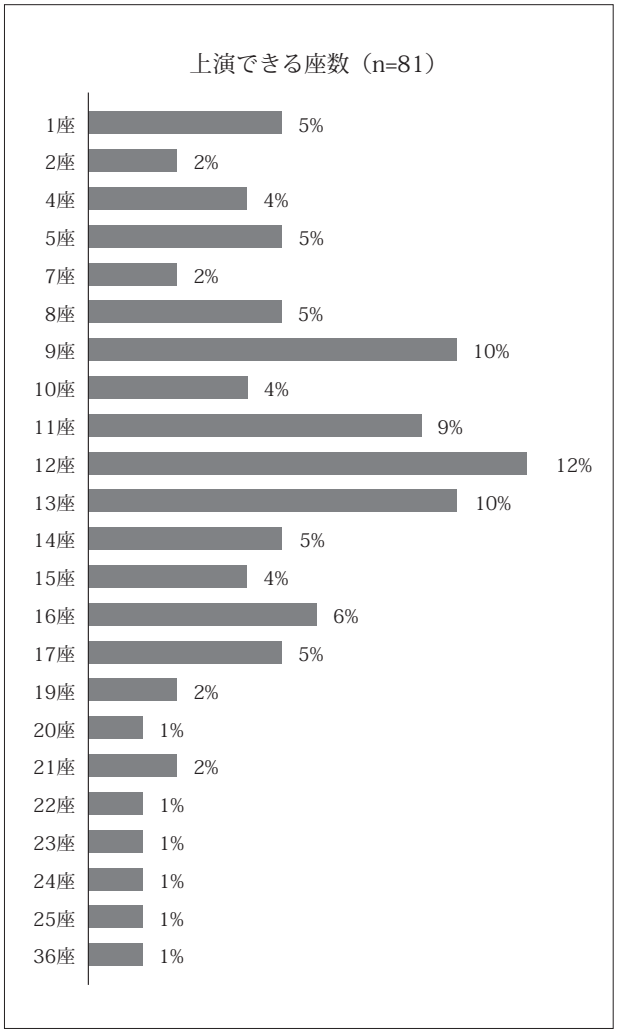



## 14. 上演できる演目数について

上演できる演目は「12座」が12％と最も多く、次いで「９座」「13座」（10％）、「11座」（９％）、「16座」（６％）、「１座」「５座」「８座」「14座」「17座」（５％）となっている。演目数の多い団体は次のとおりである。

・八木原諏訪神社の太々神楽（渋川市）：36座
・立石神社太々神楽（藤岡市）：25座
・御倉御子神社太々神楽（藤岡市）：24座
・猿田彦神社の大和神楽（渋川市）：23座
・中栗須神明宮太々神楽（藤岡市）：22座
・片貝神社太々神楽（前橋市）：21座
・上戸塚太々神楽（藤岡市）：21座

ほか



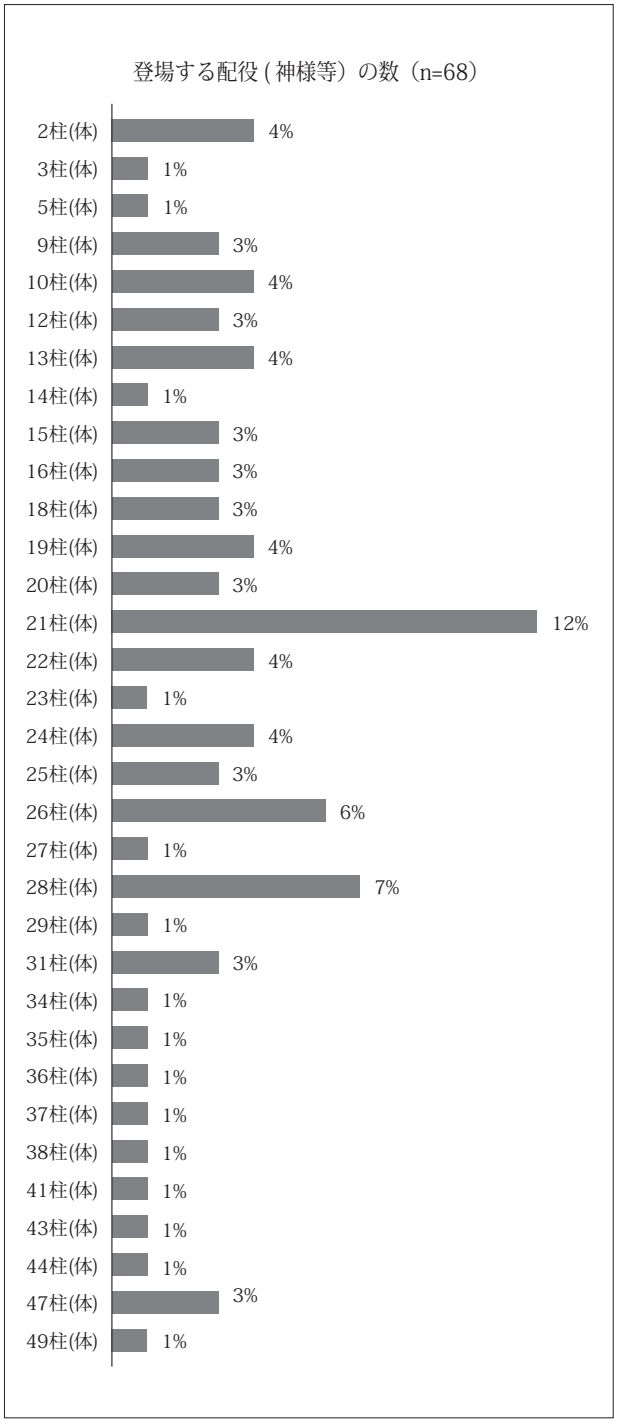
## 15. 登場する配役（神様等）について

上演できる演目に登場する配役（神様等）については、「21柱(体)」が12％と最も多く、次いで「28柱(体)」（７％)、「26柱(体)」（６％)、「２柱(体)」「10柱(体)」「13柱(体)」「19柱(体)」「22柱(体)」「24柱(体)」（４％）となっている。

登場する配役が多い団体は次のとおりである。

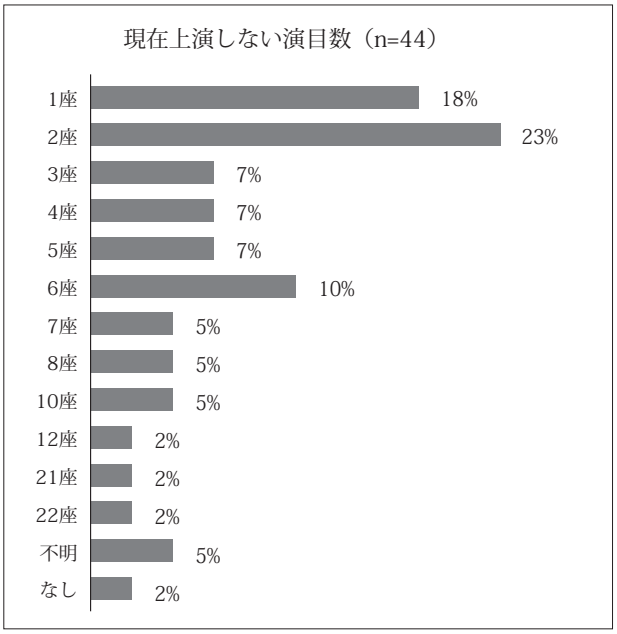
・勝保沢の太々神楽（渋川市）：49柱(体)
・金古諏訪神社の太々神楽（高崎市）：47柱(体)
・下南室太々御神楽（渋川市）：47柱(体)
・片貝神社太々神楽（前橋市）：44柱(体)
・二宮赤城神社太々神楽（前橋市）：43柱(体)
・春日神社太々神楽（前橋市）：41柱(体)
・長良神社の里神楽（邑楽町）：38柱(体)
・飯玉神社太々神楽（前橋市）：37柱(体)
・御倉御子神社太々神楽（藤岡市）：36柱(体)

ほか



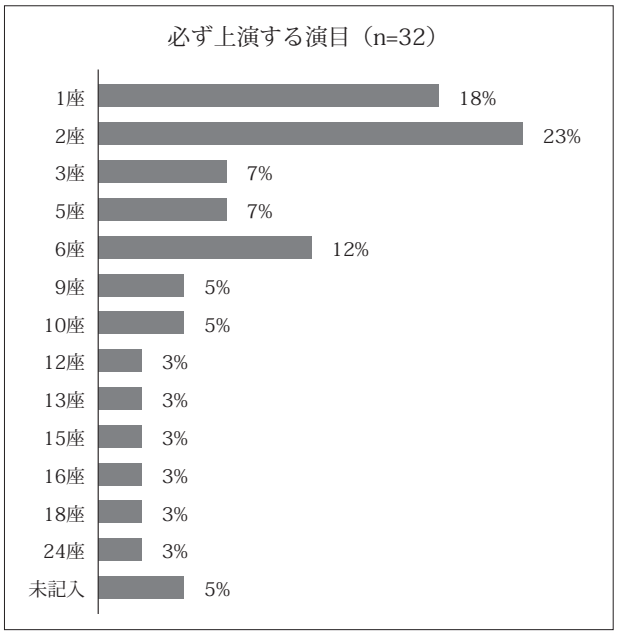
## 16. かつて上演した演目について

かつて上演していたが、現在上演できない演目の数については「２座」が23％と最も多く、次いで「１座」(18％)、「６座」(10％)、「３座」「４座」「５座」(７％)、「７座」「８座」「10座」「不明」(５％)、「12座」「21座」「22座」「なし」(２％) となっている。多くの団体で現在上演できない演目があることがうかがえる。



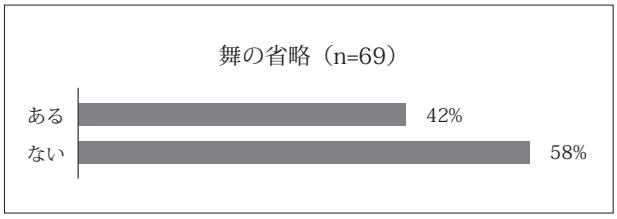

## 17. 必ず上演する演目について

神楽奉納時に必ず上演する演目については「２座」が23％と最も多く、次いで「１座」(18％)、「６座」(12％)、「３座」「５座」(７％)、「９座」「10座」(５％)、「12座」「13座」「15座」「16座」「18座」「24座」(３％) となっている。



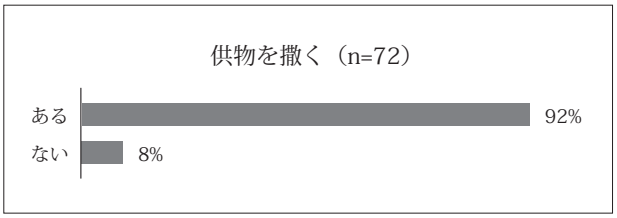

## 18. 舞の省略について

舞の省略については「ない」が58％、「ある」が42％となっている。



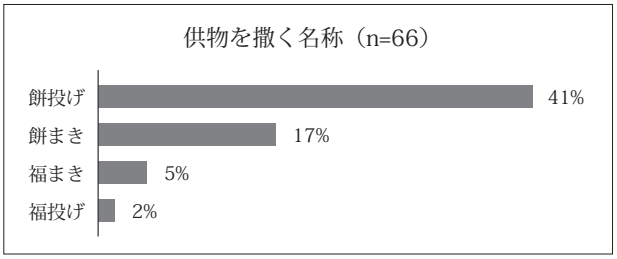
## 19. 供物を撒くことについて

神楽上演中などに餅やお菓子などの供物を撒くことについては「ある」が92%、「ない」が８％である。神楽獅子では行われないことが多いが、一部の太々神楽でも行われていない。




### ⑴　供物を撒く名称（複数回答）

供物を撒く行為の名称については「餅投げ」(41%)が最も多く、次いで「餅まき」(17%)、「福まき」(５％)、「福投げ」(２％）となっている。名称の地域差はみられない。また、20年前は餅投げ、餅まき、餅やり、供物と呼び、今は「○○神社からの供物、プレゼントです」とする団体もある。

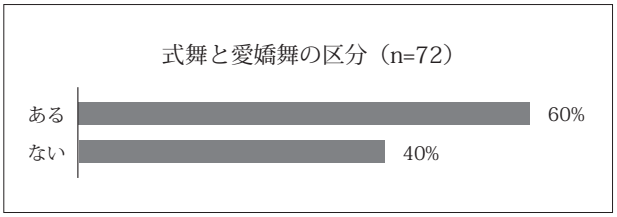



## 20. 式舞と愛嬌舞の区分について

式舞（神事舞）と愛嬌舞（興舞）の区分については「ある」が60%、「ない」が40%である。

〔例〕

・八木原諏訪神社の太々神楽（渋川市）
　式舞29座・興舞７座
・八幡宮太々神楽（榛東村）
　式舞４座・興舞13座　ほか



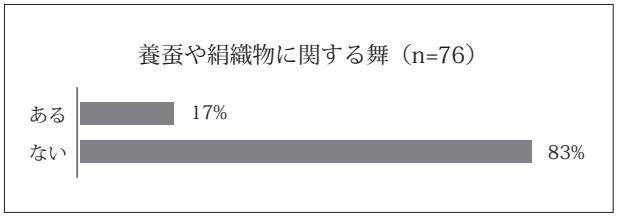

## 21. 養蚕や絹織物に関する演目について

かつて群馬県の基幹産業であった養蚕や絹織物を主題とする舞については「ある」が17%、「ない」が83%である。現在も行う団体は次のとおりである。

・春日神社太々神楽（前橋市）「蚕ノ舞」
・下南室太々御神楽（渋川市）「養蚕の舞」
・稲含神社の太々神楽（甘楽町）「蚕種の舞」
・白瀧神社太々神楽（桐生市）「釜湯の舞」
・松谷神社の太々神楽（東吾妻町）
・布施稲荷神社太々郷神楽（みなかみ町）

また、以前行っていた（演目がある）団体は次のとおりである。

・二宮赤城神社太々神楽(前橋市)「絹笠大神之舞」
・駒形神社太々神楽（前橋市）
・村上太々神楽（渋川市）
・蛇宮神社太々神楽（富岡市）「種掃きの舞」
・白倉神社の太々神楽（甘楽町）「衣笠様」
・鹿島太々御神楽（藤岡市）「お蚕（蚕飼)」
・賀茂神社太々神楽（桐生市）




〔参考〕

県内の養蚕を主題とした演目は、金纘神社と秩父神社、武州御嶽神社からの伝播が考えられる。

その他にも甘楽町福島の笹森稲荷神社（「絹笠大明神」）や富岡市下丹生の丹生神社（「種掃きの舞」）でも伝承されている。また、廃絶した高崎市吉井町の辛科神社（「絹笠」）でもかつて伝承されていた。

詳しくは、伊藤克枝氏（「養蚕を主題とした神楽の伝播―富岡市七日市蛇宮神社の太々神楽を中心に―」『平成28年度伝統文化継承事業調査報告書』）や三田村佳子氏（『里神楽ハンドブック福島・関東・甲信越』）を参照願いたい。

## 22. 周知・集客工夫について

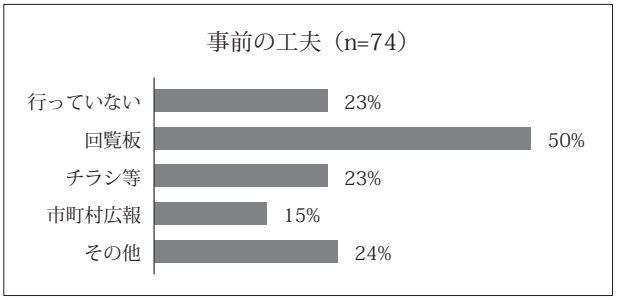
神楽奉納の周知・集客のために行う事前の工夫と当日の工夫については次のとおりである。

### ⑴ 事前の工夫（複数回答）

神楽奉納の周知や集客のために行う事前の工夫を「行っていない」が23％である。行っている工夫内容としては「回覧板」(50％）が最も多く、次いで「チラシの作成・掲示」(23％)、「市町村広報」(15％）となっている。

【その他】

・のぼり旗
・ポスター作成
・ホームページ
・村内放送
・メディア（新聞社・テレビ局）への情報提供
・小学校への声かけ　ほか

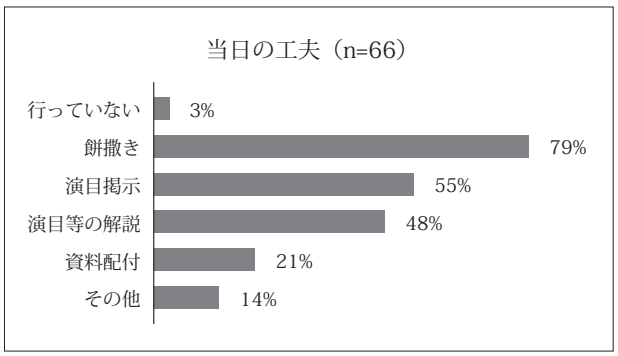



### ⑵ 当日の工夫（複数回答）

当日に観客に向けて行う工夫を「行っていない」が３％であり、ほぼ全ての団体が工夫を行っている。工夫内容としては「餅撒き」が79％と最も多く、次いで「演目掲示」(55％)、「演目等の解説」(48％)、「資料配布」(21％）となっている。

【その他】

・記念品贈呈（300名）
・飲食の配布（汁、おでん、昼食）
・抽選会（くじ引き）
・フリーマーケット　ほか



## 23. 小中学校との連携について

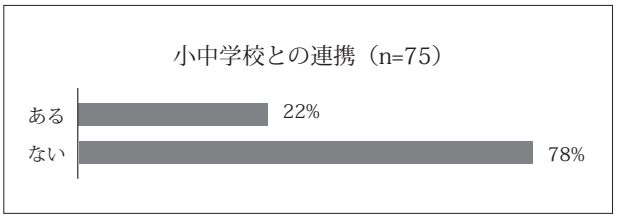
小中学校との連携状況や連携への希望等は次のとおりである。

### (1) 連携状況

近隣の小中学校との連携については「ある」が22%で、「ない」が78%である。連携内容としては、「奉納当日の神楽見学」が最も多く、次いで近隣小学校において「神楽上演」や「講話」となっている。

現在、小中学校との連携を行う団体は次のとおりである。

・片貝神社太々神楽（前橋市）
・植野稲荷神社太々神楽（前橋市）
・飯玉神社太々神楽（前橋市）
・三夜沢赤城神社太々神楽（前橋市）
・御霊神社太々神楽（前橋市）
・烏子稲荷神社太々神楽（高崎市）
・薄根太々神楽（沼田市硯田町）
・薄根太々神楽（沼田市原町）
・八木原諏訪神社の太々神楽（渋川市）
・咲前神社太々神楽（安中市）
・野殿白山神社太々神楽（安中市）
・伊勢町太々神楽（中之条町）
・川原湯神社太々神楽（長野原町）
・吉岡神社の太々神楽（東吾妻町）
・冨士浅間神社太々神楽（みなかみ町）
・太々神楽（板倉町）
・長良神社の里神楽（邑楽町）

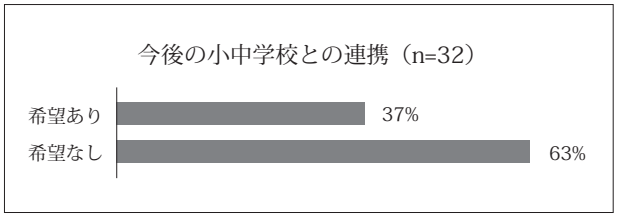



### (2) 今後の連携

今後の小中学校との連携については「希望なし」が63%、「希望あり」が37%である。

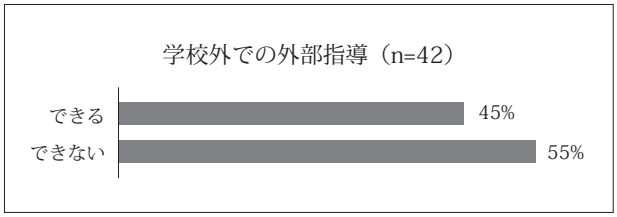
現在、小中学校との連携を希望する団体は次のとおりである。

・二宮赤城神社太々神楽（前橋市）
・総社神社太々神楽（前橋市）
・雷電神社太々神楽（前橋市）
・駒形神社太々神楽（前橋市）
・八幡八幡宮大々神楽（高崎市）
・八幡原大和舞太々里神楽（高崎市）
・金古諏訪神社の太々神楽（高崎市）
・榛名神社神代神楽（高崎市）
・上戸塚太々神楽（藤岡市）
・宇芸神社太々神楽（富岡市）
・白倉神社の太々神楽（甘楽町）
・菅原神社の太々神楽（東吾妻町）



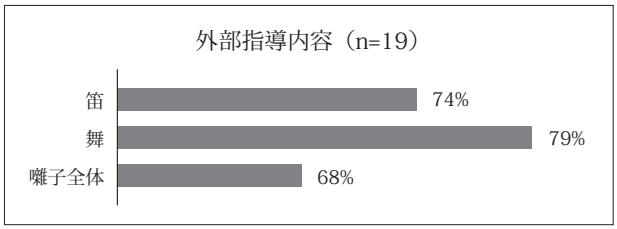

### (3) 学校外での外部指導

学校外での外部指導については「できない」が55%、「できる」が45%である。




### (4) 指導内容（複数回答）

指導内容としては「舞」(79%)、「笛」(74%)、「囃子全体」(68%) となっている。

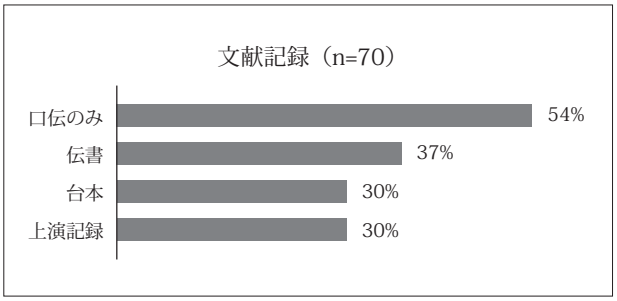


## 24. 記録・映像資料の有無について

伝承団体の記録や映像資料の現状は次のとおりである。

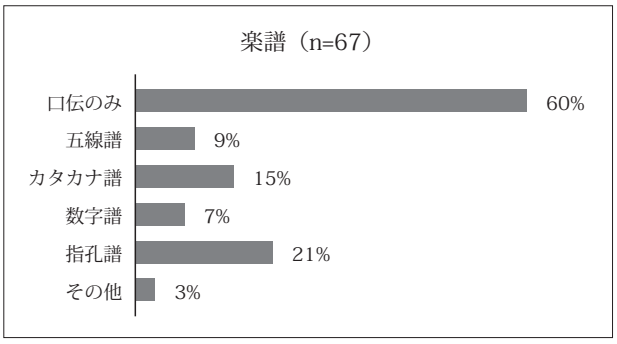
### ⑴　文献記録（複数回答）

文献記録については「口伝のみ」が54％と最も多く、次いで「伝書」(37％)、「台本」「上演記録」(30％)となっている。




### ⑵　楽譜（複数回答）

楽譜については「口伝のみ」が60％と最も多い。譜面の種類としては「指孔譜」(21％)、「カタカナ譜」(15％)、「五線譜」(９％)、「数字譜」(７％)となっている。その他には「尺八譜」「口くさり表」を使用するなど各団体の工夫がみられる。

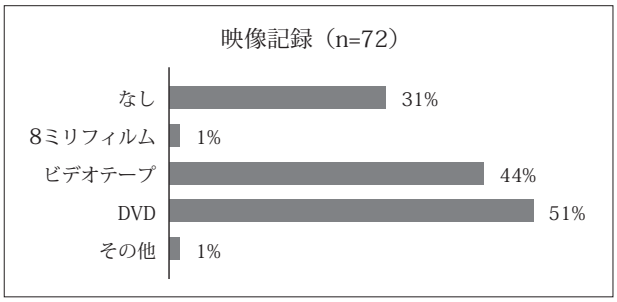



### ⑶　映像記録（複数回答）

映像記録のない団体が全体の31％である。映像記録の種類としては「DVD」が51％と最も多く、次いで「ビデオテープ」(44％)、「８ミリフィルム」(１％)である。またビデオテープを DVD に変換して記録保存に努める団体や、市町村等で制作した映像記録を持つ団体もある。映像記録の多くが単年度であるが、継続して撮影を行う団体は次のとおりである。

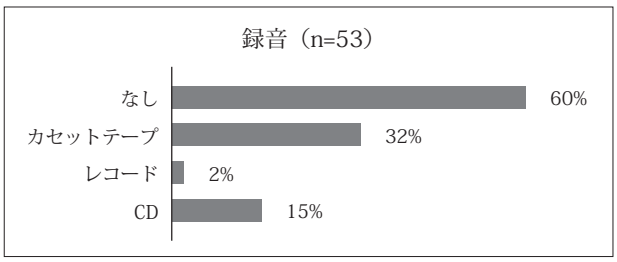
・薄根太々神楽（沼田市硯田町）：昭和50年～
・長良神社の里神楽（邑楽町）：昭和50年～
・烏子稲荷神社太々神楽（高崎市）：平成10年～

ほか




### ⑷　録音（複数回答）

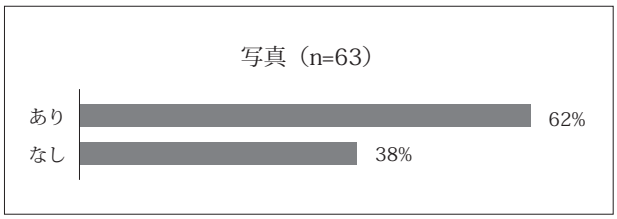
映像付帯を除く録音を持たない団体が全体の60％である。録音の種類としては「カセットテープ」(32％)が最も多く、次いで「CD」(15％)、「レコード」(２％)となっている。




### ⑸　写真

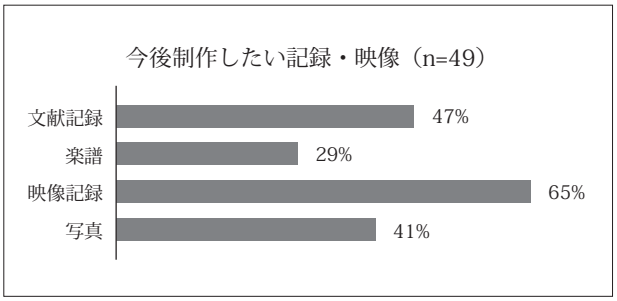
写真については「あり」が62％、「なし」が38％である。単年度撮影の写真もあるが、継続して毎年撮影を続ける団体もある。約20年以上撮影を毎年続けている団体を紹介する。

・雷電神社太々神楽（前橋市）：明治23年～
・八木原諏訪神社の太々神楽(渋川市)：昭和45年～
・長良神社の里神楽（邑楽町）：昭和48年～
・菅原神社太々神楽（富岡市）：昭和57年～
・伊勢町太々神楽（中之条町）：平成元年～
・烏子稲荷神社太々神楽（高崎市）：平成10年～



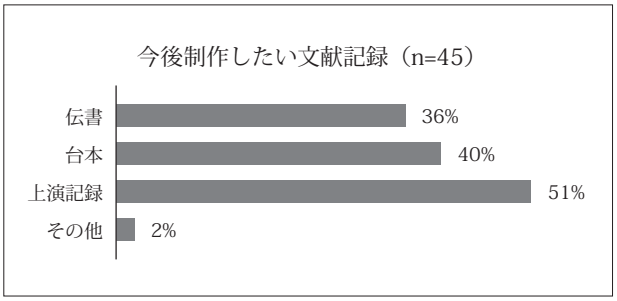
## 25. 今後制作したい記録・映像（複数回答）

今後制作したい記録や映像の種類については「映像記録」が65％と最も多く、次いで「文献記録」(47％)、「写真」(41％)、「楽譜」(29％) となっている。詳細は次のとおりである。




### (1) 文献記録（複数回答）

今後制作したい文献記録の種類については「上演記録」が51％と最も多く、次いで「台本」(40％)、「伝書」(36％) となっている。



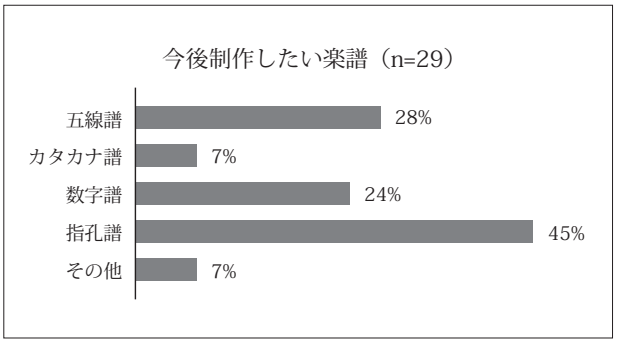

### (2) 楽譜（複数回答）

今後制作したい楽譜の種類については「指孔譜」(45％)、次いで「五線譜」(28％)、「数字譜」(24％)、「カタカナ譜」(７％) となっている。

【その他】

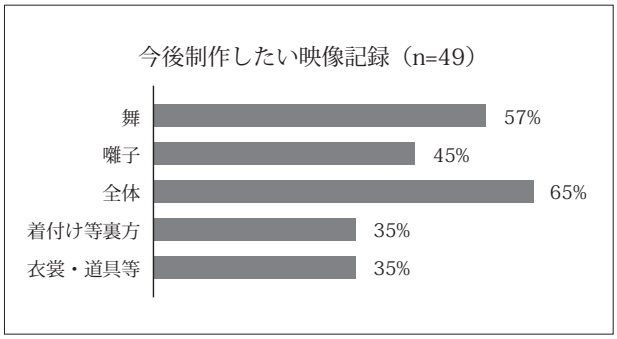
・太鼓の譜面

・口くさり表



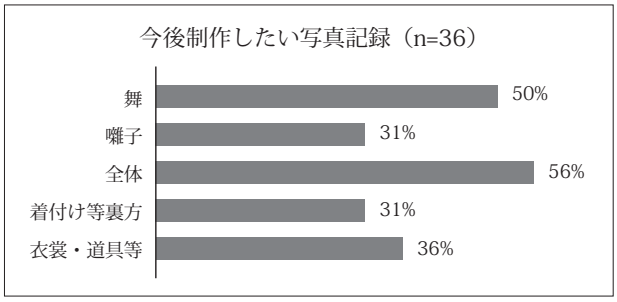

### (3) 映像記録（複数回答）

今後制作したい映像記録の種類については「全体」(65％)、「舞」(57％)、「囃子」(45％)、「着付け等裏方」「衣裳・道具等」(35％) となっている。既に全体の映像記録がある団体は、裏方や衣裳道具の撮影を希望していることがうかがえる。




### (4) 写真記録（複数回答）

今後制作したい写真記録の種類については「全体」が56％と最も多く、次いで「舞」(50％)、「衣裳・道具等」(36％)、「着付け等裏方」「囃子」(31％) となっている。




### (5) 映像や記録制作の課題（複数回答）

今後の映像や記録制作にあたっての課題は「資金がない」と「制作できる人がいない」が57％と最も多く、次いで「機材がない」が35％となっている。

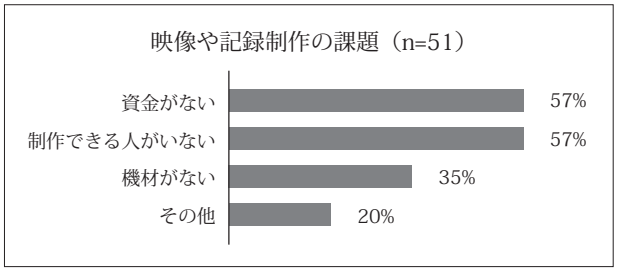
【その他】

・人数が少ないので奉納が精いっぱい

・制作する時間がない

・今後折りを見て実施

・中之条町にて保存事業実施中

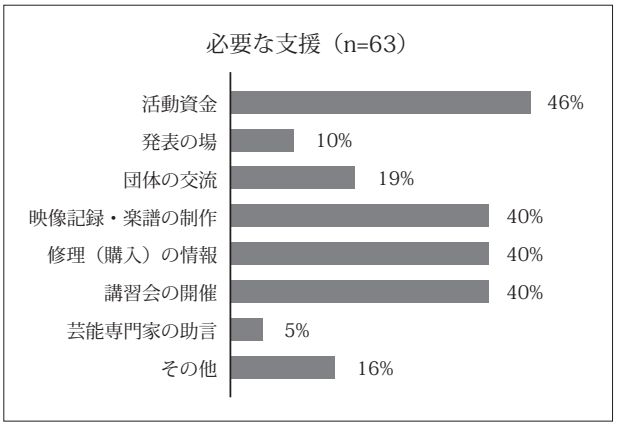


## 26. 必要な支援について（複数回答）

必要な支援については「活動資金」が46％と最も多く、次いで「映像記録･楽譜の制作」「修理（購入）の情報」「講習会の開催」(40%)、「団体の交流」(19%)、「発表の場」(10%)、芸能専門家の助言（５％）となっている。

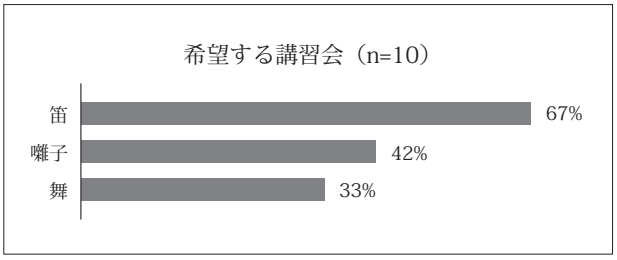
【その他】

- 獅子舞神楽についての知識・文献の入手
- 伝承継承の舞の正式解説
- 衣装、道具、神楽に関わる購入費の補助
- 衣装や小道具がいたんでいる
- 会員の確保
- 見学者を増加させること
- 先に立ってくれる熱心な世話人
- 県内の神楽の連合（連盟）、組織作り




### (1) 講習会（複数回答）

開催を希望する講習会の内容は「笛」が67％と最も多く、次いで「囃子」(42%)、「舞」(33%）となっている。

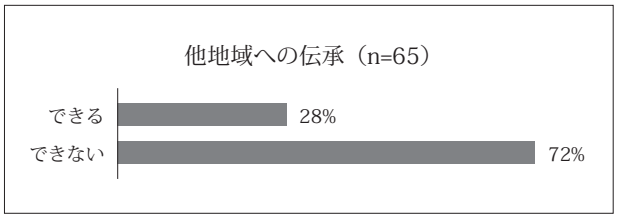



## 27. 他地域への伝承について

他地域への伝承については「できない」が72%、「できる」が28%である。

「できる」と回答した団体を紹介する。ただし、実施場所や距離など諸条件が団体によって異なるのでご注意願いたい。

- 植野稲荷神社太々神楽（前橋市）
- 総社神社太々神楽（前橋市）
- 雷電神社太々神楽（前橋市）
- 金古諏訪神社の太々神楽（高崎市）
- 長根神社宿神楽獅子舞（高崎市）
- 薄根太々神楽（沼田市硯田町）
- 大島岡里神代神楽（館林市）
- 猿田彦神社の大和神楽（渋川市）
- 八木原諏訪神社の太々神楽（渋川市）
- 御倉御子神社太々神楽（藤岡市）
- 藤木神楽（富岡市）
- 菅原神社太々神楽（富岡市）
- 咲前神社太々神楽（安中市）
- 野殿白山神社の太々神楽（安中市）
- 伊勢町太々神楽（中之条町）
- 菅原神社の太々神楽（東吾妻町）
- 布施稲荷神社太々郷神楽（みなかみ町）
- 長良神社の里神楽（邑楽町）

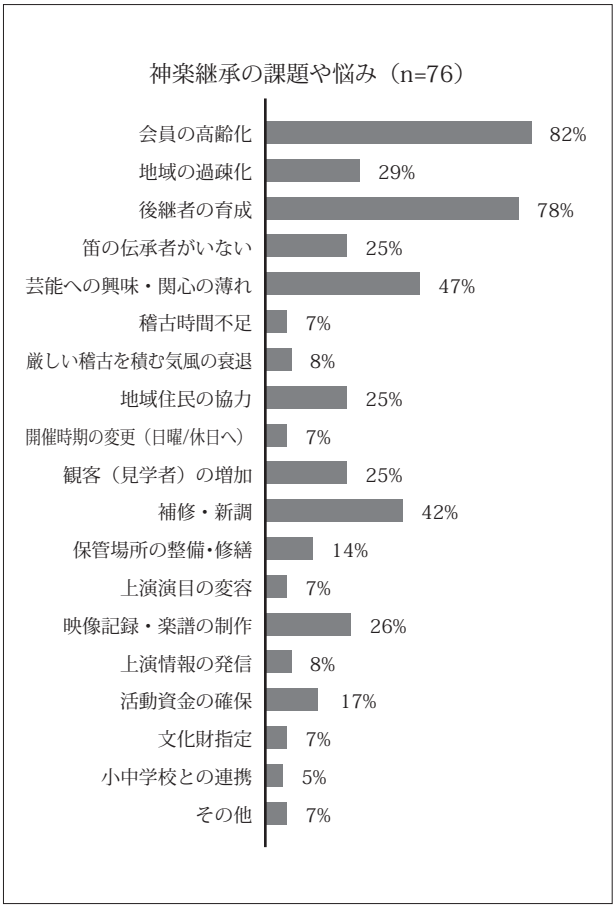


## 28. 神楽を継承していく上での課題や悩みについて（複数回答）

神楽を継承していく上の課題や悩みは、次のとおりである。上位から紹介する。

①会員の高齢化（82%）
②後継者の育成（78%）
③芸能への興味・感心の薄れ（47%）、
④衣裳・道具・収納箱等の補修新調（42%）
⑤地域の過疎化（29%）
⑥映像記録・楽譜の制作（26%）
⑦笛の伝承者がいない（25%）
　地域住民の協力（25%）
　観客（見学者）の増加（25%）
⑩活動資金の確保（17%）
⑪保管場所の整備・修繕（14%）
⑫厳しい稽古を積む気風の衰退（８%）
　上演情報の発信（８%）
⑭稽古時間不足（７%）
　開催時期の変更（日曜 / 休日へ）（７%）
　上演演目の変容（７%）
　文化財指定（７%）
　その他（７%）
⑲小中学校との連携（５%）

【その他】
・神楽殿の老朽化
・地域住民の無関心、信仰心の欠如
・子供用神楽を作りたいが、神楽舞用頭が無い
・行政（教育委員会、生涯学習関係）からの支援、指導
・関係者が地区役員（区長など）になり舞子の手伝いが出来なくなる



## 29. 神楽継承の秘訣について

・地元三社寺の協力、伝統芸能を守る。（前橋市）

・舞子連の理解と結束が後継者の確保につながっている。役員の伝統芸能を守る思いと住民の理解が、これまで自治会が全面的に支援できてきたことになっていると思う。（前橋市）

・懇親会、研修旅行（２年に１回）。（前橋市）

・伝統芸能の継承は、人（特に若手）と道具。これに金をかける。活動を活発にやって。人は、会員には大いに飲み食いしてもらう（周りからの金の使い方への批判をなくす努力が必要）。道具は、計画的に金をかけてゆく。（前橋市）

・親睦と和。会員の熱意。（前橋市）

・伝統芸能を守る強い意思。（前橋市）

・団体の結束、健康。（前橋市）

・伝統文化を維持すると思う使命感だけではなく、仲間同士が信頼関係で結ばれ、新しい会員を受け入れやすい保存会を作ることだと思う。地域住民や神社関係者は神楽を大切な宝物としてみんなで守る、こんな時代は過ぎ去り、保存会は好きな者同士のサークル活動だ。頑張ってくれみたいに他人事の感あり。その眼をこちらに向けられればと思う。（前橋市）

・団体の結束。後継者の育成。伝統芸能を守る強い思い。（高崎市）

・当神社の神楽の歴史の自覚。神楽師の責任とその自覚。子供への啓発と参加育成。技術伝承のための笛・太鼓・舞の教本制作（ビデオ）、地域との連携、広報活動の強化等。（高崎市）

・特にありません。会発足20数年、いろいろ工夫努力を重ねてきましたが、世の流れはいかんともしがたく、これも時代の中、いずれ衰退し、消滅していくものと思われます。先達が残し、引き継いだ郷土芸能、現状を維持し、最後の一人になるまで続けようと思っています。（高崎市）

・伝統芸能を「我々で保存継承をしていく」という会員それぞれの熱意と思いが結果的に団体の結束になっている。（高崎市）

・会員の熱意、使命感。（高崎市）

・地域の伝統文化を守り、伝えようという住民の意識の高揚・伝統芸能の継承に自ら関わり参加してみようという住民の積極的な姿勢。地域の行事全般に対する住民の協力意識。（高崎市）

・地域の理解と舞の解説ができる人が居ない。又、書物が無いので口伝えであり、きちっとした専門家の説明が欲しい。（高崎市）

・伝統芸能を守るみんなの熱意、会員の和。（桐生市）

・あったら教えてほしい。（桐生市）

・長い伝統があり、氏子の関心や誇りがある。しかし、神楽師募集の広告チラシ、ホームページ等で神楽師の募集や勧誘活動を行っているものの、今のところ成果が見られない。（太田市）

・いろいろな楽しみがある中、いかに神楽を知ってもらうかの努力が必要かと思います。その為には、わかりやすい解説を心がけて、①公演や奉納があることを広報してもらう。②他のイベント（フリーマーケット、くじ引き等）を考える。③福まきをいっぱいするなどして多くの人に見に来てもらう努力が必要と思います。伝承者の張り合いも生まれ、後継者誕生の期待など相乗効果が有るかと思います。（沼田市）

・団体の結束、熱意。住民の神楽への関心。（館林市）

・伝統芸能を守る強い思い。（館林市）

・由緒ある当神楽は明治33年頃に神社の世話人10人、徒歩で総社神社まで３か月間通い神楽の舞を習って伝授された神楽です。この由緒ある神楽を後世に伝えるため保存会舞子全員で舞の練習に努

力して、和を持って仲良く気楽に話し合いできるような雰囲気にしていく。（渋川市）

・会員一人一人に声をかける。（渋川市）

・①講員の中にスポーツの指導者がおり、若い年代の人にスポーツを通じて入講願いを行っています。②神楽講の中には進歩会という名称の団体がありこの中で、お酒の飲み会、ゴルフ大会、その他の活動をしています。（渋川市）

・中断しないで続けること。（渋川市）

・自治会の協力、会員の声かけ。十年毎に後進に譲る。（平成31年２月）全員舞子はかわる。（渋川市）

・最近、神社の氏子が神輿に関して昔、越後屋（現三越）からの奉納だったとの記録を発見し富岡世界遺産との関係で大補修をして日本橋まで出向して参加した。これにより急に盛り上がったがその中に神楽に興味を示してくれる人が少しであるが出てきた。神輿も良いが神楽についてもこれにもっと興味をもってもらって参加してくれる人を増やしたい。（藤岡市）

・地域住民の伝統芸能を守る強い思い。（藤岡市）

・保存会に誰もが入れる雰囲気作り。（藤岡市）

・地区の住人の結束、伝統を守る思い。（藤岡市）

・会員の熱意、伝統芸能を守る思い。（藤岡市）

・平成11年に氏子総代と話し合い、平成12年11月19日に舞子連を結成し、氏子は舞子連の方には一切の直接口出しはできない。会長に話す。若い人たちで笛、太鼓の練習を週一回一年間練習し、平成18年１月24日に名称も太々神楽保存会とし、誰でも参加出来る楽しい所にするよう話し合い、神楽殿に女性を入れて衣裳整理、着付け等を手伝ってもらっています。（藤岡市）

・地元（神社）を守るという気持かな。（藤岡市）

・地元地区の結束と保存会会長の熱意により他の会員の保存への意欲向上。（富岡市）

・神楽師による、伝統芸能を守る強い思いのみにより現在承継されている。（富岡市）

・会長の熱意、伝統芸能を守る強い思い、住民の楽しみ。（富岡市）

・団体の結束と伝統芸能を守る強い思い。（安中市）

・団体（保存会）の結束、声かけをして、舞う楽しみを強く持ってもらう。住民には伝統芸能を守る意欲をしっかりもってもらう。（安中市）

・会員等の交流。奉納後、親睦会（かさぬぎ）、高齢者の招待、子供や会員の皆様と一堂に会して親睦を図る。先祖から伝えた伝統芸能を皆で継承していく。（安中市）

・会員の神楽保存に対する使命感。（みどり市）

・一つの演技の演技者の舞を複数の人で覚えることで、一人の出演予定者の欠席による上演キャンセルを防げるので、一つの演技者の舞を普段複数の人で練習している。（囃子も同じ）その為に、会員全員で練習に参加できる。（上野村）

・若い方々への声かけ。神楽を継承していく思いを伝える。（中之条町）

・団体の結束が第一であると思う。祭（神楽）好きな人を見きわめつつ声をかけている。あまり個性的な人はさけ、責任感の強い人にねらいをつけている。いずれにしても会のまとまりが重要。（中之条町）

・歴代会長の神楽に対する熱意で多くの若者を勧誘し、熱心に神楽舞を継承してきた。（長野原町）

・団体の結束、座長の熱意、100年続く伝統の誇りと守る強い思い、住民の楽しみ（餅ひろい）、地域の協力。昔から当日は、着物や紋付袴で出席、履物は下駄と決まっています。（長野原町）

・なるべく若い人に声をかけるが、のってこない！
（東吾妻町）

・秘訣はともかく、現代人の生活とはかけ離れているので関心を持つ人が少ない。例えば娯楽については山ほどある、神話の世界に浸るほど心に余裕がない。よって秘訣は、人が神楽を心から楽しめるような世の中になってくれる事かと。
（東吾妻町）

・地域に在住する若者への声かけ。また、祖父・父の代から神楽を演じている方は、家族からもすすめてもらう。（東吾妻町）

・少子高齢化のために地域の過疎化の波に後継者の育成もできず平成26年から中断となりました。
（東吾妻町）

・そんなに強い決意があるわけではないですが、今までの伝統を守るという事だけです。（東吾妻町）

・地区文化の伝承の意欲が有り声をかければ抵抗なく打ち合わせに集まり、それにのってくれる。住民も楽しみにしているのも事実です。
（みなかみ町）

・伝統芸能を守る。（みなかみ町）

・伝統芸能を守るため、若い世代の加入を進めている。（みなかみ町）

・地元氏子によって神楽を奉納したいという思いが根源となっている。昭和40年代に笛を吹ける人が亡くなり、それを機に地元氏子による奉納が途絶えてしまい、館林市の神楽師が例大祭に奉納しに来た。（板倉町）

・伝統芸能を継承しようとする強い考えを持っている人が世話人として多数いること。そういう人がいれば団体は自然と結束する。会長の熱意だけでは継承はできない。むしろ会長を助ける補佐役がしっかりしていれば継承は確実。（大泉町）

・近くの保存会との技術指導、情報交換等を適宜、会員全員が参加している。このプロセスが継承につながっていると思う。もう一点は総合学習として、幼・小・中との連携・融合体験である。参加することで会員一人一人に専門的資質や責任感が派生。次回、次年度での再会、発表へとつながり、やり甲斐と共に継続、継承へと鎖になっている。（邑楽町）

## 30. その他のご意見について

・演目等の解説・解釈は、明確で詳細なものが記録として残っていないので、現在生存されている方たちの推測が多くやや物足りないが、後継者の確保等に必須要件でないため、活動の継承が行えているのかもしれない。太々神楽の継承は、時代とともに変わってきた社会や地域の環境を勘案し、長男でなくても町内への転入者でも認めるようになったこと、舞子連に会社員が増えてきたために上演 DVD を配布して、集合練習時間を短縮する等の工夫があってできてきたと思う。小さい頃から聞いていたお囃子を青年期になっても覚えていて、演じる側に興味を持っていただけるように続けていくことが大切と思っています。
（前橋市）

・かつては、農家の後継者や神職につながる方々が継承していた。近年は産業構造の変化に伴い、若年層のサラリーマン化が進み、サービス業や製造業での交代勤務化が増加するなど、夜間に多い練習への参加や休日の公演時間の確保が難しくなっている。継承できる環境にある職場を提供できたらどうだろうか。地元の公務員、準公務員などは？地元企業は？　（前橋市）

・自治会、町内を上げてこの伝統芸能を末長く継承していかなくてはと思っております。（前橋市）

・口伝による継承のため、各舞の説明ができません。でも格式のあるすばらしい神楽と思い、大切に守り後世に伝えたいと思います。　（前橋市）

・高齢なので若い後継者の加入を勧めていきたいと思います。　（前橋市）

・当神楽保存会では保存会長を中心に昨年より議論を重ね、試行錯誤しながら動き始めました。その１つは子供の参加と育成が大切であるとわかり、参加しやすいよう取り組んでいきたいと考えています。　（高崎市）

・伝統芸能継承の意義を説明しきれない。（高崎市）

・会員が高齢化しているため、こういったアンケートは書ける人がいない。教育委員会の手助けがないと、地元以外の活動はむずかしい。（館林市）

・会員が減る一方。　（館林市）

・前年（平成28年度）に小中学校で実演を行ったのですが、今年は講員の皆さんが平日の為休めないので辞退いたしました。平日の出演は無理です。
（渋川市）

・多くの会員が入会して10年もすると、少しずつ気持の余裕も出て来るのか、本当に神社、神様を考えるような傾向がみられる。神楽をただ舞っているだけ。というのではなく神様に奉納しているという気分になる。ですから途中でイヤになって辞める人がいない。ただ、入る事に関してはなかなか決心するのが難しそうです。　（藤岡市）

・現在の春（神楽）、秋（獅子）の奉納をするだけで精一杯で、他への余裕が無い。主力の会員のほとんどが、仕事を持っているため時間的制限がある。そんな中、保存会に入って稽古をする人は、身内に神楽・獅子の経験者がいても、３割程度です。時間的に余裕が取れる60代の定年退職者が入会するのですが、舞・笛等学習できず居るだけの状態です。春と秋に奉納する神楽・獅子を見て私もやりたいと思わせる魅力のある何かを探します。　（藤岡市）

・当地区において過疎化が進み後々まで継承していけるか不安。　（藤岡市）

・３年前から当該地区のみでなく５町内に呼びかけているが、入会は２名のみ。やめていく人（高齢）がいるので、継承が難しくなってきている。現在、10名でやっているが、少なくともあと５名はほしい。なかなか増えないが、できる範囲で何とか続けていきたい。　（藤岡市）

・地元の神社の存続が心配になります。地域の氏神様という意識が薄れてきたようです。（藤岡市）

・由来や伝承事項、演目の配役名と不明確の部分もあるため今後時間をかけてでも、調べていきたい。　（富岡市）

・娯楽行事が多様化し、氾濫している現在。古来より継承されている伝統芸能を我々の世代で無関心・無責任の名の下に消滅させてはいけない。当地区には、明治の頃までもうひとつの神楽と人形浄瑠璃があったが、実質は伝承者の欠損により消滅したと考えられ、当該神社の境内に四社の祠として葬られている。又、夫婦とも言われる男神楽は既に絶えており、頭だけが飾られているのは淋しい。（富岡市）

・義務教育から古事記などが宗教的とみなされ、排除されたため、神楽を舞っても意味のわかる大人が少ない。50代以下は理解できない。伝統芸能を守るなら、神話の神様くらい教えなければいけない。それは軍国主義などとは本来関係ない「教養」だと思います。（富岡市）

・後継者の育成が第一と思っている。平均年齢が70歳代となり、90歳以上もおり、どうしても若い人に引き継いでもらいたい。何か特典がほしい。（安中市）

・神楽殿は昭和40年ごろ取り壊し地区の公民館となり、現在学童施設に変わり、そこで神楽を奉納しています。（みどり市）

・昭和48年より前に若干の中断の時期があったと思います。現在は、21名により順調に出来ている。発祥した時代は不明ですが面装束の購入年月日に明治33年と記録がある（昭和50年町調査結果）。（中之条町）

・我が会は10年周期で役員交替している。平成31年度が交替時期となるので、その選任と新規会員数名の加入を目指している。神楽継承は問題なきものと思えるが、平行して行っている「雅楽」の方が問題になると心配している。（中之条町）

・衣裳や小道具を新しくしたいが資金不足で出来ない。新しい団員が２～３人ほしい。今12名、理想16名。（長野原町）

・伝承されてきたルーツ的な記録が乏しく昔伝えられていた「新潟の弥彦神社から」という話に代表者が昭和40年代に訪ねたが、内容が違っており、現在はそのままとなっている。古い話に「越後から渡って来た器用な方が幾日もかけて舞と囃子を教えてくださった。」こんな話をたよりに新潟の刈羽地方に合う舞の地があるか尋ねたい。資料が欲しいです!!（みなかみ町）

・昭和３年より神楽舞を地域の春祭として続け、戦時中も男の人達で休むことなく継続して春の農事初めの祭りとして行ってきました。高崎の大類より師を招き舞・笛太鼓を習得し、現在に至る。（みなかみ町）

・神社に神楽を奉納することを第一主義としている。伝統芸能の保存や普及は、主目的ではない。見世物化することには、神楽の本筋とは少し異なると感じている。精神的なものが継承されなくなる危惧がある。また、会員のほとんどは農業従事者であり、何日も休めない事情もある。継承については意識が高いが、普及や公開については低い。神社に対する崇敬意識の低下が止まらない。地鎮祭は行うが、子供が誕生して、お七夜（初宮参り）、初節句、七五三、入園、入学などの人の一生の節々に神社参詣を行わなくなった。七五三でも他の有名な神社へ行ってしまう傾向にある。土産神の意識が欠如している。（板倉町）

・もはや伝統芸能継承に関心を持つ愛好家はいない。伝統芸能公演があっても参観者は出演者の身内が主でわざわざ観に行く人は極少数。地区の恒例行事の余興で神楽を演ずるがそうでなければ大勢の人に神楽を見てもらうことはない。単独で神楽を披露してもわざわざ観に来てくれる人は少数である。神社奉納神楽がそうである。神社の春秋祭りといっても氏子がお参りするだけのお祭りだが、今はその習慣もなくなり神社の世話人だけで儀式を執り行うだけで氏子は数人しかお参りしない。そこで神楽を奉納して多くの氏子の参拝を期待したが、神楽を観ようという参拝者は少数でしかない状況。宮内庁の雅楽のように役所が業務で維持に努めれば伝統芸能は消滅しないと考える。もし役所に継承のために助成金で伝統芸能を支援しているという考えがあったら間違い。資金がいくらあっても全く継承の役にはならない。あくまでも人材でその人材が経済的に潤えば伝統芸能が消滅することはない。愛好者だけで伝統芸能を継承することは生活習慣や生活環境が大きく変ってしまったため限界である。（大泉町）

・継承の秘訣は、いろいろあると思いますが、基本的に①保存会②行政（教育委員会、生涯学習等）③地域（主催・神社他）が三位一体となり、各々が水平の立場で目標に向かい取り組んでいくべきです。今回の調査でも、再度感じた事は、仮称「群馬県神楽連合会」の設立です。組織づくりをしませんと衰退、形骸化に行きます。（邑楽町）

# 調 査 票

平成29年度文化芸術振興費補助金（ぐんまの伝統文化普及啓発事業「ぐんまの神楽シンポジウム」）

## ぐんまの神楽アンケート調査票

※ 必要に応じて、行を追加・削除してご使用ください。または、資料を添付してください。□には、レを入れてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1（ふりがな）<br>神楽の名称 | | 指定有無 | □ 無 □ 市町村指定 □ 県指定 |
| | | 指定日 | □ 昭和<br>□ 平成 年 月 日 |
| 2 伝承地 | 市 村<br>町 | 神社名 | |
| 3 伝 承<br>団体名 | | 団体設立<br>年月日 | □ 昭和<br>□ 平成 年 月 日 |
| 4（ふりがな）<br>団体代表者 | | 〒<br>住所<br>電話 | |

**5 伝承状況**
・近年の変化・・・□ 順調 □ 中断の危機 □ 中断中（□ 復活の機運あり □ 復活の可能性なし）
・今後の見通し・・・ □ 中断の可能性あり □ 中断の可能性なし

**6 活動資金**（複数回答可）
□ 会費 □ 地域（自治会など）の補助金 □ 有志（個人）からの祝儀や寄附
□ 企業寄附 □ 市町村からの助成金・補助金 □ その他（ ）

**7 伝承団体の構成現状**
・過去、3年間の団体人数 □ 増えている □ あまり変化はない □ 減っている
・構成員数（ 人 内訳：出演者（舞・お囃子） 人・その他 人 ）
出演者（舞・お囃子）の年代

| | 10代以下 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 女 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

・構成員のうち、指導的立場の方は何人いますか？ 人）
指導者の年代 ※重複可能

| | 10代以下 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 舞 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 笛 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 太鼓 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |

**8 伝承団体の加入条件**
□ 条件がある □ 興味があれば誰でも可能
・地域 □ 伝承地域（ □ 在住 □ 在勤 □ 出身 ） □ 近隣地域 □ 問わない
・性別 □ 男性限定 □ 性別不問 □ 子どものみ女児も可能
・年齢 □ 成人のみ □ 不問 □ その他（ ）
・その他 □ 長男限定 □ 既婚者 □ 世襲（家筋） □ 氏子・檀家 □ 神職 □ 講員
□ 規約がある □ 自治会員 □ その他（ ）

**9 地域との関係の有無**
□ 関係なし
□ 関係あり（ □ 自治会 □ 世話人 □ 婦人会 □ 育成会 □ その他 ）
・行事別に関係する場合
□ 全て □ 祭礼(奉納)時 □ 練習時 □ 周知協力(祭礼・会員募集等)

1 ページ

**10 練習日数・習得期間**
・練習日数（年間） □ 7日以内 □ 8～15日間 □ 16～20日間 □ 21日以上
・練習月 □ 1月 □ 2月 □ 3月 □ 4月 □ 5月 □ 6月 □ 7月 □ 8月 □ 9月 □ 10月 □ 11月 □ 12月
・習得期間 例）2年、1年～3年、3年～10年、5年～10年
・舞（ 年～ 年）
・笛（ 年～ 年） ・太鼓（ 年～ 年）

**11 神楽の由来・伝承**（400字以内）
※または、別紙を添付してください。

**12 公開行事**
・祭り行事（神楽）は、定期的に行われていますか？
□ 毎年 □ 隔年 □ 年毎 □ 不定期（ の時）
・1年間の主な神楽奉納

| 祭り・行事 | 場所（神社・施設名） | 期 日 | 時 間 | 見学者数 |
|---|---|---|---|---|
| 例）春季例大祭 | ○○神社 | 4月第2日曜日<br>（4月15に近い日曜日） | 10:00～15:00 | 30人 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※必要に応じて行を追加してください。または、別紙を添付してください。

・その他の神楽奉納 例）○○郷土芸能大会（□□文化会館）9月、○○神社（△△市）4月（各年）

2 ページ

**13 お囃子**
・神楽奉納時の主な楽器と構成人数を教えてください。

| 楽器名 | 人数 | 楽器名 | 人数 | 楽器名 | 人数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |
| | | | | | |

・お囃子の曲数を教えてください。（ 曲）
・ご使用の笛について教えてください。 □ 篠笛 □ その他（ ）
・調子 □ 5本調子 □ 6本調子 □ 7本調子 □ 8本調子 □ その他（ ）
・指孔 □ 6孔 □ 7孔 □ その他（ 孔）
・奉納時のお囃子は、音源（カセットテープやCD）を利用していますか？
□ 利用していない(生演奏) □ 利用している（ □ 笛音のみ □ 全て ）
・神楽奉納時のお囃子はどちらにありますか？
□ 神楽殿上 □ 楽屋（神楽殿の裏方） □ その他 （ ）

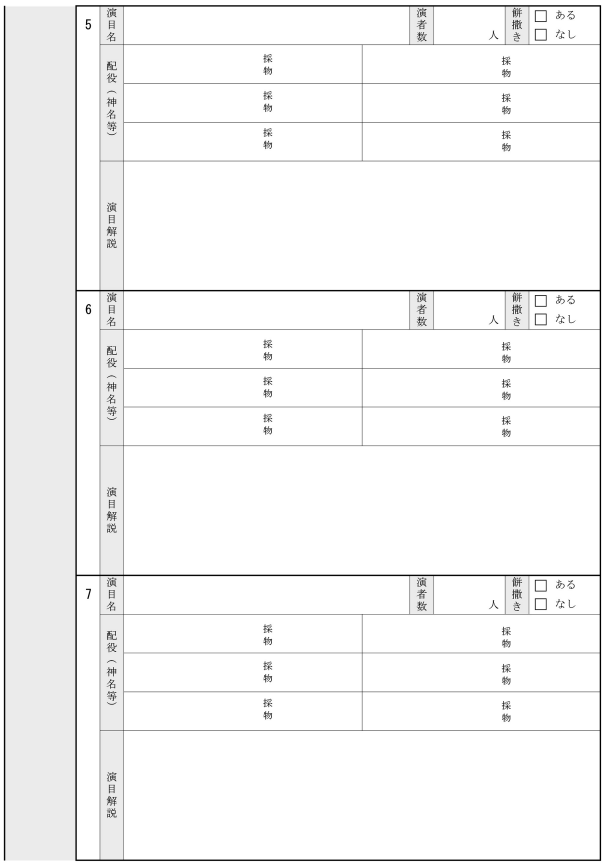
**14 演 目**
おおよその上演順でお書きください。
※必要に応じて行を追加してください。または、別紙を添付してください。
・上演できる演目数（ ） ・登場する配役（神様等）数（ ）
※「演者数」欄は演者人数を記入。
※「餅撒き」欄は上演後（または上演中）に餅撒き行う演目にレ印。
※「配役」欄は、出演する演者名等を記入し、「採物」は演者の持ち物を記入。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 例 | 演目名 | 岩 戸 | 演者数 | 5 人 | 餅撒き □ ある ☑ なし |
| | 配役（神名等） | 天照大御神 採物 鏡・宝玉 | 児屋根命 採物 | 弊・扇 | |
| | | 太玉命 採物 弊・扇 | 宇津女命 採物 | 弊・鈴 | |
| | | 手力男命 採物 岩戸・鈴 | 採物 | | |
| | 演目解説 | 須佐之男命のいたずらを嘆き、大御神は岩屋にこもられ世は一転の常闇となる。如何にして天照皇大御神を岩屋より出すかと八百万の神々の評定の結果、宇津女命に面白おかしく踊らせ、外が騒がしい為に様子を見ようと岩戸を少し開けられ、手力男命がすかさず岩戸を開け、天照皇大御神の御手を取り屋外につれ出し、世の中が明るくなったという演目です。 | | | |
| 1 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ ある □ なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |

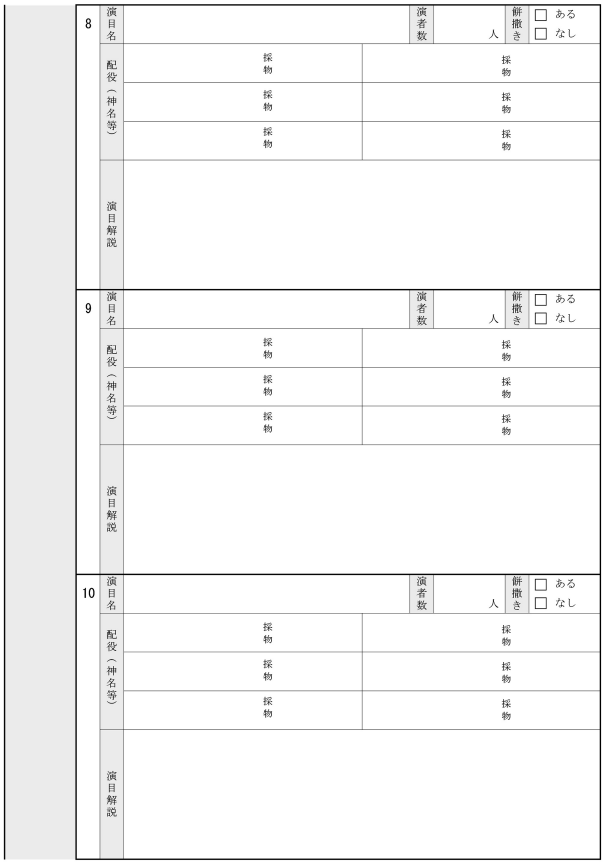
3 ページ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ ある □ なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 3 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ ある □ なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 4 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ ある □ なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |

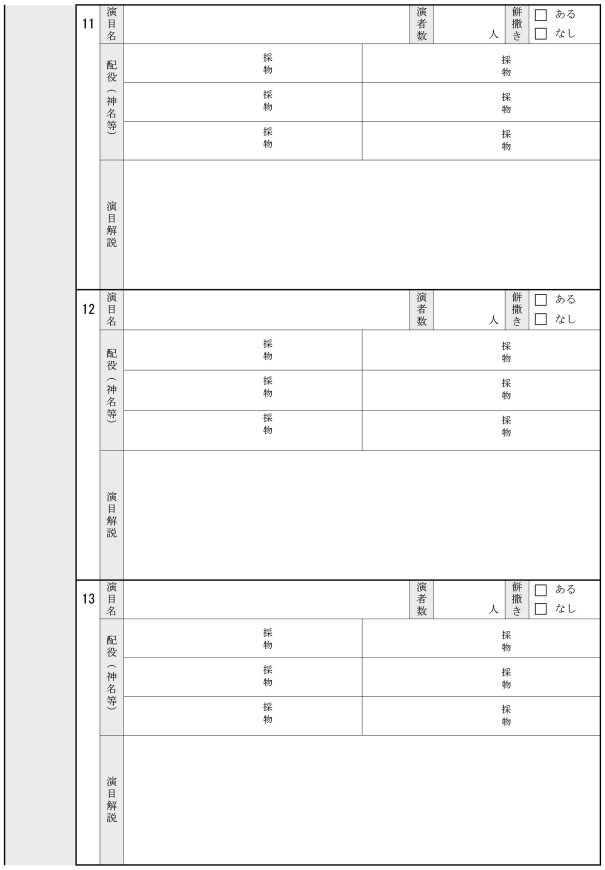
4 ページ



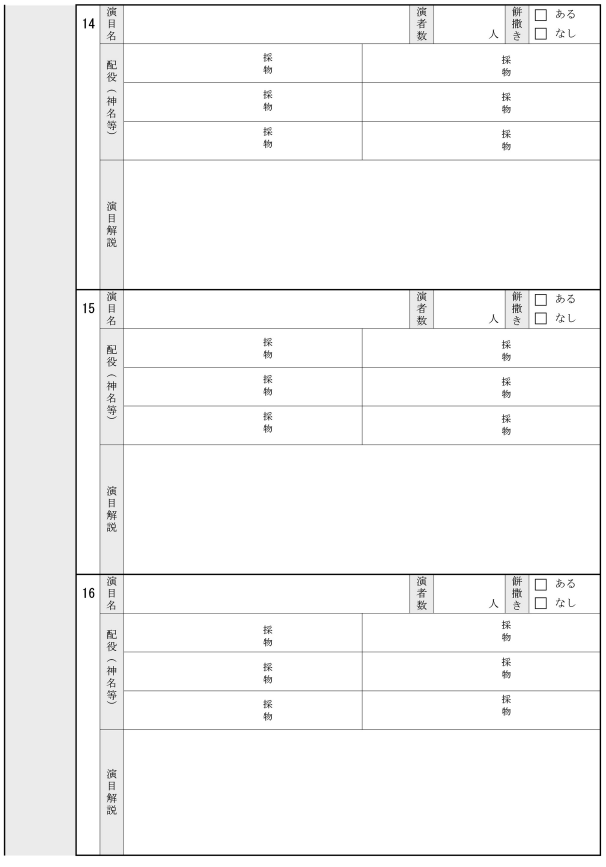

5ページ




6ページ




7ページ




8ページ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 18 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 19 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |

9ページ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 21 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |
| 22 | 演目名 | | 演者数 | 人 | 餅撒き □ある □なし |
| | 配役（神名等） | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | | 採物 | 採物 | | |
| | 演目解説 | | | | |

**※演目一覧等がありましたら、添付してください。**

10ページ

**現在は上演できないが、かつて上演した演目（ ＿＿＿座）**

| | |
|---|---|
| 1 | 6 |
| 2 | 7 |
| 3 | 8 |
| 4 | 9 |
| 5 | 10 |

・神楽奉納時に、必ず上演する演目は決まっていますか？ （上記「演目」表の演目番号をご記入ください。）

・舞の省略がありますか？ □ある □ない

・上演中に餅などの供物を撒くことがありますか？ □ある □ない

「ある」場合は、その名称を教えてください。［ ］ 例）福まき、餅投げ

・舞は、式舞（神事舞）と愛嬌舞（興舞）の区分がありますか？

□ない □ある（ 式舞 ＿＿＿座 ・ 興舞 ＿＿＿座 ）

・養蚕や絹織物に関する演目がありますか？

□ない □ある（ □現在も行っている □以前行っていた（演目名がある））

**15 周知・集客工夫**

・神楽奉納の周知や集客のために、事前に何か工夫を行っていますか？ □行っていない

□回覧板（町内） □チラシ等の作成・掲示 □市町村広報 □その他（ ）

・当日、観客（見学者）に向けて、何か工夫を行っていますか？ □行っていない

□餅撒き □演目掲示 □演目等の解説 □資料配布 □その他（ ）

**16 小中学校との連携**

・近隣の小・中学校との連携がありますか？ □ない

□ある（ □現在もある □以前はあった ）：学校名（ ）

・連携内容について教えてください。：会場 □学校内 □学校外（会場： ）

内容： □講話 □実演（披露） □指導 □その他 頻度：＿＿＿年に＿＿＿回

・小中学校と連携を図りたいですか？ □希望あり □希望なし

・学校外で、外部指導ができますか？ □できない □できる（□笛 □舞 □囃子全般 ）

**17 記録・映像資料の有無**（複数回答可）

・文献記録 □口伝のみ □伝書（由来・歴史等） □台本（舞の順・動き方） □上演記録

・楽譜 □口伝のみ □五線譜 □カタカナ譜 □数字譜 □指孔譜 □その他

・映像記録 □なし □8ミリフィルム □ビデオテープ □DVD □その他

過去、何年分の記録をお持ちですか？（期間： 年 年） 例：昭和61年、平成5年 平成15年～平成29

・録 音 □なし □カセットテープ □レコード □CD ※映像付帯を除く

・写 真 □なし □あり

過去、何年分の記録をお持ちですか？（期間： 年 年） 例：昭和50年、平成20年 平成15年～平成29年

・今後、どのような記録や映像を作成したいですか？

□文献記録（ □伝書（由来・歴史等） □台本（舞の順・動き方） □上演記録 □その他）

□楽譜（ □五線譜 □カタカナ譜 □数字譜 □指孔譜 □その他（ ））

□映像記録（ □舞 □お囃子 □全体 □着付け等裏方 □衣裳・道具類 ）

□写真記録（ □舞 □お囃子 □全体 □着付け等裏方 □衣裳・道具類 ）

・映像や記録の作成に当たり、課題がありますか？

□資金がない □作成できる人がいない □機材がない □その他（ ）

11ページ

**18 必要な支援**（複数回答可）

□活動資金 □発表の場 □神楽団体の交流（情報交換） □映像記録・楽譜の作成
□修理（購入）の情報 □講習会の開催（□笛 □囃子 □舞 ） □芸能専門家の助言
□その他（ ）

**19 他地域への伝承**

・他地域への伝承はできますか？

□できない □できる （実施場所：□伝承元 □伝承先 □その他（ ））

**20 神楽を継承していく上での課題や悩みは何ですか？**（複数回答可）

□会員の高齢化
□地域の過疎化
□後継者の育成
□笛の伝承者がいない
□芸能への興味・関心の薄れ
□稽古時間不足
□厳しい稽古を積む気風の衰退
□地域住民の協力
□開催時期の変更（日曜・休日へ）
□観客（見学者）の増加
□補修・新調（□衣裳 □面 □道具 □収納箱 ）
□神楽の衣裳・道具類の保管場所の整備・修繕
□上演演目の変容
□映像記録・楽譜の作成
□上演情報の発信（広報活動）
□活動資金の確保
□文化財指定
□小中学校との連携
□その他［ ］

**21 神楽継承の秘訣は何ですか？**

例）団体の結束、会員の声かけ、会長の熱意、伝統芸能を守る強い思い、道具の存在、住民の楽しみ

**22 その他、ご意見等をご自由にお書きください。**

**＜ご記入者連絡先＞**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 伝承団体名 | | 役 職 | |
| （ふりがな） | | 住 所 | |
| 氏 名 | | 電 話 | |
| 問合せ先 | □団体代表者 □調査票記入者 | 報告書等送付先 | □団体代表者 □調査票記入者 |
| 同封資料 | □写真 □その他（ ） | | |

**※平成29年7月7日（金）までにご投函ください。**

**【問い合せ】**日・月曜日・祝日を除く 8時30分～17時00分
公益財団法人群馬県教育文化事業団 事業課
〒371-0801 前橋市文京町2－20－22 （群馬県生涯学習センター2F）
電話027－224－3960 Fax027－221－4082

12ページ

## ぐんま地域文化マップ

群馬県教育文化事業団では、県内のさまざまな伝統文化・芸能・行事を紹介するWEBサイト「ぐんま地域文化マップ」を運営しています。

○団体情報や上演情報（地域の祭り、イベント等）を検索し、調べることができます。また、団体の方は上演情報を事務局にお寄せいただき、ＰＲや集客にご利用いただけます。

○広く県民の皆様に情報を提供していただき、それを公開できる場として「伝統文化レポート」のページを設けています。

○伝統文化レポーターとして登録し、県内の身近な伝統文化情報をお寄せ下さい。応募資格は特にありません。地域の伝統文化を広く紹介したい熱意のある方で、インターネットが使用できる環境をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。また、インターネットが使用できる環境にない方も、情報を事務局にお寄せいただければ公開します。

**http://www2.gunmabunkazigyodan.or.jp/cgi-bin/**

# 資　料


## 神楽の伝承地 …… 50

前　橋　市……50
高　崎　市……55
桐　生　市……60
太　田　市……61
沼　田　市……61
館　林　市……62
渋　川　市……63
藤　岡　市……66
富　岡　市……70
安　中　市……72
みどり市……73
榛　東　村……74
吉　岡　町……75
上　野　村……76
神　流　町……76
甘　楽　町……76
中之条町……79
長野原町……83
高　山　村……84
東吾妻町……85
昭　和　村……88
みなかみ町……88
板　倉　町……91
明　和　町……92
大　泉　町……92
邑　楽　町……93

## 神楽の開催日程 …… 94

# 神楽の伝承地

## 産泰神社太々神楽
（さんたいじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市下大屋町
伝承団体　産泰神社太々神楽保存会
公開期日　４月17日・18日　産泰神社（春季例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和48年９月24日指定）

**■由来・伝承**

下大屋にある産泰神社は、安産の神として知られる。この神社には、古くから太々神楽が伝わっている。神楽の由来については不明であるが、神楽の奉納額に明和元年（1764）銘のものが現存することからみても、古い伝統があることが分かる。

この神楽は、古くは神職が奉納していたが明治10年頃から氏子によって奉納されるようになった。奉納日は毎年４月17・18日で出雲神楽の系統を引く里神楽である。舞の所作は、比較的能に近いものがある。現在、「猿田彦の舞」「四神の舞」「大蛇退治の舞」など23座が舞われており、近郷近在の神楽に多大な影響を与えている。（協力：前橋市教育委員会）

## 二宮赤城神社太々神楽
（にのみやあかぎじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市二之宮町
伝承団体　二之宮町無形文化財保存会
公開期日　１月１日　二宮赤城神社（元旦祭）
　　２月11日　神明宮神社（玉村町樋越）
　　４月15日　二宮赤城神社（春季例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（平成21年３月24日指定）

**■由来・伝承**

太々神楽の起源は定かではないが、境内にある神楽殿や歌舞伎舞台が文化４年（1807）頃の建立であることから、この頃には既に奉納されていたと考えられる。

神楽は本座15座、裏座９座の合わせて24座が伝わる。本座の舞は類型から幣、採物、扇、剣等を持つ大和舞の系統である。裏座は伴人（捨方、火男）等を配したユーモラスのある里神楽の系統で、共に関東の磐戸神楽の類型に属している。神楽舞と式三番叟は共に境内にて奉奏され、現在も二宮赤城神社例大祭に毎年太々神楽を奉納し、例大祭の一環をなしている。

**■演目**（16座：式舞・興舞）
「岩戸」「四神之舞」「天之宇売命之舞」「天手力男元命之舞」「水次ぎ之舞」「両神之舞」「八俣遠呂智退治之舞」「住吉大神之舞」「迦具土之命之舞」「随人之舞」「象義之舞」「打出し之舞」「鍛冶屋之舞」「玉取り之舞」「針打ち之舞」「大工之舞」

**■登場する配役（神様等）**　43柱（体）

**■出演者**　15人

**■囃子**　15曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔）・大太鼓・締太鼓

## 片貝神社太々神楽
（かたかいじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市東片貝町
伝承団体　片貝神社太々神楽保存会
公開期日　１月13日　片貝神社（新年例大祭）
　　４月第２日曜日　片貝神社（春季例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和48年９月24日指定）

**■由来・伝承**

片貝神社太々神楽は、明治20年に総社神社から伝えられたと言われている。当時、この神社は片貝の地に長男として生まれた者でなければ伝承できなかったため、誇りと自尊心を持っていた20名の長男が集まり初代が発足した。戦後は３年間を一代（一期）とし昭和48年まで21代続いた。その間実に87年、舞子連名簿の巻物には410名もの名前が書き込

まれている。

親から子、子から孫へと受け継がれている神楽が昭和48年９月に前橋市重要無形民俗文化財に指定された。これを機に太々神楽保存会が結成。昭和49年以降は太々神楽保存会の舞子連として今日まで130年間一度も中断することなく、無病息災、五穀豊穣等を祈願し毎年大祭に奉納している。

**■演目**（21座）

「大幣」「神招き」「天孫降臨」「天の岩戸の舞」「猿田彦大神の舞」「種蒔きの舞」「両刀の舞」「八幡大神の舞」「御状の舞」「片鉾の舞」「釜戸の舞」「嘉古の舞」「一本刀舞」「焉蔵の舞」「釣り場の舞」「片扇の舞」「扇の舞」「玉転がしの舞」「金山彦命の舞」「恵比寿・大黒天の舞」「大蛇の舞」

**■登場する配役（神様等）** 44柱(体)

**■構成員** 21人（出演者20人・その他１人）

**■囃子** 13曲

**■囃子構成** 笛（７孔５本調子)・宮太鼓・締太鼓

## 大峯神社太々神楽

（おおみねじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市嶺町
伝承団体　大峯神社太々神楽保存会
公開期日　５月上旬（八十八夜）　大峯神社

## 春日神社太々神楽

（かすがじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市上佐鳥町
伝承団体　春日神社太々神楽保存会
公開期日　５月３日　春日神社（八十八夜の大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和49年８月26日指定）

**■由来・伝承**

上佐鳥町の春日神社太々神楽は、江戸神楽の系統を引くもので、明治時代中頃に始まった。下大屋町の産泰神社の神楽から伝承されたもので、神代神楽と里神楽の両方が伝えられている。里神楽で珍しく、この地の養蚕習俗を劇的にまとめた「蚕の舞」がある。蚕の舞は下南室太々御神楽（渋川市）にも伝えられている。江戸時代後期に養蚕が盛んになると養蚕の収入が農家経済を大きく左右したため、様々な形で養蚕を神仏に祈願するようになり独特の舞が創案されたのである。

太々神楽は、この地で生まれた（農家の）長男によって組織される神楽連が継承してきたが、社会や地域環境の変化などを受け、平成になると20歳以上の上佐鳥町に在住する男性という条件に緩和され今日まで受け継がれている。

**■演目**（14座：式舞８座・興舞６座）

「二人天狗ノ舞」「四柱ノ舞」「猿田彦ノ舞」「細目ノ舞」「餅搗ノ舞」「戸隠ノ舞」「剣ノ舞」「鍛冶屋ノ舞」「蚕ノ舞」「春日ノ舞」「明神ノ舞」「大工ノ舞」「火神ノ舞」「種蒔ノ舞」

**■登場する配役（神様等）** 41柱(体)

**■構成員** 56人（出演者21人・その他35人）

**■囃子** ９曲

**■囃子構成**

篠笛（７孔７本調子)・大太鼓・小太鼓・鉦

# 神楽の伝承地

## 植野稲荷神社太々神楽

（うえのいなりじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市総社町植野
伝承団体　植野稲荷神社太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　稲荷神社（春季例大祭）
　　４月第２日曜日　若子持神社（渋川市北牧）
前橋市指定重要無形民俗文化財（平成11年４月20日指定）

**■由来・伝承**

神社の言い伝えによれば、元弘３年（1332）に総社の豪族赤松氏が新田義貞等と共に鎌倉幕府討伐に向かうときに戦勝を祈念し、太々神楽を奉納した。また、慶長７年（1602）に秋元氏が勝山城を築城し、乾の方角に当たる当社を城の守り神として崇拝し、大阪の役に出陣するときも太々神楽を奉納して戦勝を祈念したと伝えられている。

氏子の伝承によれば、古くはこの地の神官の奉仕による素朴単純なものであったが、幕末の元治・慶応年間（1864～1868）に当時の群馬郡六郷村の小塙稲荷神社に伝承されていた神楽を移入して加えたものと言われている。「天保八丁」（1837年）の墨書があるが、多くは昭和初期に盗難に遭い、再製され現在に至っている。昭和10年に愛好会が結成され、昭和15年から戦争激化に伴い７年間中断したが、平成２年に保存会が発足し、今年まで東日本大震災の時を除き毎年すべての舞の奉納を続けている。

**■演目**（17座：式舞14座・興舞３座）
「大麻」「榊之舞」「三舞」「猿田彦大神・剣持」「伊佐那岐之命・伊佐那美之命」「天之児屋根之命・天之太玉之命（岩戸開き）」「天照大神・宇受売之命・手力雄之命（岩戸開き）」「保食大神・一ツ狐」「鍛冶之命・天之目一之命（鍛冶屋）」「誉田別之命」「二ツ狐（雄・雌）・道反大神」「瓊々岐之命・磐長姫之命・経津主之命」「日本武之命」「蛭子之命・岡持（4）」「八幡大神」「稲田姫之命・足名槌之命・八俣大蛇（八俣大蛇）」「大国主之命」

**■登場する配役（神様等）**　31柱(体)

**■構成員**　23人（出演者14人・その他９人）

**■囃子**　14曲

**■囃子構成**　笛（６孔６本調子）・大太鼓・締太鼓

## 飯玉神社太々神楽

（いいだまじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市後閑町
伝承団体　飯玉神社太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　飯玉神社（広瀬町・春季例大祭）
　　４月第２日曜日　日枝神社（山王町・春季大祭）
　　12月31日～１月１日　飯玉神社（広瀬町・元旦祭）

**■演目**（14座：式舞11座・興舞３座）
「二神返拝舞」「両神舞」「四神舞」「宇受売の舞」「岩戸の舞」「児屋根の舞」「二神弓矢の舞」「大蛇退治の舞」「種撒きの舞」「打ち出しの舞」「釣り出しの舞」「迦具土の舞」「像儀の舞」「山の神」

**■登場する配役（神様等）**　37柱(体)

**■出演者**　19人

**■囃子**　20曲

**■囃子構成**　篠笛（７孔６本調子）・大太鼓・小太鼓

## 総社神社太々神楽

（そうじゃじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市元総社町
伝承団体　総社神社太々神楽保存会
公開期日　３月15日　総社神社（春季例祭）
　　10月下旬日曜日　公民館（自治会文化祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和48年９月24日指定）

**■由来・伝承**

この神楽は、元総社町字屋敷の赤石家の祖先が神道管領から伝承したものである。由来の年代は不明だが、元治元年（1864）に書かれた「大神楽次第」という古文書が残っている。戦前までは赤石家だけで奉納してきたが、戦後は元総社町全体の青年有志

によって、総社神社の祭礼日である３月15日に奉納されている。かつては38座舞っていた。

最近の調査では、神楽殿にある奉納額に「寛政元年（1789)」の記載があるが、伝承元と共にはっきりしていない（文化財説明看板より)。

県内には、総社神社太々神楽の系統をひく神楽が７団体ある。神明宮（渋川市中郷)、猿田彦神社(渋川市石原)、諏訪神社（渋川市八木原)、新井八幡（榛東村新井)、片貝神社（前橋市片貝)、雷電神社（前橋市上新田)、倉賀野神社（高崎市倉賀野町)である。

**■演目**（17座）

「奉幣之舞」「神招之舞」「夫婦之舞」「猿田彦之舞」「岩戸開き」「柄杓之舞」「片鉾之舞」「一本刀之舞」「円造之舞」「鞨鼓之舞」「八幡之舞」「扇之舞」「保食之舞」「種蒔之舞」「両刀之舞」「金山之舞」「大蛇退治」

**■登場する配役（神様等）** 25柱(体)

**■出演者** 13人

**■囃子** ８曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔５本調子)・大太鼓・小太鼓

## 雷電神社太々神楽

（らいでんじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市上新田町
伝承団体　雷電神社太々神楽保存会
公開期日　４月３日　火雷神社（玉村町下之宮）
　　４月８日　雷電神社（春季例大祭）
　　４月15日　八幡宮（玉村町下新田）

**■由来・伝承**

雷電神社の神楽は、元総社の総社神社から明治20年頃に伝えられたものである。以来、一度も中断することなく引き継いできた。現在は神楽保存会を結成して、この伝統芸能の継承と発展に努めている。

演目は20座ある。４月８日の例大祭に奉納している。

**■演目**（20座：式舞18座・興舞２座）

「大幣舞」「神招之舞」「伊冴那岐」「荒神舞」「剣之舞」「扇子の巫女」「猿田彦命」「天之岩戸舞」「塩撒之舞」「白狐と百耕之舞」「鞨鼓の舞」「一本刀舞」「巫女舞」「片鉾之舞」「八幡之舞」「両刀之舞」「扇之舞」「国堅め之舞」「鍛冶屋之舞」「大蛇」

**■出演者** 14人

**■囃子** 12曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔６本調子)・大太鼓・小太鼓

## 駒形神社太々神楽

（こまがたじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市駒形町
伝承団体　駒形町太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　駒形神社（春例大祭）
　　10月第２日曜日　駒形神社（秋例大祭）

**■由来・伝承**

駒形神社太々神楽は岡本豊太の功績による。豊太は奥州54郡旗本藤原朝臣、鯉登信濃守の二男としてこの世に生を受けてより、下大屋産泰神社の神官により島根県出雲大社に古代より伝わる国宝無形文化財太々神楽大和舞を習得した神官の一人である父親に付いて厳しい修行を重ね、大和舞のすべてを習得

した。豊太は、明治20年に駒形町の岡本家の婿養子となり駒形町に太々神楽大和舞を広く伝えようと近所の氏子有志を集めて、連日直伝指導した。

明治38年に駒形神社社殿新築を記念し、落成式典に氏子８名と共に駒形神社拝殿において、第１回目の国宝無形文化財太々神楽大和舞を奉納したと古老より伝え聞き及んでいる。その後一時途絶えたこともあったが復活し、現在の舞子は５代目になる。

舞は式舞座と裏座（愛嬌舞）の計10座あり、最後に「山の神舞（式舞）」を奉納する。

**■演目**（10座：式舞・興舞）

「返杯之舞」「四神之舞」「宇須姫之舞」「岩戸乃舞」「小屋根乃舞」「叩き出し乃舞」「蛸釣り乃舞」「大蛇退治乃舞」「玉取り乃舞」「山の神乃舞」

**■構成員**　17人（出演者14人・その他３人）

**■囃子**　13曲

**■囃子構成**　篠笛（７孔５本調子）・大太鼓・小太鼓

## 大胡神社太々神楽

（おおごじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市堀越町
伝承団体　足軽町太々神楽保存会
公開期日　５月３日　大胡神社（春季例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和44年７月７日指定）

**■由来・伝承**

始まりは江戸時代末期とも明治時代とも言われているが不明である。農閑期になると大八車に道具を積み、沼田方面まで出向き奉納してきたと聞いている。五穀豊穣を願い、毎年５月の祭典時に大胡神社の神楽殿にて奉納されている。

**■演目**（14座：式舞６座・興舞８座）

「斎米撒き」「返閇」「四神」「鈿女」「岩戸開き」「鍛冶屋」「鯛釣り」「玉取り」「大蛇退治」「一人弓矢」「住吉」「児屋根」「迦具土」「〆舞」

**■出演者**　12人

**■囃子構成**　笛（６本調子）・大太鼓・小太鼓

## 三夜沢赤城神社太々神楽

（みよさわあかぎじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市三夜沢町
伝承団体　三夜沢赤城神社太々神楽保存会
公開期日　１月１日　赤城神社（元旦祭）
　　５月５日　赤城神社（例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和60年７月４日指定）

**■由来・伝承**

赤城神社所有の「社家年代記」によると岩戸神楽の系統で、貞享元年（1684）に京都より伝来されたものといわれている。座名は「神招舞」「四神舞」から「古屋根舞」「住吉舞」まで独特の名称で呼ばれている。古くは24座が奉納されたが、現在は例大祭で13座ほど奉納されている。

**■演目**（13座）

「神招舞」「四神舞」「國堅舞」「細女舞」「三器舞」「千冝ノ舞」「猿田彦舞」「細女舞（神子）」「古屋根舞」「戸隠ノ舞」「細女舞」「鈴賛ノ舞」「住吉ノ舞」

**■登場する配役（神様等）**　24柱（体）

**■出演者**　11人

**■囃子**　７曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔７本調子）・小太鼓・大太鼓

## 御霊神社太々神楽

（ごれいじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　前橋市粕川町女渕
伝承団体　御霊神社太々神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　御霊神社（春季例大祭）
　　10月第３日曜日　御霊神社（秋季例大祭）
前橋市指定重要無形民俗文化財（昭和43年９月１日指定）

**■由来・伝承**

女渕の太々神楽は明治12年に創立し、４月の祭典に初めて奉納した。以来、春秋二季の祭典に毎年奉納され、今日に至っている。

**■演目**（９座：式舞・興舞）

「へんばいの舞」「四神の舞」「うずめの舞」「岩戸開きの舞」「種子蒔の舞」「魚釣りの舞」「叩き出しの舞」「大蛇退治の舞」「両神舞」

**■登場する配役（神様等）** 26柱(体)

**■出演者** 14人

**■囃子** ８曲

**■囃子構成** 篠笛(６孔４本調子)・大太鼓・小太鼓

## 八幡八幡宮大々神楽

（やわたはちまんぐうだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市八幡町
伝承団体　八幡八幡宮大々神楽保存会
公開期日　１月第２日曜日　八幡宮（新年大祭）
　　４月第１日曜日　八幡宮（春季大祭）
　　11月３日　八幡宮（秋季大祭）
　　12月31日　八幡宮（二年参り夜神楽）
高崎市指定重要無形民俗文化財（平成元年３月８日指定）

**■由来・伝承**

八幡宮の神楽は､今から263年前の宝暦４年(1754)に京都神祇管領に出願し、直接その指導を受けて再興されたものである。能形式をとり入れた舞とお囃子には荘重優雅な趣がある。

演目は前座21と後座16の37座、舞は12種類、お囃子は16種類でその全部が完全な形で伝承され、近年は巫女舞も復興され華を添えた。平成元年３月には高崎市重要無形民俗文化財第１号に指定された。

現在、神楽師によって年４回祭典日に奉納され、また氏子崇敬者を中心とする神楽保存会によって、さらなる継承と発展に努めている。

**■演目**（12座：式舞・興舞）

「住吉の舞」「元狐の舞」「ちのりの舞（外道の舞)」「うすめの舞（戸隠の舞)」「醜女の舞」「招福の舞」「神剣の舞」「松堂の舞」「大蛇の舞」「三神和合」「中切（もちなげ)」「猿田彦の舞」

**■登場する配役（神様等）** 28柱(体)

**■出演者** 16人

**■囃子** 16曲

**■囃子構成**

篠笛（７孔５本調子、４本調子)・能管・大太鼓・横拍子・つけ太鼓

## 山名八幡宮太々神楽

（やまなはちまんぐうだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市山名町
伝承団体　山名八幡宮山名神社神楽保存会
公開期日　休止中　山名八幡宮

**■由来・伝承**

江戸寛政（1789～1801）の時代、柴崎町鎮座の進雄神社より勧進し神楽を伝授したのが始まりと伝えられてる。

## 烏子稲荷神社太々神楽

（すないごいなりじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市上小塙町
伝承団体　烏子稲荷神社太々神楽保存会
公開期日　１月１日～１月３日　烏子稲荷神社（初詣）
　　４月第２日曜日　烏子稲荷神社（春祭り）
　　12月31日　烏子稲荷神社（夜神楽）

**■由来・伝承**

烏子稲荷神社の太々神楽の起源は、元禄２年(1689）に神主の山田和泉守の次男である山田権平藤原秀基を新宅に出す際に太々神楽の主人となってこれより先、引き継いでいくようにと命じた記録が

# 神楽の伝承地

残されている。また、永禄６年（1563）に武田信玄が箕輪城を攻略後に新しく社殿、神楽殿を造営したことが古文書に書き記されている。しかし、伝承ではさらに古く、鎌倉・室町時代まで遡ると伝えられている。

昭和の前半までは３月15日の春祭りで３日間神楽の奉納が行われ、地元の人たちや他地域からたくさん人が参拝に来て、大変賑わっていたという。当時の演目は36座あったが、現在と座数の数え方が異なるので比較できないが半数が継承されてきた。現在継承されている演目は先代の人たちの知恵により見事に現在に合うよう凝縮され、コンパクトに構成されている。その構成は大きく分けて式舞と興舞と稲荷神（宇迦之御魂命）の３部からなる。

**■演目**（９座：式舞６座・興舞３座）

「天狗の舞い」「浮橋の舞い」「鍛冶屋の舞い」「鞨鼓の舞い」「岩戸開きの舞い」「大蛇の舞い」「二匹狐」「鯛釣りの舞い」「餅投げの舞い」

**■登場する配役（神様等）** 19柱(体)

**■出演者** 14人

**■囃子** 12曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔）・太鼓

## 進雄神社太々神楽

（すさのおじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市柴崎町
伝承団体　進雄神社太々神楽保存会
公開期日　４月９日　進雄神社（春季例祭）
　　10月９日　進雄神社（秋季例祭）

**■由来・伝承**

進雄神社は平安時代の貞観11年（869）に創祀され崇敬を集める御神威輝く由緒ある神社である。社伝によれば、戦国時代に武田家が当地を支配する500年前の神楽面が伝えられている。

春と秋の例祭に奉納すると共に、地域の芸能祭にも参加し皆様に喜ばれ親しまれている。神楽師は15名在籍し、男性だけでなく女性も参加し、楽しみながら練習に本番へと励んでいる。

## 倉賀野神社太々神楽

（くらがのじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市倉賀野町
伝承団体　倉賀野神社附属太々神楽保存会
公開期日　４月19日　倉賀野神社（春季例祭）
　　10月19日　倉賀野神社（秋季例祭）

**■由来・伝承**

文化７年（1810）に中山道倉賀野宿の問屋年寄たちが高崎の御奉行所に「五穀成就と氏子安全のために太々修行つかまつりたく」と許可願いを提出しており、秋祭りに太々神楽が奉納されていたことがわかる。

倉賀野神社の祭りにはこれまで長く近在の神楽団体を招致していたが、やがて地元の氏子の手で神楽を奉奏したいという気運が高まった。以前から交流のあった雷電神社太々神楽（前橋市上新田）を師匠に一から技芸習得に励み、昭和61年に念願の地元神楽保存会が発足し、現在に至る。

## 八幡原大和舞太々里神楽
（やはたばらやまとまいだいだいさとかぐら）

伝 承 地　高崎市八幡原町
伝承団体　八幡原太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　若宮八幡宮（春季例大祭）
　　10月第２日曜日　若宮八幡宮（秋季例大祭）
　　11月第２日曜日　滝川小学校（滝川地区芸能祭）

**■由来・伝承**

八幡原太々神楽は、若宮八幡宮の春秋例祭の一環として始まった。大正12年３月15日の春祭りに初めて奉納され、地元はもとより滝川地域の大きな行事として親しまれてきた。伝来を遡ると、この神楽は八幡原町の対岸にある多野郡小野村立石神社(現在の藤岡市立石)に伝わる神楽を伝授されたものである。立石の神楽はさらに埼玉県秩父郡吉田町井上の貴船神社へと続く。貴船神社の神楽は190年前頃に江戸神楽の流れとして伝えられたといわれている。

この神楽も時代と地域の生活様式の変化に流され、昭和40年代後半から徐々に衰退し、後継者難とも相まって活動中止となった。しかし、滝川地区や町内の皆さんの応援により、平成５年の春祭りから復活。活動を継続していくために保存会を発足させ、会員を中心にその活動を継続し、地域に伝わる伝統芸能の伝承に努めている。

**■演目**（13座：式舞６座・興舞７座）
「思兼の舞」「巫女舞」「巫女舞（天宇津女之命)」「天狗の舞」「岩戸開き」「巫女舞（木花開耶姫之命)」「巫女舞（倭文比売之命)」「巫女舞（崇像三女神)」「山之神の舞」「八幡様之舞」「白髭之舞」「蛭子之舞」「稲荷三座」

**■登場する配役（神様等）**　20柱(体)

**■構成員**　20人（出演者12人・その他８人）

**■囃子**　14曲

**■囃子構成**

篠笛(７孔５本調子)・大太鼓・鞨鼓・締太鼓

## 小祝神社太々神楽
（おぼりじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市石原町
伝承団体　小祝神社太々神楽保存会
公開期日　４月19日　小祝神社（春季例祭）
　　10月19日　小祝神社（秋季例祭）

**■由来・伝承**

上野之国十二社の延喜式内社である小祝神社は、古くから片岡郡、乗附、石原、寺尾の守護神として、多くの人々の信仰を集めている。

毎年春と秋に開催される祭りは地元の人たちや遠方からの参拝客で賑わっている。また、祭神は少名彦名命であり、文字を書く神と言われている。

太々神楽は古くから地元石原や半田の人たちによって代々受け継がれ、祭りに合わせ賑々しく奉納されてきた。後世に伝承すべく、技の維持向上に努めている。

## 椿名神社太々神楽
（つばきなじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市倉渕町権田
伝承団体　椿名神社太々神楽保存会
公開期日　４月３日　椿名神社
　　11月23日　椿名神社

# 神楽の伝承地

**■由来・伝承**

椿名神社太々神楽は、高崎市上小塙町の烏子稲荷神社所属の岩戸神楽から伝承されたものである。資料によると大正３年の冬に烏子稲荷神社の神楽師が農家に泊まりながら荷車を引き教えに来てくれたとのことである。権田地域の10人程の青年が小学校を終ると青年衆に入り、神楽組の一員となって青年衆の家で練習したそうである。大正５年に椿名神社に神楽殿が新築され、大正６年に烏子稲荷神社の神楽師が奉納の舞を行ったと記録がある。

椿名神社での神楽奉納は、昨年100周年を迎えた。毎年春と秋の年２回に五穀豊穣や自然災害が起きぬように奉納している。

## 金古諏訪神社の太々神楽

（かねこすわじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市金古町
伝承団体　金古諏訪神社神楽保存会
公開期日　３月最終日曜日　諏訪神社（春季例大祭）
　　５月３日　桃山稲荷神社（金古町・八十八夜例大祭）
　　12月31日～１月１日　諏訪神社（元旦祭）
高崎市指定重要無形民俗文化財（平成17年11月25日指定）

**■由来・伝承**

金古諏訪神社と桃山稲荷神社の祭典に奉納されている太々神楽は、古くから金古町に伝わる伝統芸能として親しまれてきた。神楽の起源は江戸時代中期の宝暦９年（1759）頃からとされ、江戸時代末期に地芝居の所作が取り入れられ、さらに明治17年に六郷村小塙の烏子稲荷神社から師匠を迎えて伝授を受け現在に至っている。

神楽は神慰めの信仰的要素をもち、金古の鎮守様である諏訪神社の膝元の諏訪地区に伝統的に引き継がれてきた。舞は古事記に基づく神話の神々の舞36座があるといわれており、左手の持ち物により榊舞、幣の舞、扇舞等があり、いずれの舞も右手で鈴を振りながら所作を繰り返す。一座は三舞を原則とし頂き舞、本舞、早舞となっている。囃子は大太鼓、小太鼓、横笛で行い全ての舞は笛の演奏に誘導されて所作をする。

金古諏訪神社神楽保存会で保存、継承に務めている。現在、会員は小学生から70代まで各年代バランスよく構成されている。平成17年に高崎市指定重要無形民俗文化財の指定を受けている。

**■演目**（17座：式舞・興舞）

「奉幣の舞」「猿田の舞」「五行の舞」「八幡の舞」「浮橋の舞」「鞨鼓の舞」「岩戸開きの舞」「稲含の舞」「二本剣の舞」「大蛇退治の舞」「巫女の舞」「岩長姫の舞」「魚釣の舞」「杓の舞」「長刀の舞」「天狐の舞」「国治の舞」

**■登場する配役（神様等）**　47柱(体)

**■構成員**　29人（出演者25人・その他４人）

**■囃子構成**　篠笛（６孔６本調子）・大太鼓・小太鼓

## 榛名神社神代神楽

（はるなじんじゃじんだいかぐら）

伝 承 地　高崎市榛名山町
伝承団体　榛名神社神代神楽保存会
公開期日　２月15日　榛名神社（御初楽始め）
　　５月５日　榛名神社（端午祭）
　　５月８日　榛名神社（古式祭典神輿渡御祭後）　ほか
群馬県指定重要無形民俗文化財（平成15年９月19日指定）

**■由来・伝承**

創始年月は不詳だが享保13年（1728）の記録に「御神前御神楽の儀は中古廃怠仕候に付、山中一同再建仕度従来の願望に御座候処、去る午年御開帳に付御神楽執行の砌」とあり、享保11年（1726）午年御開帳に御神楽の奏上がなされたことが知られる。その神楽は享保13年再建によるものとは異なりはすれ、似通った神楽が相当古くから伝承されていたと思われる。

今に伝えられる神楽は同記録に「遺教院主御逗留の節右之様子御聞及び、いよいよ以て稽古仕るべし」とあり、同年４月山中一同60余家の者が協議の上、氏子中より24人を選び１組12人、２組に分けて交代にて出勤が定められ、神楽株組織の下に神楽師の家柄として伝えられることとなった。

**■演目**（14座）

「岐神六合堅」「三輪之式※」「老翁鎮悪神」「天狐乱護」「末広清目※」「海宮遊行」「神劔御調」「身曽貴舞※」「神明種蒔」「多伊波久※」「草薙宝劔」「神満祢貴※」「悪神劔掃」「山神天祭」　※巫女舞

**■登場する配役（神様等）**　12柱(体)

**■構成員**　13人（出演者12人・その他１人）

**■囃子**　12曲

**■囃子構成**　篠笛(６孔)・締太鼓・大太鼓

## 上池太々神楽

（かみいけだいだいかぐら）

伝 承 地　高崎市吉井町池
伝承団体　上池太々神楽保存会
公開期日　３月第１日曜日　多胡碑記念館（多胡碑祭り）
　　５月第１日曜日　吉井文化会館（吉井民俗芸能大会）
　　10月第１日曜日　大宮神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**

吉井町上池の太々神楽は、有力者の新井喜三郎が上方より道具一式を購入してきて始めたと伝えられている。年代は不詳であるが、神楽（神楽の頭）を納める神楽堂に「明治11年新調」とあるので、それ以前から伝わるものと推察される。現在の神楽（頭）は、吉井町の援助で、平成18年に新調されたものである。

古来の神話に「神（天照大御神）が天の岩戸の中に隠れてしまい、世の中が暗く不安に満ちたため、お出ましを祈る神事として姫神（天宇愛売命）が面白おかしく神楽を舞ってお出ましになった」という話がある。上池太々神楽の神楽舞は、この姫神の舞を象ったものである。池にある大宮神社の祭神は天宇愛売命で、大宮神社の例大祭に氏子繁盛、五穀豊穣や雨乞い、疫病退散などを祈願して神楽舞が執り行われてきた。舞は、姫神（頭）が天の岩戸の前で時に厳かに、時に面白おかしく舞い、天と地と世の中の平安を祈り願う。後半、おとなしく眠っていると道化が現れ、賑やかにはやし立てるので、安眠を妨げられて怒るというものである。

**■演目**（１座）

「天の岩戸」

**■登場する配役（神様等）**　２柱(体)

**■構成員**　９人（出演者５人・その他４人）

**■囃子**　１曲

**■囃子構成**　笛（６孔６本調子）・太鼓

## 折茂神楽舞

（おりもかぐらまい）

伝 承 地　高崎市吉井町長根折茂
伝承団体　折茂神楽舞保存会
公開期日　４月春季例大祭前日　折茂地区内
　　５月第１日曜日　吉井文化会館（吉井民俗芸能大会）
　　10月第２日曜日　長根神社（秋季例大祭）
　　10月秋季例大祭前日　折茂地区内

**■由来・伝承**

明治15年頃に現在の甘楽町秋畑の御神楽師によって伝えられたという説と、幕末頃に伊勢の国の旅芸人により伝えられたという説があるが、資料が残っていないため、どちらが正しいか不明である。

昭和15年頃まで続いたが一時中断し、戦後復活して現在に至る。

**■演目**（１座）

「広庭」

**■登場する配役（神様等）**　２柱(体)

**■構成員**　16人（出演者７人・その他９人）

# 神楽の伝承地

■囃子　１曲

■囃子構成

笛（６孔６本調子）・胴太鼓・締太鼓・鼓・ほら貝

## 長根神社宿神楽舞

（ながねじんじゃしゅくかぐらまい）

伝 承 地　高崎市吉井町長根字宿
伝承団体　長根神社獅子神楽舞保存会
公開期日　５月第１日曜日　吉井文化会館（吉井民俗芸能大会）
　　10月15日に近い日曜日　長根神社（秋季例大祭）
高崎市指定重要無形民俗文化財（平成９年９月25日指定）

■由来・伝承

神楽舞は寛政年間（1789～1801）に伊勢のお札売りが名主であった江原家に泊まり、そのお礼として伝えたものだと言われている。楽器として鼓が入り、歌舞伎の要素が入る。

演目は、悪魔払い、広庭、岩、子持と神社までの行き帰りに神楽堂担いで歩くときの道中神楽がある。

■演目（４座）

「岩神楽」「広庭」「悪魔払い」「子持神楽」

■登場する配役（神様等）　９柱(体)

■構成員　15人（出演者13人・その他２人）

■囃子構成　笛（６孔６本調子）・太鼓・鼓

## 賀茂神社太々神楽

（かもじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　桐生市広沢町
伝承団体　賀茂神社太々神楽保存会
公開期日　４月14日・15日　賀茂神社（春季大祭宵祭・本祭）
　　10月15日に近い土・日曜日　賀茂神社
　　（秋季大祭宵祭・本祭）
桐生市指定重要無形民俗文化財（昭和49年１月21日指定）

■由来・伝承

賀茂神社に伝わる神楽は宮比講社神楽と呼ばれるもので、文化12年（1815）に当時の神官である飯塚

伊豆正が発起したといわれている。

神楽には式舞と狂舞があり、ともに12座で計24座となっている。狂舞の「屑紙拾い三番曳」は他に見られないめずらしい神楽である。

明治維新で一時中断されたが、明治15年ころ再興された。その後、昭和40年代に衰退しかかったが、昭和48年に神楽保存会が組織され、青年有志が古老から受け継ぎ現在に至る。毎年春と秋の例祭に奉納されている。

■演目（９座：式舞６座・興舞３座）

「白黒翁の三番叟之舞」「猿田彦之舞」「屑紙拾い三番叟之舞」「天の岩戸之舞」「大蛇退治之舞」「稲荷山の種蒔き之舞」「蛭子之舞」「狐釣り之舞」「子守之舞」

■登場する配役（神様等）　28柱(体)

■出演者　14人

■囃子　17曲

■囃子構成

篠笛（７孔４本調子）・太鼓・締太鼓・鉦

## 白瀧神社太々神楽

（しらたきじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　桐生市川内町
伝承団体　白瀧神社太々神楽保存会
公開期日　８月第１土曜日　白瀧神社（大祭）
　　11月第１日曜日　旧川内小学校（川内文化祭）
　　11月19日　西宮神社（宮本町・えびす講）
桐生市指定重要無形民俗文化財（昭和49年１月21日指定）

■由来・伝承

白瀧神社には古くから神楽が伝承されているが、その起源は定かでない。現存の記録では明治21年の「太々神楽施行願」があり、明治31年８月の「神正流大和太々神楽座記録」に12座の舞の記録が舞人の姓名とともに記載されている。舞人の議定書もあり、舞人の心得が細かに記され署名捺印されている。

楽器は太鼓、胴長締太鼓、笛の二鼓一管である。

囃子は出囃子、三ッ拍子、平舞、早舞、天狐、道化、恵比寿、連打の他に各々の舞にあわせた囃子で構成されている。

式舞は大祓詞の奏上により始まる。四方を祓い清めた大幣を手に宮司は平舞の囃子で「宮司之舞」を厳かに舞う。舞終わり神前に着座し「翁」を待つ。

**■演目**（11座：式舞５座・興舞６座）

「翁の舞」「猿田彦之舞」「天宇豆女之舞」「剣玉之舞」「岩戸開伎之舞」「巨蛇退治」「鬼人退治」「種蒔之舞」「恵比寿之舞」「釜湯の舞」「上棟式」

**■登場する配役（神様等）** 29柱(体)

**■出演者** 11人

**■囃子** ７曲

**■囃子構成** 笛・太鼓・胴長締太鼓

## 小金井松尾神社の太々神楽

（こがないまつおじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　太田市新田小金井町
伝承団体　小金井太々神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　松尾神社（春季例大祭）
　　10月第３日曜日　松尾神社（秋季例大祭）
太田市指定重要無形民俗文化財（平成９年３月31日指定）

**■由来・伝承**

松尾神社に伝わる太々神楽は、江戸時代中期の享保12年（1727）に松尾大明神が正一位の位を頂いたお祝いに、村の青年が習って奉納したのが始まりとされている。春と秋の祭典に毎年奉納されてきたが、天保年間（1830～1844）に神楽師が減り、一度途絶えた。神楽が奉納されなくなると、飢饉や悪病、火災等が続発し、村人の生活は困窮した。天保８年(1837)に再び神楽が奉納されるようになると、豊作が続き伝染病や火災もなくなり、豊かな生活が送れるようになったといわれている。以来、現在まで休むことなく奉納されている。

**■演目**（９座：式舞・興舞）

「国堅」「猿田彦大神」「児屋根命」「天の岩戸開き」「香取・鹿島神」「八幡大神」「金山彦命」「稲荷大神」「大山祇命」

**■登場する配役（神様等）** 21柱(体)

**■出演者** 7人

**■囃子** ８曲

**■囃子構成** 篠笛（７孔５本調子）・太鼓

## 薄根太々神楽

（うすねだいだいかぐら）

伝 承 地　沼田市硯田町
伝承団体　薄根太々神楽硯田保存会
公開期日　２月中旬　薄根公民館（公民館祭）
　　３月中旬　利根沼田文化会館（古典芸能祭）
　　３月最終日曜日　菅原神社（春季例大祭）
　　４月８日　榛名神社（榛名町・春季例大祭）
沼田市指定重要無形民俗文化財（昭和51年３月30日指定）

**■由来・伝承**

明治末期に大類村柴崎(現在の高崎市柴崎町)出身で、薄根村恩田で巡査をしていた松本耕三郎が退職後、硯田天満宮（現硯田町の菅原神社）の宮守になり、同神楽殿自彊館（現公民館）に居住し、地域の

青年達に教えたのが始まりである。耕三郎は出身地の進雄神社に伝わる伊勢系太々神楽の笛、太鼓、舞を一人で覚えていた。松本耕三郎が薄根太々神楽の生みの親である。（金井庫治著『利根沼田への伝承　神職松本耕三郎と太々神楽』より）

昭和51年に沼田市の重要無形民俗文化財に指定され、毎年３月最終日曜日に硯田町菅原神社春祭りにて奉納される。

**■演目**（11座：式舞９座・興舞２座）

「奉幣御麻之舞」「国固めの舞」「天の浮橋の舞」「天の岩戸開きの舞」「かじやの舞」「天狐の舞」「弓の舞」「大蛇退治の舞」「両剣の舞」「恵比須の舞」「猿田彦の舞」

**■登場する配役（神様等）**　28柱(体)

**■構成員**　16人（出演者12人・その他４人）

**■囃子**　13曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔）・太鼓

## 薄根太々神楽

（うすねだいだいかぐら）

伝 承 地　沼田市原町
伝承団体　薄根太々神楽保存会
公開期日　２月中旬　薄根公民館（公民館祭）
　　３月中旬　利根沼田文化会館（古典芸能祭）
　　４月29日　河内神社（春季例大祭）
沼田市指定重要無形民俗文化財（昭和51年３月30日指定）

**■由来・伝承**

明治の末期に大類村柴崎（現在の高崎市柴崎町）出身の松本耕三郎が職務の関係で利根の地へ移り住んでいた当時、柴崎村に伝わる伊勢流の進雄神社の太々神楽を三峰山の地元の若衆７名に教えた。７名は三峰山河内神社の氏子であり、松本耕三郎の熱意の元稽古に励み、明治45年４月９日に三峰山河内神社の春季例祭にて最初の太々神楽を奉納した。

明治末期に創始した太々神楽も大正、昭和へと伝承され、昭和49年に薄根太々神楽保存会が結成され、昭和51年沼田市重要無形文化財となった。

**■演目**（10座：式舞・興舞）

「天の岩戸開之舞」「大蛇退治之舞」「天之浮橋」「鍛冶屋之舞」「天狐之舞」「恵比寿之舞」「国固之舞」ほか

**■出演者**　16人

**■囃子構成**　笛（７孔６本調子）・太鼓

## 大島岡里神代神楽

（おおしまおかざとかみよかぐら）

伝 承 地　館林市大島町
伝承団体　大島岡里敬神講
公開期日　２月25日に近い日曜日　高鳥天満宮（板倉町大高嶋）
　　４月４日に近い日曜日　西丘神社（板倉町西岡）
　　４月第２日曜日　除川神社（板倉町除川）
　　４月15日に近い日曜日　大島神社（春季例大祭）
　　11月23日　西丘神社（板倉町西岡）
　　11月第４日曜日　除川神社（板倉町除川）　ほか
館林市指定重要無形民俗文化財（昭和56年３月６日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代、飯田（現在の栃木県佐野市飯田）より伝承されたといわれる。当初は飯田地区近辺の神主によって奉納されていたが、明治初年に里人によって受け継がれ民間芸能として定着した。戸ヶ崎流と称し、古風な格調高い形式を保ち、演目は12座ある。岩戸神楽の流れをくみつつ、江戸神楽や神代神楽の一典型的として貴重な存在となっている。

現在では、地元大島神社をはじめ、板倉町、栃木県藤岡町などの計11か所の神社にて奉納されている。

**■演目**（12座：式舞７座・興舞５座）

「幣舞武者」「翁」「児屋根」「太玉」「細女」「戸隠」「天狗」「金山」「恵比寿」「大黒」「狐」「山神」

**■登場する配役（神様等）**　15柱(体)

**■出演者**　7人

**■囃子構成**　篠笛（７孔）・大太鼓・大拍子

## 足次太々神楽
（あしつぎだいだいかぐら）

伝 承 地　館林市足次町
伝承団体　足次神楽保存会
公開期日　不定期　赤城神社

**■由来・伝承**

江戸時代から行われ、戦後中断されるが昭和56年に足次神楽保存会が発足した。現在は不定期で活動している。

**■演目**（１座）
「おおさんや」
**■登場する配役（神様等）**　３柱(体)
**■構成員**　5人
**■囃子**　２曲
**■囃子構成**　太鼓・鉦

## 里　神　楽
（さとかぐら）

伝 承 地　館林市
伝承団体　館林神楽保存会
公開期日　２月第２日曜日　三の丸芸術ホール（郷土芸能発表）
３月15日　子神社（赤生田町）
５月31日　富士嶽神社（花山町）
７月第４日曜日　八坂神社（羽附町）　ほか

**■由来・伝承**

昭和60年頃から邑楽館林地区で行われており、里神楽の先人たちから太鼓や笛その他の囃子を教わり見よう見まねで神楽を行い、現在に至る。

**■演目**（５座）
「三番叟」「火男の酒さげ」「おかめのひげそり」「狐の餅つき」「獅子の鼻通し」
**■登場する配役（神様等）**　13柱(体)
**■出演者**　15人
**■囃子**　７曲
**■囃子構成**　笛（７孔５本調子）・太鼓・鉦・小鼓

## 猿田彦神社の大和神楽
（さるたひこじんじゃのやまとかぐら）

伝 承 地　渋川市石原
伝承団体　猿田彦神社大和神楽保存会
公開期日　新年より第二庚申の日　猿田彦神社（春大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和53年12月26日指定）

**■由来・伝承**

猿田彦神社は三国裏街道の三本辻に400年以前より地蔵堂があり霊験灼なことから崇敬者が多く、猿田彦神社本社殿としては県内１社だけである。36座の大和神楽が伝わる。

猿田彦大神は背が高く、鼻も高く目は八咫の鏡のようで照り輝き赤いほおずきのようだといわれている。容貌魁偉なことから邪心を払う神様でもある。後に天宇受売命と夫婦になり、伊勢の国五十鈴川の川上に至り農耕生活に入り、農業、漁業を指導し日本の国を豊かにした神様である。このようなことから、交通安全や農業、漁業の神様として、先見性をもった導きの神様である。

渋川市指定重要無形文化財の大和神楽は平形家の支援もあり、元総社の総社神社より伝授され明治16年より戦時中も一度も休むことなく、今日に至る。

# 神楽の伝承地

**■演目**（23座）
「御祓い」「神招」「大幣」「夫婦の舞」「猿田彦命」「天乃岩戸」「米蒔」「百耕の舞」「しゃくの舞」「魔物退治」「神子の舞」「日天月天」「扇の舞」「剣の舞」「皇神の舞」「水天の舞」「八幡の舞」「両刀」「各古の舞」「薙の舞」「金山の舞」「八岐の大蛇」「国固めの舞」
**■登場する配役（神様等）** 40柱(体)
**■構成員** 56人（出演者29人・その他27人）
**■囃子** 13曲
**■囃子構成**
篠笛(７孔・8孔)・太鼓・小太鼓・鼓(扇の舞だけ)

## 八木原諏訪神社の太々神楽
（やぎはらすわじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市八木原
伝承団体　八木原諏訪神社太々神楽舞子会
公開期日　４月12日　諏訪神社（春季例大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（平成９年10月29日指定）

**■由来・伝承**
渋川市の郷土史によると、昔、八木原の田圃中に徳楽稲荷の小祠があり、初午の日が祭礼であった。村の人々はこの境内に小屋掛けをし、榛東村の新井八幡宮の氏子の人々に依頼して太々神楽を奉納していた。その後、大正11年に地元の人々によって太々講を起こし、新井八幡宮の人達に習った。後に徳楽稲荷は鎮守諏訪神社の境内に合祀された。
毎年４月の祭礼日に太々神楽を奉納している。
**■演目**（36座：式舞29座・興舞７座）
「清め」「大幣」「大麻」「伊佐那岐・伊佐那美」「猿田彦命」「岩戸」「御子」「一本刀」「円像」「片鉾」「恵比寿」「羯鼓」「両刀」「受持」「白狐」「八幡」「水神」「金山」「蛇退治」「荒神舞」「国固」ほか
**■構成員** 32人（出演者30人・その他２人）
**■囃子** ８曲
**■囃子構成** 篠笛（６孔）・大太鼓・小太鼓

## 太　々　神　楽
（だいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市入沢
伝承団体　八幡宮神楽講
公開期日　４月15日　八幡宮

## 神明宮太々神楽
（しんめいぐうだいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市中郷
伝承団体　神明宮太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　神明宮（春季例大祭）
５月１日（隔年）　子持神社（中郷・春季例大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和60年３月７日指定）

**■由来・伝承**
明治中期に神主の千明利三郎によって伊勢より習い伝えられ、神明宮を中心に講を組織し神楽を広めた。流派は大和流といわれている。明治、大正を通じ、利根郡や勢多郡の神社に依頼され、広く奉納を行っていた。
現在は、４月に神明宮と隔年５月に子持神社に奉納している（諏訪神社太々神楽と交互）。
**■演目**（11座：式舞６座・興舞５座）
「塩播」「奉幣」「神招き」「いざなぎ、いざなみ」「羯鼓」「岩戸開き」「猿田」「鯛釣り」「八幡」「種蒔き」「大蛇之舞」
**■登場する配役（神様等）** 25柱(体)
**■出演者** 15人
**■囃子** ９曲
**■囃子構成** 篠笛（６孔）・大鼓・小大鼓

## 諏訪神社太々神楽
（すわじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市上白井直松
伝承団体　直松太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　諏訪神社（春季例大祭）
　　５月１日（隔年）　子持神社（中郷・春季例大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和60年３月７日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代の文政年間（1818～1830）頃に地元の古老が北橘村下南室に行き衣裳や面一式を購入し、泊まりこみで舞の指導を受けた。京都の吉田派の流れをくむものとされている。現在は４月に諏訪神社、隔年５月に子持神社にて奉納している（神明宮太々神楽と交互）。

**■演目**（13座：式舞・興舞）
「お払い」「遍拝（岩戸開き）」「産女」「四神」「お十二様」「かごっち（ほこ回し）」「八幡様」「鯛釣り」「種まき」「たたき出し」「玉とり」「あおり」「造祇」

**■出演者**　10人

## 下南室太々御神楽
（しもなむろだいだいみかぐら）

伝 承 地　渋川市北橘町下南室
伝承団体　下南室太々御神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　赤城神社（春季例大祭）
　　４月第２日曜日　大山祇神社（横堀・春季例大祭）
　　11月第２日曜日　子持社会体育館
　　（渋川市郷土芸能発表会）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和45年６月27日指定）
＊「養蚕の舞」は県指定重要無形民俗文化財（平成24年３月23日指定）

**■由来・伝承**

下南室の太々神楽は、寛政４年（1792）に衣裳の新調記録があることから、この以前から神楽は行われていたと考えられる。下南室赤城神社の神官、金古常陸介は明治以前までは京都の吉田神道家の神主

で免状を持っていた。明治５年の神仏分離によって修験者が廃止され、同時に下南室赤城神社の神官としての資格を失う。金古は武蔵国玉川の御岳神社の神楽講である豊穂教会から神楽の技術を学びとる。

明治６年に金古は神と氏子との間に立ち、従来通り神官としてやって行くために豊穂教会から学んだ太々神楽の道で神に仕えることにした。そして三夜沢の赤城神社と荒砥村の産泰神社、下南室の赤城神社の３社の神官が中心となり神楽を運営していたが、下南室の有志も式服を新調して復興に協力した。

明治15年に女渕村の萩原八十次から囃子を受け継ぎ、ここに舞の技術と囃子の両方が確立する。明治16年には正式に豊穂教会から能号免状の太々神楽の許可が出る。初代講長の金古常陸介から明治41年に高橋喜久造講長が受け継ぎ現代に至っている。演目は式舞７座と愛嬌舞20座の27座が伝わる。

**■演目**（14座：式舞・興舞）
「御神迎え」「返拝の舞」「四神の舞」「細目の舞」「岩戸の舞」「火の神の舞」「四方固めの舞」「種子蒔きの舞」「大工の舞」「養蚕の舞」「鍛冶屋の舞」「鯛釣りの舞」「蛸釣りの舞」「玉取りの舞」

**■登場する配役（神様等）**　47柱（体）

**■出演者**　20人

**■囃子**　17曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔５本調子）・大太鼓・締太鼓

## 村上太々神楽
（むらかみだいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市村上
伝承団体　村上太々神楽保存会
公開期日　４月29日　塩川温泉幸の湯（おのがみ温泉まつり）
　　11月第１日曜日　小野上公民館（地区文化祭）
　　11月第２日曜日　子持社会体育館（芸能発表会）
　　11月23日　作間神社（秋季例大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和51年５月24日指定）

# 神楽の伝承地

**■由来・伝承**

享保４年（1719）に作間神社（村上地区）が火災のため焼失し、社殿を新築した祝典に奉納したのが始まりと言われている。荻原流を含む作間流と称され、作間神楽講独特の舞振りが加味されている芸趣豊かな神楽である。

明治、大正時代に興亡を繰り返し、昭和28年に衣裳や道具一式を新調し、作間神社太々神楽奉仕会が結成され、今日では少人数ながら、村上太々神楽保存会が伝承を行っている。

**■演目**（８座）

「大麻」「国造立」「春日様」「岩戸」「狐」「狐（稲刈り）」「三丁剣の舞」「恵比寿様」

**■登場する配役（神様等）** 14柱(体)

**■出演者** 6人

**■囃子** ５曲

**■囃子構成** 篠笛・大太鼓・小太鼓

## 勝保沢の太々神楽

（かつほざわのだいだいかぐら）

伝 承 地　渋川市赤城町勝保沢
伝承団体　勝保沢太々神楽保存会
公開期日　４月29日　諏訪神社（春季例大祭）
渋川市指定重要無形民俗文化財（昭和46年３月26日指定）

**■由来・伝承**

大正２年に富士見村市之木場石尊宮氏子から伝授されたといわれている。舞子は定員制で10年毎に後進に譲り、現在は11代目で平成21年春に継承した。祭式舞（７舞）と愛嬌舞（12座）がある。全部奉納するのは先代から継承された初年のみで、常時は祭式舞７舞と愛嬌舞から６座を選び、７舞６座を奉納する。

**■演目**（19座：式舞７座・興舞12座）

「剣舞」「四神」「細命」「岩戸開き」「児屋根之命」「両刀の舞」「鍛冶屋の舞」「両神の舞」「弓矢の舞」「針打の舞」「独り剣舞」「叩き出し」「八幡大明神」「鯛釣り」「奈義那太刀の舞」「住吉大明神」「百姓の舞」「火の神」「造儀の舞」

**■登場する配役（神様等）** 49柱(体)

**■構成員** 15人（出演者13人・その他２人）

**■囃子** 12曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔６本調子）・太鼓

## 諏訪神社太々神楽

（すわじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市藤岡
伝承団体　諏訪神社太々神楽会
公開期日　１月１日　諏訪神社（元旦神楽奉納）
　　４月８日　諏訪神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

立派な神楽殿はあったが昭和29年までは自前では奉納できず、近くの神社に依頼して行っていた。昭和29年以降に下栗須の稲荷神社の指導を受け、神楽を再開。毎年、春と元旦に神楽を奉納する。

**■演目**（13座：式舞12座・興舞１座）

「思兼命」「巫子」「猿田彦」「琴平」「住吉三坐」「岩戸開」「大山祇」「八幡太郎」「白髯大神」「龍神」「蛭子」「トッピキ」「五行」

■**登場する配役（神様等）** 26柱(体)
■**構成員** 20人（出演者16人・その他４人）
■**囃子** ６曲
■**囃子構成** 篠笛（６本調子）・太鼓

## 富士浅間神社太々神楽
（ふじせんげんじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市藤岡
伝承団体　富士浅間神社太々神楽保存会
公開期日　４月１日　富士浅間神社（春祭り）
　　年末年始　富士浅間神社

## 稲荷神社太々神楽
（いなりじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市下栗須
伝承団体　下栗須稲荷神社太々神楽保存会
公開期日　３月最終日曜日　稲荷神社

## 上戸塚太々神楽
（かみとづかだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市上戸塚
伝承団体　戸塚神社郷土芸能保存会
公開期日　１月１日　戸塚神社（新年奉納）
　　２月（隔年）　みかぼみらい館（神流地区文化祭）
　　４月第１日曜日　戸塚神社（春祭り）

■**演目**（21座）
「二人の舞・三人の舞・五人の舞」「猿田彦の舞」「しんれいの舞」「山の神の舞」「一本扇子の舞」「龍神の舞」「ささの舞」「太刀の舞」「ほこの舞」「八幡太郎の舞」「ぼんの舞」「さくの舞」「ひょっとこの舞」「榊の舞」「岩戸の舞」「えびすの舞」「白ひげの舞」「白狐の舞」「砂子の舞」「二本つるぎの舞」「二本扇子の舞」
■**登場する配役（神様等）** 27柱(体)
■**構成員** 10人（出演者６人・その他４人）
■**囃子** ６曲
■**囃子構成** 笛・太鼓

## 本郷下郷太々神楽
（ほんごうしもごうだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市本郷
伝承団体　本郷下郷太々神楽保存会
公開期日　３月19日に近い日曜日　土師神社

## 立石神社太々神楽
（たついしじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市立石
伝承団体　立石神社太々神楽保存会
公開期日　１月10日　立石神社（１月例大祭）
　　４月29日　立石神社（春季例大祭）
　　12月31日　立石神社（越年祭）

■**由来・伝承**
日本神話に基づき奉納される古式豊かな神楽で大和舞太太里神楽と称す。天正９年（1581）10月に立石神社の源惣兵衛と松本連が上京し、京都の神祇宮領長（吉田殿）より裁許状を得て、伊勢より勧請して始められたといわれ、舞は36座伝わる。
■**演目**（25座）
「一人舞」「二人舞」「三人舞」「五人舞」「御子の舞」「天岩戸開舞」「砂子の舞」「山の神」「榊の舞」「八幡の舞」「鉾の舞」「天狗の舞」「扇の舞」「龍神の舞」「剣の舞」「蛭子の舞」「白髪の舞」「胡蝶の舞」「稲荷の舞」ほか
■**出演者** 17人
■**囃子** ５曲
■**囃子構成** 篠笛（６孔５本調子）・大鼓・小鼓

# 神楽の伝承地

## 中栗須神明宮太々神楽
（なかくりすしんめいぐうだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市中栗須
伝承団体　中栗須神明宮獅子・太々保存会
公開期日　４月７日に近い日曜日　神明宮（春季例大祭）

**■由来・伝承**

中栗須神明宮は建久３年（1192）に源頼朝が、磯部の領主源盛綱に命じて伊勢神宮より勧請され、建立されたと言われている。神明宮の祭神は天照大神であり、神楽も天照大神にまつわる岩戸伝説を中心に22の演目の舞が行われている。

当時の神職の記録（佐々木宮内大夫高光）によれば、享保３年（1718）に太鼓と鈴を寄進されたと記されているが、これが神楽舞をしたかどうか定かではない。また、文政10年（1827）に秩父萩日吉神社へ神楽舞の指導に行くとの記録が萩日吉神社に残っている事から、この頃には神楽舞をしていたと思われる。

**■演目**（22座）
「思金之命」「小屋根之二玉」「薄女（1)」「住吉三座」「猿田彦大神」「岩戸（皇太神含む)」「薄女(2)」「砂子の舞」「山之神」「薄女（3)」「根付榊」「薄女（4)」「剣の舞」「幣の舞」「薄女（5)」「白髭」「竜神」「薄女（6)」「八幡」「薄女（7)」「蛭子」「稲荷三座」

**■登場する配役（神様等）**　19柱(体)

**■構成員**　41人（出演者26人・その他15人）

**■囃子**　14曲

**■囃子構成**

篠笛（６孔６本調子）・大太鼓・抜き太鼓・鞨鼓

## 白石太々神楽
（しろいしだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市白石
伝承団体　白石飯玉神社太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　飯玉神社

## 鹿島太々御神楽
（かしまだいだいみかぐら）

伝 承 地　藤岡市上日野
伝承団体　鹿島神社太々御神楽
公開期日　４月15日に近い日曜日　鹿島神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

４月15日の鹿島神社の祭礼日に地元の鹿島や馬渡戸の人たちによって神楽殿で上演されてきた。

明治時代（由来額には11年と記す）に埼玉県本庄市下の稲荷神社の神主(細野織部)より教授され、甘楽町秋畑の神楽と師匠が同じと伝えている。以来、地元の人々を中心に行われ、中断（戦争、高度成長期）や伝承者不足等を乗り越えて現在に至る。

**■演目**（７座：式舞６座・興舞１座）
「翁ノ舞」「相生の舞（夫婦)」「猿田舞」「鍛冶屋ノ舞」「三神和合舞」「岩戸ノ舞」「蛭子舞」

**■登場する配役（神様等）**　22柱(体)

**■構成員**　9人

**■囃子構成**

笛（７孔７本調子）・大太鼓・小太鼓

## 三嶋神社太々神楽
（みしまじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市西平井
伝承団体　三嶋神社太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　三嶋神社
　　12月31日　三嶋神社

## 東平井太々神楽
（ひがしひらいだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市東平井
伝承団体　東平井諏訪神社太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　諏訪神社
　　10月第３日曜日　諏訪神社
　　年末年始　諏訪神社

## 田本神楽獅子
（たもとかぐらじし）

伝 承 地　藤岡市上日野
伝承団体　田本神楽舞
公開期日　未定

## 細谷戸神楽獅子
（ほそがいとかぐらじし）

伝 承 地　藤岡市上日野
伝承団体　細谷戸組
公開期日　未定

## 森新田神楽獅子
（もりしんでんかぐらじし）

伝 承 地　藤岡市森新田
伝承団体　森新田中組
公開期日　未定

## 諏訪神社大神楽
（すわじんじゃだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市坂原
伝承団体　下郷の氏子
公開期日　未定

## 鬼石神社太々神楽
（おにしじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市鬼石
伝承団体　鬼石神社太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　鬼石神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

明治３年に神楽殿が創建。その頃から宮本、諏訪の地元の人が奉納する。神楽が正式に発足したのは明治30年の14名から。流派は大和流で藤岡中栗須の神明宮より伝承された。大正15年に拝殿を改築し、衣裳と道具を新調する。昭和50年に神楽保存会が結成され、衣裳と道具を新調する。役員以下30名で組織され、その後衰退し、奉納できなくなった時期もあったが、平成の初め頃に再結成され現在に至る。

**■演目**（11座）

「大打（1)」「三拍子（1)」「鎌倉（1)」「大打（2)」「天之岩戸」「昇殿」「大打（3)」「鎌倉（2)」「三拍子（2)」「大打（もちまき)」「豊公踊り（数え歌)」

**■登場する配役（神様等）**　20体

**■出演者**　10人

**■囃子**　８曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔６本調子）・太鼓・小太鼓

## 御倉御子神社太々神楽
（みくらみこじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市浄法寺
伝承団体　御倉御子神社太々神楽保存会
公開期日　10月第１日曜日　御倉御子神社

**■演目**（24座）

「奉敞渡」「思兼命」「御子（1)」「天児屋命」「天太玉命」「御倉御子神社」「御子（2)」「径津主命」「猿田彦大神」「二人舞」「琴平神社」「岩戸」「御子(3)」「金山彦命」「素武嗚尊」「海道龍人」「御子(4)」「白髪大神」「正八幡大神」「御子（5)」「大山

祇命」「蛭子」「白狐三座」「豊年の舞」
**■登場する配役（神様等）** 36柱(体)
**■出演者** 20人
**■囃子** 7曲
**■囃子構成** 篠笛（6本調子)・小太鼓・大太鼓

## 丹生神社の太々神楽
（たんしょうじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　藤岡市浄法寺
伝承団体　丹生神社神楽舞子連
公開期日　4月9日に近い日曜日　丹生神社（春季大祭）

**■演目**（19座）
「思兼神」「二人舞」「三人舞」「五人舞」「猿田」「うすめ」「岩戸」「サゴマキ」「山の神」「木の神」「竜神」「地祇」「白髭」「鉾巫女」「奉幣巫女」「巫女(1)」「巫女（2)」「蛭子」「白狐」
**■登場する配役（神様等）** 35柱(体)
**■出演者** 15人
**■囃子** 7曲
**■囃子構成**
篠笛（6本調子)・小太鼓・大太鼓・鼓・打金

## 丹生神社太々神楽
（にうじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　富岡市下丹生
伝承団体　丹生神社太々神楽保存会
公開期日　3月最終日曜日　丹生神社

## 宇芸神社太々神楽
（うげいじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　富岡市神成
伝承団体　宇芸神社太々神楽保存会
公開期日　11月3日　宇芸神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**
宇芸神社太々神楽は、宇芸神社の秋の例大祭時に古くから奉納されており、宇芸神社の例祭には欠くことの出来ない芸能となっている。
**■演目**（11座）
「御祭神の舞」「御巫女の舞」「猿田彦大神の舞」「稲含大神の舞」「十六天神の舞」「天之御中主神の舞」「大国主命・言代主命の舞」「八幡大神の舞」

「白狐の舞」「白狐餅つきの舞」「山の神の舞」
**■登場する配役（神様等）** 21柱(体)
**■構成員** 27人（出演者15人・その他12人）
**■囃子** 7曲
**■囃子構成** 笛（6孔5本調子)・太鼓

## 藤　木　神　楽
（ふじきかぐら）

伝 承 地　富岡市藤木
伝承団体　藤木神楽保存会
公開期日　10月第3土曜日　西小野神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**
江戸時代中期に越後のある村が飢饉のため村有神楽を売りたいと申し出た。藤木村の原地区に神明宮があり、この神楽は天照皇太神に仕える獅子であるとの越後民の言い伝えから原地区が買い受け独自で伝承させてきた。明治になり国から神社の統廃合が出され、その第一段階として各地区に存在する鎮守様の名簿を提出することになった。原地区の住民はこの神明宮が極微小の社のため、廃社命令となってしまう事を恐れ登録せずに温存した。結果、藤木村の白山様に隣村の諏訪様や熊野様等が合祠され、西小野神社として統合改名された。後にこの通達が一段落したところで原地区の住民は、神明宮を独自で

維持するには経済的に苦しい事から藤木村全体に同意を得て西小野神社境内の片隅に仮社を建立し、神明宮を遷移させ事無きを得たのである。その頃藤木村には大変な疫病が入り込み、何とか鎮静化したかった藤木の民は、白山様の神楽をにえとして差し出すことに決した。白山様の神楽は現存の藤木神楽より２廻り程大きく重く、誰も振る人が無く滅亡寸前だったが、これだけでは疫病を鎮めてもらえぬと考えた藤木村民は、村のもうひとつの芸能である人形浄瑠璃もにえとして差し出した。そして疫病は鎮まったが白山様の神楽と人形浄瑠璃を失った藤木村は神明宮の神楽を西小野神社に奉納することにしたのである。

**■演目**（５座：式舞２座・興舞３座）
「天の岩戸」「矢車」「下り矢」「新拍子」「剣」
**■登場する配役（神様等）** 22柱(体)
**■出演者** 7人
**■囃子** ５曲
**■囃子構成** 笛・小太鼓・大太鼓

## 蛇宮神社太々神楽
（じゃぐうじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　富岡市七日市
伝承団体　蛇宮神社太々神楽保存会
公開期日　４月15日　蛇宮神社（春季例大祭）
　　10月第４日曜日　蛇宮神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**

蛇宮神社太々神楽は、明治14年に七日市の有志が秋畑村（現在の甘楽町秋畑）の有志の指導を受け、明治15年の春季例大祭に奉納したのが始まりとされる。当初は、有志が自前で神楽の諸道具を揃える費用を工面したという。昭和６、７年頃にこれらを神社に寄贈し氏子の共有物となった。演目は15座あり、例大祭では「翁の舞」「夫婦の舞」「猿田彦の舞」の３座を必ず舞い、そのほか１、２座と最後に「上棟の舞」を舞う。

**■演目**（15座）
「翁の舞」「夫婦の舞」「猿田彦の舞」「稲荷山の舞（八幡の舞）」「恵比須の舞」「岩戸開きの舞」「鏡取りの舞」「種掃きの舞（蚕掃きの舞）」「垂神の舞」「種播きの舞」「玉取りの舞」「神宮皇后の舞」「作花の舞」「鍛冶屋の舞」「上棟の舞」
**■囃子構成** 笛・太鼓

## 貫前神社太々神楽
（ぬきさきじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　富岡市一ノ宮
伝承団体　一之宮貫前神社神楽保存会
公開期日　３月15日　一之宮貫前神社
　　12月31日～１月１日　一之宮貫前神社

## 神　　楽
（おかぐら）

伝 承 地　富岡市黒川
伝承団体　上黒川地区御霊神社氏子
公開期日　１月14日　上黒川地区

**■由来・伝承**

黒川の神楽は天明６年（1786）から始められたと云われている。天明３年（1783）の浅間山の大噴火により、田畑は15㎝程の降灰に襲われ、作物は全滅。その影響が長く続き飢饉から病魔に冒される人や疫病が流行る等、村は壊滅状態に陥り、この救いを村の有志が悪魔祓いに託した神楽が始まりと云われている。従って、真剣に悪魔を祓う神楽であり、舞を取り入れる余裕は無かったものと思われる。これが現在も続いており、正月14日の夜に各戸を回り土足で座敷に飛び込み、あばれ回って悪魔を追い出

すという誠に力強い神楽である。

神楽の主役は子供たちで、各戸全員を神楽の大きな口で噛んで悪魔を祓う。役員が御弊でお払いをして清め、心尽くしを頂いて引き上げるという段取りになっている。家々は寒中にも関わらず障子を開け払い、掃除をして「これで今年も風邪もひかず元気で暮らせるぞ」と喜んだそうである。

平成28年度より従来の神楽と平行して神楽の舞いを取り入れた里神楽を若い衆の集まりで立ち上げ、昨年の11月に発表会が行われた。曲数はまだ２から３曲程で、舞い担当４名、太鼓２名、笛８名である。これからも継続して行い伝統芸能として定着させたく思っている。

## 菅原神社太々神楽

（すがはらじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　富岡市妙義町菅原
伝承団体　菅原神社太々神楽保存会
公開期日　４月25日に近い日曜日　菅原神社（春例大祭）　ほか

**■由来・伝承**

菅原神社の春祭りは太々神楽、秋祭りは獅子舞という慣習で、祭の奉納芸能が遠い昔から連綿と続いてきた。菅原神社太々神楽は、神代神楽である。伝承の年代は定かではないが、江戸時代中期には上演されていた事が奉納額等から推察できる。神楽師と云われる半職業的な人達により当地に伝えられたと思われ、明治初年以降に菅原神社の氏子が習得し、特に城上地区（町、頂、川後石）の住人で、家を継ぐ男子により受け継がれてきた。以後、菅原神社はもとより妙義神社からも依頼を受けて奉納し、妙義の太々神楽として遠来の参拝者にも知られた。

神楽の内容は記紀神代巻に取材したものが殆どで神入れ神招きにて始まり、追鬼をもって天下泰平の次第となっている。全13座あるが、舞人全部に神名がついており、祝詞を奏し神歌を歌って舞う型式で、格調の高さからみて大和舞の系統で信州戸隠流の影響をも多分に受けているようである。

お囃子は、大太鼓、中拍子、横拍子（中、横拍子は締太鼓）神楽笛、手拍子（鉄製）、鈴を用い、舞楽の蘭陵王の旋律に似てリズミカルである。

当神楽も戦後復員した青年10数名により後継されたが昭和30年頃より、経済成長期に転出者続出で消滅寸前になった。幸い10年程前に妙義青年団の有志12名により受け継がれ、その後伝承者も増え現在に至る。

**■演目**（５座）
「水次の舞」「返幣」「三人舞」「高根の舞」「大参宮」

**■登場する配役（神様等）**　10柱(体)

**■出演者**　10人

**■囃子**　３曲

**■囃子構成**　篠笛・大太鼓・中拍子・横拍子・手拍子

## 咲前神社太々神楽

（さきさきじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　安中市鷺宮
伝承団体　鷺宮太々神楽保存会
公開期日　４月１日　咲前神社（春季例大祭）
安中市指定重要無形文化財（昭和54年３月26日指定）

**■由来・伝承**

咲前神社太々神楽の舞は13座あり、毎年４月１日の例祭で奉納されている。文化12年（1815）に片岡郡石原村（現在の高崎市石原町）の小祝神社から伝授されたと伝えられ、小祝神社から来た神楽師たちは、宮本の神楽を習う人の家に分宿して指導にあたったという。

昭和10年代までは春と秋の神社の例祭で太々神楽が奉納されていたが、例祭が４月１日と10月15日となって太々神楽は４月１日のみ演じられるように

なった。戦時中に一時中断したが、昭和24年頃に復活し、７人の神楽師によって維持されてきた。昭和30年代に後継者問題で再び中断したが、昭和50年４月１日に復活した。翌年には鷺宮太々神楽保存会が結成され、昭和54年３月26日、咲前神社太々神楽と鷺宮太々神楽保存会は安中市指定無形重要文化財に指定された。また、平成元年10月には群馬県文化奨励賞を受賞している。

**■演目**（13座）

「猿田彦大神の舞（1)」「伊佐那岐命・伊佐那美命の舞」「鹿島大神・香取大神の舞」「細目命・太刀雄大神の舞」「誉田別大神の舞」「稲倉大神の舞」「天津摩良大神の舞」「両刀の舞」「天狐の舞」「松尾大神の舞」「素佐之男大神の舞」「事代主命の舞」「猿田彦大神の舞（2)」

**■登場する配役（神様等）** 26柱(体)

**■出演者** 20人

**■囃子構成** 篠笛（６本調子)・大鼓・鉦

## 野殿白山神社太々神楽

（のどのしらやまじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　安中市野殿
伝承団体　野殿太々神楽保存会
公開期日　３月15日に近い日曜日　白山比咩神社(春季例祭)

**■由来・伝承**

野殿白山神社の太々神楽はおよそ350年前から伝わる神楽であるが、昭和40年の300年祭の奉納を最後に長く中断していた。地元有志をはじめ安中市や咲前神社太々神楽の協力により、平成23年３月に46年ぶりに神楽奉納を行う。以後、毎年３月の例大祭にて奉納している。

**■演目**（８座：式舞６座・興舞２座）

「御幣の舞」「種まき」「神酒作り」「浜遊び（鯛釣り)」「大蛇」「もちつき」「弓矢の舞」「剣の舞」

**■登場する配役（神様等）** 21柱(体)

**■出演者** 16人

**■囃子** ６曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔６本調子)・太鼓

## 土塩太神楽

（ひじしおだいかぐら）

伝 承 地　安中市松井田町土塩旧3区
伝承団体　土塩太神楽保存会
公開期日　５月第２日曜日　碓氷関所跡（碓氷関所まつり）
　　10月15日に近い日曜日　神明神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**

40年間中断した土塩神楽が平成元年の秋祭に復活し、神明神社に奉納する事ができた。土塩地区には土塩上組獅子舞（旧１区）と土塩中組獅子舞（旧２区）があり、秋祭には神明神社へ一緒に奉納している。復活にあたり妙義町下高田保存会に指導を賜り、太神楽の管理を区長に移行し、全戸からなる保存会が発足した。神楽は大久保の山の神宮が発祥の地である。現在も存続している大久保の共有林（当時、18名）社の敷地を持株と交換したとした話が残っている。旗ぐいは明治29年、神灯明治33年、祭旗６間余り、明治38年９月15日と記。これらの記録から見て、この頃に伝わった太神楽と思われる。

太神楽の舞は、最初に四方固め、天狗と武者の面をつけて舞う（子供)。神楽は手に神楽鈴、刀、御幣等を持ち舞う。

**■演目**（４座：式舞・興舞）

「楽の舞」「信州神楽」「面神楽」「四方固」

**■登場する配役（神様等）** ９柱(体)

**■出演者** 17人

**■囃子構成** 笛（６孔６本調子)・大鼓・小大鼓

## 横町太々神楽

（よこまちだいだいかぐら）

伝 承 地　みどり市笠懸町阿左美
伝承団体　横町太々神楽保存会
公開期日　４月第１土・日曜日　秋葉神社(春季祭典　宵祭・本祭)
　　10月第３土・日曜日　秋葉神社(秋季祭典　宵祭・本祭)
みどり市指定重要無形民俗文化財（昭和62年４月１日指定）

**■由来・伝承**

横町太々神楽は、横町秋葉神社（祭神：火保見之命）に、代々奉納され継承されてきた神代神楽であ

# 神楽の伝承地

る。横町には約120年前から奉納され、明治25年には伊勢の神楽司家から永代神楽奉納認可を受け、現在は横町神楽保存会によって受け継がれ、毎年４月と10月に奉納されている。

舞は、１年12か月を象った十二支舞からなり、神代時代の生活が織り込まれている。

**■演目**（12座：式舞７座・興舞５座）

「猿田彦之舞（初座舞）」「児屋根之舞」「篭土之舞」「住吉之舞」「三行之舞」「扇之剣之舞」「岩戸之舞」「金山之舞」「比留子之舞」「大蛇退治之舞」「稲荷之舞」「山神之舞」

**■登場する配役（神様等）** 34柱(体)

**■出演者** 23人

**■囃子** ８曲

**■囃子構成**

笛（７孔５本調子）・太鼓（長胴）・締太鼓・鉦

## 常将神社太々神楽

（つねまさじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　榛東村山子田
伝承団体　常将神社太々神楽部
公開期日　４月15日　常将神社（春季祭典）
　　10月９日　常将神社（秋季祭典）
榛東村指定重要無形民俗文化財（昭和46年５月10日指定）

**■由来・伝承**

常将神社の太々神楽は広馬場聖宮神社の太々神楽を師として大正15年４月に発足し、現在に至っている。それ以前にあったものは明治の頃かそれ以前に消滅してしまったものと思われる。発足後は隆盛を誇り、部員の数は30名あまり、近隣の神社から招かれて神楽を奉納したことも度々あったという。

神楽の内容は神話を主としており、特に五穀豊穣や家内安全、子孫繁栄を願っている。神楽は36座あり１日では舞いきれなかったという。運営は神社総代によってなされ、春秋の祭典に奉納している。

（協力：榛東村教育委員会）

## 聖宮神社太々神楽

（ひじりぐうじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　榛東村広馬場
伝承団体　聖宮神社太々神楽部
公開期日　４月15日　聖宮神社（春季祭典）
　　10月９日　聖宮神社（秋季祭典）
榛東村指定重要無形民俗文化財（昭和46年５月10日指定）

**■由来・伝承**

かつて聖宮神社が再建された際、その祝福に際して当国の領主桃井播磨守直常が家臣を引き連れて参拝し、神前に馬乗武術を奉納、また里人は神楽を奉納したことから、その後毎年４月15日を祭典の日と定めて太々神楽を奉納する慣わしとなった。

明治の初め頃、当村の南和重朗は音楽や舞の振り受けに工夫を凝らし、また新しい神楽を考案して従来のものに加え、神楽の改革に貢献した。こうしたことから山子田の常将神社、吉岡町の三宮神社へ伝承している。

神楽は36座あり、春秋の祭礼に奉納し氏子の繁栄を祈願している。　（協力：榛東村教育委員会）

## 八幡宮太々神楽
（はちまんぐうだいだいかぐら）

伝 承 地　榛東村新井
伝承団体　八幡宮太々神楽部
公開期日　４月第１日曜日　八幡宮（春季例大祭）
榛東村指定重要無形民俗文化財（昭和46年５月10日指定）

**■由来・伝承**

出雲流神楽で、八幡宮の春の祭典にて天下泰平、五穀豊穣、悪疫退散を祈念して奉納されている。

明治時代の初め頃に総社神社の太々神楽を受け継ぎ、新井地区の氏子によって引き継がれている。明治時代には神楽関係者を「太々神楽役者」と呼び、契約規律を定めて運営されていたという。大正時代の末からは「太々神楽講」と称するようになり現在に至っている。

伝承当時の舞座数は、男子舞21座、乙女舞15座を奉納していたが、現在は15座ほどが奉納されている。これに必要な面・装束その他の品目は46種、100点を超えている。　（協力：榛東村教育委員会）

**■演目**（17座：式舞４座・興舞13座）
「最上祝詞」「斉先之祓」「大幣」「神招」「伊邪那岐・伊邪那美」「岩戸開」「猿田毘古命」「一本刀」「片鉾」「金山」「白狐と農夫」「両刀」「八幡神」「三種之祓」「大蛇退治」「恵比須」「国がため神上げ」

**■登場する配役（神様等）**　31柱(体)

**■出演者**　22人

**■囃子**　17曲

**■囃子構成**　笛・大太鼓・小太鼓

## 三宮神社太々神楽
（さんのみやじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　吉岡町大久保
伝承団体　三宮神社太々神楽三楽講
公開期日　４月第１日曜日　三宮神社（春季例大祭）
吉岡町指定重要無形文化財（平成23年11月29日指定）

**■由来・伝承**

三宮神社は天平勝宝２年（750）に創祀されたとの伝承を持つ古名社で、伊香保神社の里宮ともいわれている。三宮神社に伝わる太々神楽は、一時途絶えた時期もあったが、昭和22年に地元有志により復活され、継承されてきた伝統芸能である。町に唯一伝承される貴重な神楽である。演目には日本国の成り立ちに係る「戸開の舞」や「天浮橋の舞」がある。また、農事と深い係りのある「蛭児の舞」や「天狐の舞」もあり、その内容や舞姿は大変見事で興味深い。　（協力：吉岡町教育委員会）

## 乃久里神社の太々神楽
（のぐりじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　上野村新羽
伝承団体　乃久里神楽保存会
公開期日　８月第１日曜日　乃久里神社（祭典）
　　10月１日に近い日曜日　八幡神社（乙母・祭典）
　　12月31日～１月１日　乃久里神社（年越し神楽）
上野村指定重要無形民俗文化財（昭和55年７月７日指定）

**■由来・伝承**

乃久里神楽は、秩父系統の太々神楽で演目は18座が伝わる。その大々神楽は、五穀豊穣と無病息災を願って神に奉納する舞楽で、天磐戸の前で演じた天宇受売女命の神話に基づく磐戸神楽の一種である。幣の舞と扇の舞が、ほとんどの演目の中に取り入れられている。里神楽のような興舞形式でなく、式舞形式がほとんどであるため、神代神楽系統の神楽である。昭和47年１月に再興後、保存会を結成し、乃

# 神楽の伝承地

久里神社、八幡神社の祭典に奉納しているほか、平成３年から大晦日の晩より元日にかけて、乃久里神社で年越し神楽を奉納している。

**■演目**（12座）

「祝詞」「国固め」「神子の舞」「翁の舞」「天狐の舞」「連れの舞」「磐戸開き」「釣り場」「大蛇退治」「天狗の舞」「種蒔き」「餅蒔き」

**■登場する配役（神様等）** 28柱(体)

**■出演者** 17人

**■囃子** ７曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔）・大太鼓・小太鼓・鼓

## 乙母神社の太々神楽

（おともじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　上野村乙母
伝承団体　乙母神楽保存会
公開期日　９月最終日曜日　八幡神社（祭礼）
上野村指定重要無形民俗文化財（昭和55年７月７日指定）

**■由来・伝承**

乙母神社の神楽殿に「八幡神社太々神楽装束寄付連名書」という額が、明治30年９月に掲げられている。この額は神楽の起源を示しているものである。

このことを裏付けるように、埼玉県秩父郡吉田町教育委員会が平成２年に発行した『貴布祢神楽』の中に明治30年代、乙母に神楽を伝えたと書かれている。貴布祢神楽には36座の演目があるがそのうち13座が伝えられている。（協力：上野村）

**■演目**（13座）

「児屋根命」「神子舞い」「鎮守の舞い」「連の舞い」「翁の舞い」「庚申」「岩戸開」「天狐」「釣り場」「猿田彦命」「オカメの舞い」「大蛇退治」「鬼神」

## 中山神社の太々神楽

（なかやまじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　神流町魚尾
伝承団体　魚尾芸能保存会
公開期日　４月15日に近い日曜日　中山神社（例大祭）
神流町指定重要無形民俗文化財（平成元年４月20日指定）

**■由来・伝承**

明家産泰神社から伝わる。明家の太々神楽講は奥多野の村々全域をはじめ、埼玉県の秩父郡や長野県の佐久郡、小県郡の村々に及ぶ広範囲な組織だった。その影響からか、神楽の面は昔から乃久里神社の神楽と共有している。当座22以上あったうち、上演演目は８座ある。中山神社の例大祭に奉納している。平成元年に神流町の重要無形文化財に指定された。（協力：神流町教育委員会）

## 稲含神社の太々神楽

（いなふくみじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　甘楽町秋畑
伝承団体　稲含神社太々神楽連
公開期日　１月３日以降最初の日曜日　住民センター（例祭）
５月３日　稲含神社（春季例大祭）
５月４日　住民センター（地区祭り）
11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（昭和42年５月５日指定）

**■由来・伝承**

この神楽は、安政年間（1854～1860）の出入（稲含神社の領有をめぐる争い）で秋畑が勝ったことを祝って奉納したのが始まりである。神楽の師匠は、武州本庄宿新田（埼玉県本庄市）の細野竹松・橋本大助の２人（当時、日本三大神楽の一つといわれた秩父神楽の師匠として高名であった）で、稲含神社の社人（世話人）22名全員が教えを受け、稽古して免状をもらった。神楽は25座で、翁の舞・猿田彦の舞・夫婦の舞の３座は必ず舞うが、その後は何を舞っても良いこととなっている。

（協力：甘楽町教育委員会）

## 笹森稲荷神社の太々神楽

（ささもりいなりじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　甘楽町福島
伝承団体　笹森稲荷神社太々神楽保存会
公開期日　３月第２日曜日　笹森稲荷神社（春季例大祭）
　　10月第３日曜日　笹森稲荷神社（秋季例大祭）
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（昭和42年５月５日指定）

**■由来・伝承**

織田信良は小幡二万石の藩主として当地に入り、福島の仮陣屋にいて小幡陣屋の完成を待っていたが、近くの当稲荷神社を鎮守として尊信するとともに、陣屋の工事が無事に完成できることを祈願して神楽を奉納した。これが太々神楽の始まりであるといわれる。幕末から明治初めにかけて、一時中断していたが、明治９年に吉井町神保の辛科神社より、甘楽町白倉の白倉神社の太々神楽と一緒に伝授され、氏子や関係者の努力によって明治11年に再興された。

（協力：甘楽町教育委員会）

## 白倉神社の太々神楽

（しらくらじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　甘楽町白倉
伝承団体　白倉神社太々神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　白倉神社（春季例大祭）
　　10月第３日曜日　白倉神社（秋季例大祭）
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（昭和63年12月６日指定）

**■由来・伝承**

「白倉のお天狗さま」の名で広く知られており、例祭日には高崎、安中、藤岡などの各方面からの参拝者で賑わったという。

現在は、春と秋に催行されている。白倉神社の太々神楽は明治９年吉井町神保の辛科神社の神楽師から伝授され、同13年４月に創設された。神楽は福島の笹森稲荷神社と同じ系統で座は18座伝わる。座の主なものは、神御子、天御中主命、都波岐大神、小天狗、誉田別命、最後に大山祇命を奉納してもち投げを行う。

**■演目**

「稲荷大神」「都波岐大神」「大山祇命」「神御子」「天御中主命」「小天狗」「誉田別命」ほか

**■出演者**　18人

**■囃子**　５曲

**■囃子構成**

篠笛（６孔６本調子）・大太鼓・中太鼓・鼓

# 神楽の伝承地

## 小幡八幡宮の神楽獅子舞
（おばたはちまんぐうのかぐらししまい）

伝 承 地　甘楽町小幡
伝承団体　大下神楽保存会
公開期日　５年毎（平成31年度予定）　小幡八幡宮
甘楽町指定重要無形民俗文化財（平成３年１月28日指定）

**■由来・伝承**

この神楽獅子舞の起源・流派は不明であるが、獅子頭の内側に「文政乙酉八月八日」（1825）の銘がある。小幡八幡宮の例祭にあたり、魔物や邪気を払い去り、天下泰平や町内安全等を祈って奉納されてきた。獅子頭１人（後持ち１人）・大太鼓１人・小太鼓２人・鉦１人・笛吹き数名で構成され、演舞中に神楽唄が歌われる。

（協力：甘楽町教育委員会）

**■演目**

「さがり葉（御幣の舞）」「しんびょうし（道化の舞）」「剣の舞」ほか

**■囃子構成**　笛・大太鼓・小太鼓・鉦

## 轟の神楽獅子
（とどろくのかぐらじし）

伝 承 地　甘楽町轟
伝承団体　轟神楽獅子保存会
公開期日　４月15日に近い日曜日　巌島神社（春季例大祭）
　　10月15日に近い日曜日　巌島神社（秋季例大祭）
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（昭和40年12月23日指定）

**■由来・伝承**

古来轟地域の住民が産土神として厚く信仰している巌島神社並びに古出神社の毎年の例祭にあたり、天下泰平、五穀豊穣、村内安全を祈って、境内で奉納されてきた。神楽獅子は、獅子頭１人（後持ち１人）・大小太鼓各１人・笛吹き数名、ほかに演舞中に独特の神楽唄を歌う１人で構成される。舞の特徴

は、舞の出が謡曲の一句によって開始されることである。　（協力：甘楽町教育委員会）

**■演目**（５座）

「御幣」「剣」「しなかぐら」「清十郎」「子持ちかぐら」

**■囃子構成**　笛・大太鼓・小太鼓

## 大山の神楽舞
（おおやまのかぐらまい）

伝 承 地　甘楽町白倉
伝承団体　大山神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　区民センター
　　10月第３日曜日　八幡神社
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（平成11年４月27日指定）

**■由来・伝承**

この神楽舞は、明治33年に「白倉の神楽舞」の演舞関係者により伝授された。白倉神社の例祭日に養蚕・稲作等の豊作、天下泰平や家内安全等を祈って奉納されたと言われている。神楽舞は、基本的に三人立ちで、先頭の舞込に続き神楽堂、堂には太鼓が２個付き、笛９人、鉦１人、鼓２人、竹ささら５人等で構成され、演舞中に神楽唄が歌われる。道化のリアルな演舞で人々を笑わせる。

（協力：甘楽町教育委員会）

**■演目**（２座）
「岩戸開き」「剣の舞」
**■囃子構成**　笛・鼓・鉦

## 天引の神楽舞
（あまびきのかぐらまい）

伝 承 地　甘楽町天引
伝承団体　天引神楽舞保存会
公開期日　10月第３日曜日　諏訪神社（秋季麦祭）
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（昭和63年12月６日指定）

**■由来・伝承**
寛平元年（980）宇田天皇（59代）に唐の僖宗が木彫の唐獅子２頭を神佛の護り本尊として献上せしが、獅子、神楽舞の初舞は足利時代の末期なり。永禄年間（1558～1570）の上杉と武田の合戦の頃に舞具一式を焼し、その後跡絶えた（伝説）。

永禄年間（1558～1570）、武田信玄が上野の西南地方を奮守し永禄６年（1563）頃信州より諏訪神社を当地に分社し、新屋明神と合祀した。元和９年(1623)、将軍家光の時に獅子、神楽を地方大名に呼宣し、承応２年（1653）４代将軍家綱の時に復興、獅子ならびに神楽を奉納した。

**■演目**（１座）
「天の岩戸」
**■登場する配役（神様等）**　２柱(体)
**■出演者**　６人
**■囃子**　２曲
**■囃子構成**　篠笛・太鼓

## 白倉の神楽舞
（しらくらのかぐらまい）

伝 承 地　甘楽町白倉
伝承団体　白倉神楽保存会
公開期日　10月第３日曜日　白倉神社（秋季例大祭）
　　11月３日　かんらふれあいの丘（民俗芸能大会）
甘楽町指定重要無形民俗文化財（平成11年４月27日指定）

**■由来・伝承**
この神楽舞の起源は不明であるが、江戸時代後期頃と推測されている。白倉神社の秋季例祭日に境内等で奉納されてきた。また、地域の慶事や不幸等があった時もその家の座敷や庭などで舞われ、魔物や邪気を払い去り、天下泰平や家内安全等を祈った。舞は二人立ちで、先頭の御幣かつぎ、次に神楽堂、この堂の左後ろに太鼓が付き、笛、鉦、拍子木等で構成される。　　（協力：甘楽町教育委員会）

**■演目**（４座）
「岩戸開き」「剣の舞」「本庭の舞」「下り葉（盛り羽)」
**■囃子構成**　笛・太鼓・鉦・拍子木

## 西中之条太々神楽
（にしなかのじょうだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町西中之条
伝承団体　柴宮神社芸能保存会
公開期日　３月第３日曜日　柴宮神社（春季例大祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■演目**（15座）
「雲切り」「紙切り」「鈴舞い」「かじや」「鏡研ぎ」「岩戸開き」「弓の舞い」「天狗」「白虎　鍬の舞い」「種播き」「白虎　鎌の舞い」「鯛釣り」「酒造り」「二刀の舞い　大蛇退治」「かため」
**■登場する配役（神様等）**　24柱(体)
**■構成員**　28人（出演者23人・その他５人）
**■囃子**　８曲

# 神楽の伝承地

**■囃子構成**　篠笛（６孔）・大太鼓・鼓

## 四万太々神楽
（しまだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町四万
伝承団体　四万太々神楽保存会
公開期日　５月３日　稲裏神社（春季例大祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■由来・伝承**

昔から寺社平地区には神楽があって、天神様の縁日や五月の愛宕山の祝日には、それぞれの神楽殿で奉納された。当時は装束等も手作りで揃わず、出し物は「天狗」「おかめ」「ひょっとこ」「えびす様」など見易い場面、踊りやすい場面を得意な人が踊っていたらしい。明治の中頃には、神社の合祀により貫湯平の稲裏神社に４月１日に奉納された。その頃は、西中之条より折田神主が泊込みで振り付け、おはやし、小道具、順番等を指導して、今の初座から結びまで経路順に行なわれるようになった。更に大正天皇の御大典記念に装束等を新調し全部が整った。当時は神楽はあっても装束の無い所があり、他地区に貸し出しもしたらしい。その後、昭和37年に一揃い、昭和60年に三揃いと整えてきた。

**■演目**（12座：式舞・興舞）

「国固め」「国引き」「春日大神」「鍛治屋」「種子蒔き(余興)」「石凝姥命」「岩戸開き」「八幡大神」「松尾大神」「八俣遠呂智退治」「恵比寿の舞」「結び」

**■登場する配役（神様等）**　23柱(体)

**■出演者**　16人

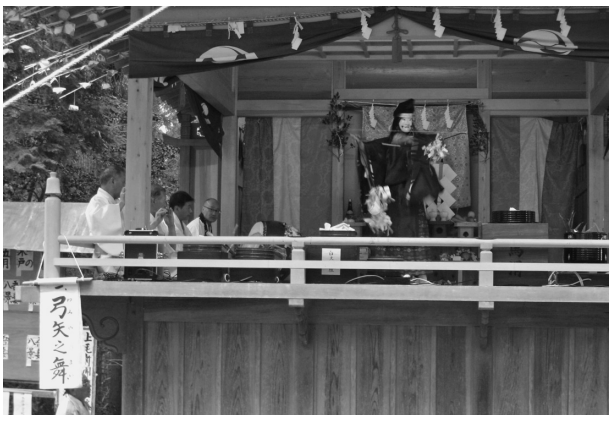
**■囃子構成**　笛（６孔）・大太鼓・小太鼓

## 下沢渡太々神楽
（しもさわたりだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町下沢渡
伝承団体　下沢渡太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　諏訪神社
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

## 五反田太々神楽
（ごたんだだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町五反田
伝承団体　親都神社芸能保存会
公開期日　５月５日　親都神社（春祭り）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）




**■由来・伝承**

江戸時代末期に原町大宮神社高山茂樹宮司が山田吾嬬神社森岡千広神官を一ノ宮貫前神社（富岡）へ

遣わし、太々神楽を覚えさせ山田・原町・五反田に伝えた。それ故にこの三社の太々神楽は一ノ宮系統であると言う。一ノ宮貫前神社の餅の形が「ひし形」なので五反田も「ひし形」としている。

**■演目**（12座）

「奉幣行事」「散米行事」「岩戸開之舞」「弓矢之舞」「住吉之舞」「御田嵐之舞」「太刀翁之舞」「両太刀之舞」「恵比寿之舞」「翁種子之舞」「稲荷之舞」「猿田彦之舞」

**■囃子構成**　笛・大太鼓・小太鼓

## 高津太々神楽

（たかつだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町横尾字高津
伝承団体　高津太々神楽保存会
公開期日　４月１日　吾妻神社（春季例大祭）
　　４月第２日曜日　石喰稲荷神社（横尾）
　　９月敬老の日前日　吾妻神社（秋季例大祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■由来・伝承**

明治初年から行われ吾妻神社と石喰稲荷の祭りに奉納される、ふるさとの貴重な伝統芸能である。江戸時代中期から伊勢神宮信仰が流行し、村ごとに代表者が伊勢に出かけた。伊勢講とか太々講といわれる。そのため伊勢神楽が村々に普及したという。

**■演目**（12座）

「雲切り」「伊邪那岐・伊邪那美」「春日大神」「鏡とぎ」「鍛冶屋」「岩戸開き」「狐の舞」「種まき」「八幡さま」「火の神」「恵比寿」「翁の舞」

**■登場する配役（神様等）**　18柱(体)

**■出演者**　9人

**■囃子**　５曲

**■囃子構成**　笛（６本調子）・太鼓・鼓

## 折田太々神楽

（おりただいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町折田
伝承団体　折田太々神楽保存会
公開期日　９月27日に近い日曜日　報徳折田神社（秋季例大祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■由来・伝承**

折田神社に伝わる太々神楽は明治初期に中折田の神官、福田種吉が諸国を拝神し、伊勢から習い伝来したものらしい。独特な風格を持つ神楽で毎年９月27日又はその日に近い日曜日に奉納される。

現在の舞は12座で、雲切りの舞で始まり、結びの舞で終わる。12座のうち組み物が４座、舞の中で餅撒きが３座ある。お囃子は、三つ拍子、平拍子で、大太鼓、鼓、笛の３種である。

**■演目**（12座：式舞10座・興舞２座）

「雲切り」「鏡砥ぎ」「住吉大神」「岩戸開き」「苗代狐」「地神様（種まき)」「八幡様」「稲刈り狐」「酒造り」「二刀の舞」「恵比寿の舞」「結び」

**■登場する配役（神様等）**　18柱(体)

**■出演者**　21人

**■囃子**　２曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔６本調子）・大太鼓・鼓

# 神楽の伝承地

## 山田太々神楽
（やまだだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町山田
伝承団体　吾嬬神社郷土芸能保存会
公開期日　４月第２日曜日　吾嬬神社（春季例大祭）
　　９月敬老の日　吾嬬神社（秋季例大祭）

## 岩本太々神楽
（いわもとだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町岩本
伝承団体　岩本芸能保存会
公開期日　３月27日に近い日曜日　諏訪神社
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

## 蟻川太々神楽
（ありかわだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町蟻川
伝承団体　蟻川太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　熊野神社

## 伊勢町太々神楽
（いせまちだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町大字伊勢町
伝承団体　伊勢町郷土芸能保存会
公開期日　４月３日　伊勢宮（春季例祭）
　　12月31日～１月１日　伊勢宮（歳旦祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■由来・伝承**

大正時代中期より行っていたものと聞かされている。並行して八木節音頭を行っており、これは今日までずっと伝承されている。しかし、太平洋戦争により座員のほぼ全ての人達が召集や戦死等で神楽は

絶えてしまった。

戦後（昭和21年）すぐに有志が立上り、町内別神社より太々の教授を受ける。それから再開し昭和51年に現在の部員が引継ぎ現在に至る。（51年当時の部員４名が残っている）

**■演目**（13座：式舞６座・興舞７座）
「雲切り」「紙切り」「かじや」「鈴舞い」「鏡磨き」「岩戸開き」「弓の舞」「天狗」「鍬の舞」「種蒔き」「鎌の舞」「鯛つり」「二刀の舞」

**■登場する配役（神様等）**　21柱（体）

**■出演者**　18人

**■囃子**　５曲

**■囃子構成**　笛（６孔７本調子）・太鼓・鼓

## 中之条太々神楽
（なかのじょうだいだいかぐら）

伝 承 地　中之条町大字中之条町
伝承団体　中之条伊勢宮芸能保存会
公開期日　９月敬老の日　伊勢宮（秋季例大祭）
　　６月・10月・11月　つむじ（郷土芸能発表会）

**■由来・伝承**

江戸時代から昭和のはじめまで続いていた神楽を昭和51年に地元地域に募集をかけて復興させたものである。舞やお囃子は、近隣の団体から学んだものである。

**■演目**（11座）
「國常立」「伊邪那岐・伊邪那美」「天兒屋根」「鏡とぎ」「劔打ち」「岩戸開き」「狐」「種蒔き」「酒造り・大蛇退治」「恵比寿（事代主命）」「八幡様」

**■登場する配役（神様等）**　19柱（体）

**■構成員**　30人（出演者25人・その他５人）

**■囃子**　４曲

**■囃子構成**
篠笛（６孔８本調子）・太鼓・鼓

## 川原湯神社太々神楽
（かわらゆじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　長野原町川原湯
伝承団体　川原湯神社太々神楽連中
公開期日　４月８日　川原湯神社（春季例祭）
　　11月最終日曜日　川原湯神社（新嘗祭）

**■由来・伝承**

昭和３年４月８日の川原神社の例祭のとき、松谷神社（吾妻郡吾妻町）に伝わる御嶽流の神楽を当神社の海野宮司に依頼して奉納してもらった。これがきっかけとなり、川原湯の青年会の人たちが神楽を習得し、今後は自分たちの手で奉納しようということになった。吾妻町松谷の水出治作（太々神楽大講長）を師匠として、その伝授を受け翌年の例祭に奉納したのが川原湯神社の太々神楽の始まりであるという。ただ、松谷からの神楽伝授は、大正末年頃という伝えもある。したがって、既にこの頃から松谷と川原湯との間に神楽を通じての交流が開始されていたものと思われる。

当初は仮設神楽殿によって奉納されていたが、昭和８年には地元氏子中の寄付金や神楽連中の奉仕によって常設の神楽殿が完成した。神楽を始めてから数年後に太々講が結成された。

**■演目**（15座：式舞・興舞）
「奉幣の舞」「国常」「伊勢諾・伊勢那美」「児屋根」「鍛冶屋」「鏡砥ぎ」「狐（田作り）」「地鎮様」「岩戸開き」「お恵比寿さん」「問答」「酒造り」「二刀の舞」「稲刈り狐」「余興」

**■登場する配役（神様等）**　26柱(体)

**■出演者**　18人

**■囃子**　６曲

**■囃子構成**　篠笛(６孔５本調子)・大太鼓・絞太鼓

## 王城山神社里神楽
（おうじょうざんじんじゃさとかぐら）

伝 承 地　長野原町林
伝承団体　王城山神社氏子会
公開期日　５月５日　王城山神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

大正２年の創始にして、旧吾妻郡坂上村大柏木、宮貝戸、佐奈神社にて旧来より奉泰せる神楽師数名の人をたのみ昼夜練習一週間を行う。神楽舞子連中は各人自己出資にて、神楽用面裳束、楽器迄道具一式を大正４年に購入する。講員の家内安全、養蚕穀米の豊熟祈願のため17座を奉納している。

**■演目**（17座）
「奉幣」「国堅め」「散米」「太王」「児屋根」「榊二人舞」「御田荒」「岩戸」「弓矢」「二刀」「稲荷」「事代主」「御子舞」「住吉」「伊佐奈岐　伊佐奈美」「猿田彦」「翁」

**■登場する配役（神様等）**　22柱(体)

**■構成員**　12人

**■囃子**　17曲

**■囃子構成**　笛（６孔・７孔）・龍笛・太鼓・鼓胴

# 神楽の伝承地

## 与喜屋養蚕神社太々神楽
（よきやようさんじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　長野原町与喜屋
伝承団体　与喜屋神楽保存会
公開期日　５月15日　養蚕神社

## 三島神社太々神楽
（みしまじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高山村大字中山
伝承団体　三島神社太々神楽保存会
公開期日　４月１日　中山神社（春季例大祭）
　　４月15日　三島神社（春季例大祭）
　　９月１日　中山神社（秋季例大祭）
　　９月敬老の日　三島神社（秋季例大祭）
高山村指定文化財（昭和40年６月１日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代中期の享保７年（1722）より現在に至っている。神楽は古事記、日本書紀よりとり、流派は江戸流である。中山神社祭典と三島神社祭典において奉納されている。　（協力：高山村教育委員会）

**■演目**（８座：式舞５座・興舞３座）

「猿田彦の舞」「四人の舞（四方固め）」「追込の舞」「宇津賣の舞」「岩戸開の舞」「きつねの舞（種まき）」「恵比須の舞（鯛つり）」「鍛冶屋の舞」

**■登場する配役（神様等）**　16柱（体）

**■出演者**　９人

**■囃子構成**　笛・太鼓・中鼓・鉦

## 尻高神社太々神楽
（しったかじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　高山村大字尻高
伝承団体　尻高神社太々神楽保存会
公開期日　９月中旬日曜日　尻高神社（秋季例大祭）
高山村指定文化財（昭和40年６月１日指定）

**■由来・伝承**

慶応年間（1865～1868）に尻高全域の寄附金により太々神楽用具が購入され、太々神楽が奉納された。その後幾たびか中断するもその都度有志により後を継がれ、尻高神社太々神楽として現在に至っている。　（協力：高山村教育委員会）

**■演目**（９座）

「石古里留命」「地神貴命」「天野蛇工命」「松野尾命」「洲佐野尾命」「太力男命」「恵美寿命・ひょう神命・河童子命」「ひょう神命(2)・仲仕姫命」「結び」

**■登場する配役（神様等）**　13柱（体）

**■出演者**　６人

**■囃子構成**　笛・大太鼓・締太鼓

## 大宮巖鼓神社の太々神楽
（おおみやいわづつみじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町原町
伝承団体　大宮巖鼓神社太々神楽保存会
公開期日　５月５日　大宮巖鼓神社
　　９月９日　大宮巖鼓神社

## 川戸神社の太々神楽
（かわどじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町川戸
伝承団体　川戸神社太々神楽保存会
公開期日　４月29日　川戸神社（春季例大祭）
　　10月９日　川戸神社（秋季例大祭）

**■演目**（９座）
「国造り」「児屋根」「国固め」「鍛冶屋」「鏡研」「天の岩戸」「キツネ」「天狗」「恵比寿」
**■登場する配役（神様等）**　12柱(体)
**■出演者**　12人
**■囃子**　４曲
**■囃子構成**　笛・太鼓

## 榛名神社の太々神楽
（はるなじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町岡崎
伝承団体　榛名神社太々神楽保存会
公開期日　４月29日　榛名神社

## 矢倉鳥頭神社の太々神楽
（やぐらとっとうじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町矢倉
伝承団体　鳥頭神社太々神楽保存会
公開期日　４月第３土曜日　鳥頭神社（春季例大祭）
　　11月３日　鳥頭神社（秋季例大祭）

**■演目**（９座）
「国固めの舞」「知能開運の舞」「剣打ちの舞」「鏡研ぎの舞」「種子まきの舞」「岩戸の舞」「二刀の舞」「八幡大神の舞」「恵比寿の舞」
**■登場する配役（神様等）**　13柱(体)
**■出演者**　10人
**■囃子**　３曲
**■囃子構成**　篠笛・大太鼓・締太鼓

## 菅原神社の太々神楽
（すがはらじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町岩下
伝承団体　菅原神社太々神楽保存会
公開期日　２月25日　菅原神社（春季例大祭）
　　５月３日　菅原神社（五社祭）
　　11月25日　菅原神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**
大正５年に有志の者が太々講の設立を企画し、神楽殿を新築した。神楽は青梅市の御嶽神社の系統で、豊穂教会講社大講長、関庄八の伝授を受けた。以来、菅原神社において奉納されてきたが、当社の

# 神楽の伝承地

神楽は昭和30年頃に長野原町与喜屋の養蚕神社から伝授され、同社においても５月15日の例大祭に奉納されている。

**■演目**（９座）

「国之常立尊」「天之児屋根尊」「石凝之尊」「稲荷之尊」「種蒔の舞」「岩戸の舞」「蛭子之尊」「問答」「酒造りの舞」

**■登場する配役（神様等）** 16柱(体)

**■出演者** 14人

**■囃子** ３曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔）・大太鼓・小太鼓

## 松谷神社の太々神楽

（まつやじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町松谷
伝承団体　松谷神社師子・太々神楽保存会
公開期日　１月14日　松谷神社（厄除祭）
　　５月３日　松谷神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

神社の建立年代は不明で、元は水出家の祝神であった。祭神は養蚕の神で荒神様。現在の地に遷宮したのが江戸時代中期の享保の初め。約60年後、天明３年（1783）の浅間山大噴火により全てが流出。天保７年（1787）に社殿を再建（現在の社殿）。明治40年に神社合併施行により松谷神社と改称。

祭日は春３月15日（現５月３日）と秋11月15日(現23日)、１月14日があり、太々神楽は１月と５月の２回奉納される。明治23年頃に同村郷原の関庄八の教導により村内若者連が伝習し、同年４月に大平愛宕神社に奉納したのが初めである。当時の神職、武藤繁治の提唱により太々講をつくり、以来毎年奉納されてきたものである。昨今は継承者確保の見通しがなく、今後の伝承が危惧されるものである。

**■演目**（７座）

「国堅（四方堅)」「おじいさん」「鏡研ぎ」「きつね」「地鎮様」「岩戸」「恵比寿さん」

**■登場する配役（神様等）** 10柱(体)

**■出演者** 12人

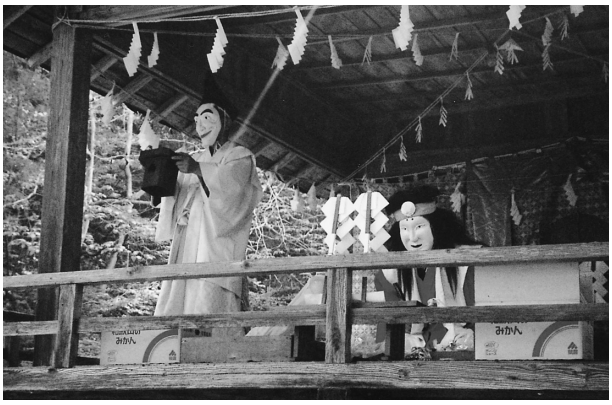
**■囃子** ３曲

**■囃子構成** 篠笛（７孔７本調子）・太鼓

## 熊野講社の太々神楽

（くまのこうしゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町大字三島
伝承団体　熊野講社太々神楽保存会
公開期日　５月５日　熊野講社（春季例大祭）



**■由来・伝承**

明治元年に熊野講社宮司前田正木が太々神楽講を始め、大字大柏木佐奈神社太々神楽の神楽師を招いて奉納。毎年続けてきたが、明治27年から地元の若者が佐奈神社の神楽師、加辺伊一郎ほかから指導を受けて舞うようになる。

面や装束等は他神社（岩下菅原神社の太々神楽）より借用していたが、昭和27年に前田諶平が中心となり菅原神社の面や装束を見本として面を彫ったり衣裳は近所の女性たちが縫ったり一部購入して整えた。

**■演目**（16座）

「奉幣」「国堅」「散米」「太玉」「児屋根」「榊」「御田荒」「岩戸」「弓矢」「二刀」「稲荷」「二柱」「蛭子」「住吉」「猿田彦」「翁」

**■登場する配役（神様等）** 21柱(体)

**■出演者** 8人

**■囃子** ６曲

**■囃子構成**

篠笛（７本調子・８本調子）・大太鼓・小太鼓

## 三島鳥頭神社の太々神楽
（みしまとっとうじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町大字三島
伝承団体　鳥頭神社太々神楽保存会
公開期日　４月29日　鳥頭神社（春季例大祭）
　　11月３日　鳥頭神社（秋季例大祭）

**■由来・伝承**

神楽の伝承は熊野講社太々神楽と同じ三島鳥頭神社から依頼されていたが神社関係者が変わり依頼されなくなった。神楽の奉納をするために昭和60年代より三島鳥頭神社太々神楽と名乗ることにした。平成20年に宝くじの助成金制度で一部の面の修繕と衣裳を新調をした。

**■演目**（16座）

「奉幣」「国堅」「散米」「太玉」「児屋根」「榊」「御田荒」「岩戸」「弓矢」「二刀」「稲荷」「二柱」「蛭子」「住吉」「猿田彦」「翁」

**■登場する配役（神様等）** 21柱(体)

**■出演者** 8人

**■囃子** 6曲

**■囃子構成**

篠笛（７本調子・８本調子）・大太鼓・小太鼓

## 吉岡神社の太々神楽
（よしおかじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町本宿
伝承団体　吉岡神社氏子会
公開期日　４月８日　吉岡神社（春季例大祭秋季）
　　11月８日　吉岡神社（秋季例大祭秋季）

**■演目**（12座）

「国堅」「参米」「太刀翁」「三田荒」「岩戸開き」「種子翁」「二刀の舞い」「天狗の舞い」「弓矢八幡」「稲荷の舞い」「恵比寿の舞い」「住吉大神」

**■登場する配役（神様等）** 15柱(体)

**■出演者** 22人

**■囃子** ３曲

**■囃子構成** 篠笛（６孔）・大太鼓・小太鼓

## 須賀尾諏訪神社太々神楽
（すがおすわじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町須加尾
伝承団体　諏訪神社太々神楽保存会
公開期日　４月８日　諏訪神社
　　11月８日　諏訪神社

## 新巻の太々神楽
（あらまきのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町大字新巻
伝承団体　新巻太々神楽講中
公開期日　休止中　菅原神社
東吾妻町指定無形民俗文化財（昭和48年３月23日指定）

**■由来・伝承**（平成26年以降休止）

神楽を奉納する菅原神社は、主要県道渋川・吾妻線の新巻の信号より南方およそ300mで石段を登る。

神楽は、その昔木曽御嶽山の講中より始まるという。新巻の太々神楽はその講中に加盟し、修行の上費格を得て神楽士となり明治30年代に発足したと伝

# 神楽の伝承地

えられる。初期は装束・頭一切を借用して奉納していたが、神楽殿の新築に伴い、昭和８年諸道具を調え現在に至っている。

親子で講に入り、世襲的に継承されている。

五殻豊穣、家内安全を主として祈祷する神楽舞で、現在は午前に岩戸前までの９座、午後は蛭子の舞まで６座行う。奉納舞は春３月25日、秋９月29日に行われていた。

（東吾妻町教育委員会提供）

## 五町田の太々神楽

（ごちょうだのだいだいかぐら）

伝 承 地　東吾妻町五町田
伝承団体　神楽連中
公開期日　休止中　持分神社
東吾妻町指定無形民俗文化財（昭和48年３月23日指定）

**■由来・伝承**（平成26年以降休止）

奉納する神楽は、五町田千沢の持分神社の神楽として発達した。千沢の上原まつは信仰に厚く、その弟子の中で上原百三ら６人が諸社を修行中、これらの人々が中心となって神楽面や衣装を整え、明治20年頃に神楽を奉納したという。

大正12年頃から「猿田彦命の舞」から「ぞうきの舞」までの15種類の舞を奉納するようになった。奉納舞は春4月10日、秋10月10日に行われていた。

（東吾妻町教育委員会提供）

## 永井箱根神社の太々神楽

（ながいはこねじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　昭和村川額
伝承団体　永井太々神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　箱根神社
昭和村指定重要無形民俗文化財（平成４年９月17日指定）

**■由来・伝承**

永井箱根神社の春の祭礼（４月15日）前後に毎年、太々神楽が奉納される。神の心を鎮める鎮魂と五穀豊穣、氏子の幸せを願って舞われる。明治16年に有志者が武州豊穂教会から伝授。その後、北橘村下南室の神楽師の教えを受け、永井豊穂講社を発足。現在は講社を解散し、永井太々神楽保存会として引き継がれている。（協力：昭和村教育委員会）

## 小高諏訪神社の太々神楽

（こだかすわじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町後閑
伝承団体　小高諏訪神社御神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　小高諏訪神社

## 村主八幡神社の太々神楽

（すぐりはちまんじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町上津
伝承団体　村主八幡神社御神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　八幡神社
みなかみ町指定重要無形民俗文化財（平成４年２月４日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代末期の文政８年（1825）に、後閑地区に

ある小高諏訪神社の神主が上方で神楽を伝授され、帰村して近隣の神社に教えたことが始まりである。以来、地元により伝承され、12座が毎年４月の春季大祭に奉納される。（協力：みなかみ町教育委員会）

## 小松八幡宮の太々神楽

（こまつはちまんぐうのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町下津
伝承団体　小松八幡宮太々神楽保存会
公開期日　４月第１日曜日　八幡宮（春季例大祭）
みなかみ町指定重要無形民俗文化財（平成５年12月14日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代末期から明治の初期に上津地区の村主八幡神社から伝わったといわれている。神楽の座は現在13座（住吉の舞、浮橋の舞、五行の舞、神明の舞、追込の舞、おかめの舞、岩戸の舞、苗代の舞、種蒔きの舞、鏡研ぎの舞、天狗の舞、鯛釣りの舞、土蜘蛛退治の舞）が春季例大祭で奉納される。

（協力：みなかみ町教育委員会）

## 月夜野神社の太々神楽

（つきよのじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町月夜野
伝承団体　月夜野神社御神楽保存会
公開期日　４月15日　月夜野神社

## 小川神社の太々神楽

（おがわじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町小川
伝承団体　小川神社御神楽保存会
公開期日　４月第３日曜日　小川神社（春季大祭）
みなかみ町指定重要無形民俗文化財（昭和45年４月１日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代中期から伝承され、12座が毎年４月第３日曜日の春季大祭に奉納される。

（協力：みなかみ町教育委員会）

## 猿ヶ京神明神社の神道修成派太々神楽

（さるがきょうしんめいじんじゃのしんとうしゅうせいはだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町猿ヶ京温泉
伝承団体　神道修成派太々神楽講
公開期日　４月第２日曜日　神明神社（春季例大祭）
　　大晦日から元旦　神明神社
みなかみ町指定重要無形民俗文化財（昭和49年３月18日指定）

# 神楽の伝承地

**■由来・伝承**

明治20年に中之条の吾妻神社より教授された比較的新しい太々神楽である。毎年４月の春季例大祭にて奉納される。　（協力：みなかみ町教育委員会）

## 布施稲荷神社太々郷神楽

（ふせいなりじんじゃだいだいさとかぐら）

伝 承 地　みなかみ町布施
伝承団体　神道修成派太々神楽講
公開期日　４月第３日曜日　稲荷神社
みなかみ町指定重要無形民俗文化財（昭和49年３月18日指定）

**■由来・伝承**

昭和の初めに始まった比較的新しい太々神楽である。４月の春祭りに奉納される。

（協力：みなかみ町教育委員会）

**■演目**（11座：式舞１座・興舞10座）
「五行」「国堅」「追込」「弓」「種蒔」「舞姫」「磐戸開」「餅突」「天照皇」「鯛釣」「土グモ退治」

**■登場する配役（神様等）**　21柱(体)

**■出演者**　16人

**■囃子**　５曲

**■囃子構成**　篠笛・大太鼓・小太鼓・鉦

## 新巻日枝神社太々神楽

（あらまきひえじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町新巻
伝承団体　新巻日枝神社太々神楽保存会
公開期日　４月第２日曜日　日枝神社

## 大峰神社太々里神楽

（だいほうじんじゃだいだいさとかぐら）

伝 承 地　みなかみ町小仁田
伝承団体　大峰神社太々里神楽保存会
公開期日　５月３日　大峰神社（春季例大祭）

**■由来・伝承**

大峰神社の祭礼の一環として舞殿で奉納しているが、いわゆる宗教としてとらえていない。里神楽は、神社に付随した芸能であり伝統文化である。

演者は、面や装束を着け、身振り、手振り、持ち物による表現で演じる。台詞のない無言劇であることが特徴である。里神楽の音楽は、笛、大小太鼓、鉦などを中心に演奏している。舞の動きの中には娯楽的な要素を取り入れたものや、勇壮な剣を振りかざすもの、お姫様の衣裳で舞うものなどで現在の奉納舞は16座である。

この里神楽の起源は定かではないが、刈羽郡周辺に類似の舞が多く残っているようである。大峰神社の祭典には昔から神楽が舞われていたが、舞人や楽人は後閑の人たちに依頼して行われていた。大正初年の頃、新潟県の伊夜彦神社で神楽修業を積んだ群馬郡金島村生れの高橋藤吉が、僧として寺間に住むようになり、当時の氏子総代が先頭に立ち村人たちと協力して大正６年に大峰神社大々里神楽として創立された。

**■演目**（16座：式舞５座・興舞11座）
「帝選の舞」「庭清の舞」「青木舞」「猿田彦の舞」「日天月天の舞（素面）」「咲耶姫の舞」「三本剣の舞（素面）」「八十八夜の舞」「盆舞（素面）」「山々神の舞」「うすめ舞」「大蛇退治の舞」「恵比寿舞」「三韓玉取舞」「熊襲退治の舞」「餅搗き舞」

**■登場する配役（神様等）**　26柱(体)

**■出演者**　18人

**■囃子**　７曲

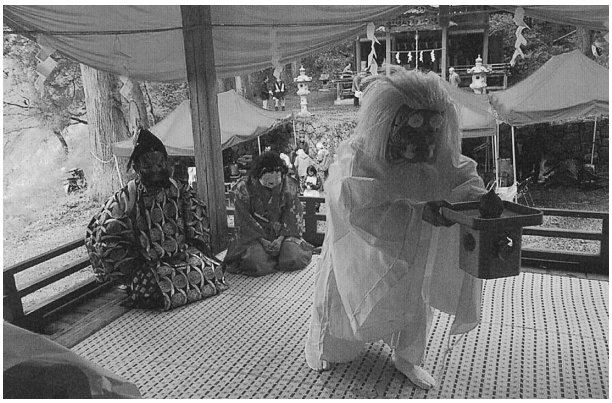
**■囃子構成**

篠笛（6孔6本調子）・大太鼓・小太鼓・チャパ・鉦

## 冨士浅間神社太々神楽

（ふじせんげんじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町谷川
伝承団体　冨士浅間神社太々神楽保存会
公開期日　４月29日　冨士浅間神社（春季例大祭）



**■演目**（13座：式舞11座・興舞２座）

「塩撒」「神詞」「奉幣」「いざなぎ・いざなみ」「岩戸開き」「猿田彦」「二刀剣」「活鼓」「種蒔」「八幡」「鍛冶屋」「鯛釣り」「大蛇退治」

**■登場する配役（神様等）**　28柱(体)

**■出演者**　22人

**■囃子**　３曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔６本調子）・太鼓

## 粟沢武尊神社太々神楽

（あわざわほたかじんじゃのだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町粟沢
伝承団体　粟沢武尊神社太々神楽保存会
公開期日　５月５日　武尊神社（春祭大祭）

**■演目**（12座：式舞10座・興舞２座）

「奉幣大麻」「猿田彦の舞」「天の浮橋の舞」「岩戸開き」「鍛冶の舞」「劔の舞（両刀)」「天狐の舞」「弓の舞」「薙刀の舞」「大蛇退治」「魚釣りの舞」「国堅め」

**■登場する配役（神様等）**　24柱(体)

**■構成員**　17人（出演者16人・その他１人）

**■囃子**　10曲

**■囃子構成**　篠笛（６孔５本調子）・太鼓・小太鼓

## 熊野神社太々神楽

（くまのじんじゃだいだいかぐら）

伝 承 地　みなかみ町須川
伝承団体　熊野神社氏子
公開期日　４月第２日曜日　熊野神社

## 里　神　楽

（さとかぐら）

伝 承 地　板倉町板倉
伝承団体　板倉里神楽保存会
公開期日　不定期　雷電神社　ほか
板倉町指定重要無形民俗文化財（昭和44年５月29日指定）

**■由来・伝承**

里神楽は通称「板倉のひょっとこ」と呼ばれ、神楽をする人を「ひょっとこ連中」と呼んでいる。

言い伝えによると明治10年頃、板倉の数名の子どもたちが近くの羽附村(現在の館林市)長竹耕地の里神楽に感激して見様見真似で始めたのが最初である。

お囃子のもとになったのは、東京神田明神に伝わるテンポの早い軽快な「神田囃子」で、それに栃木県佐野市富岡町のお囃子が加わって現在の「ひょっとこ囃子」になったといわれている。また踊りは、長竹耕地のものに加えて、利根向こうの埼玉一帯に

# 神楽の伝承地

広く伝わる道化と万作踊りや歌舞伎の動きを取り入れたものといわれている。

現在は町内外を問わず積極的に各地のお祭りなどに出演や、町内の各小学校で伝統芸能教室を開催して伝統芸能の伝承を行っている。

（協力：板倉町教育委員会）

## 太々神楽

（だいだいかぐら）

伝 承 地　板倉町大字大高嶋
伝承団体　高鳥天満宮太々の会
公開期日　１月１日　高鳥天満宮（元旦祭）
　　２月第４日曜日　高鳥天満宮（春季例大祭）
　　11月第２日曜日　南部公民館（南部公民館祭り）ほか
板倉町指定重要無形民俗文化財（平成19年７月26日指定）

**■由来・伝承**

明治初期に館林市大島敬神講の神楽師が伝えたと言われるが、神楽殿正面に「吉田殿御免太々神楽」の額が掲げられており、江戸時代後期から存在した可能性が高い。神代神楽の系統をもつ式舞と里神楽の系統を持つ興舞がある。式舞には、幣舞、思金神、天狗、翁、古屋根、鈿女、戸隠、興舞には、金山、恵比寿、大黒、狐、山神が伝わっている。

**■演目**（８座：式舞・興舞）
「幣舞」「鈿女」「戸隠（天岩戸）」「金山（火男）」「天狗」「恵比寿」「狐」「山神」

**■登場する配役（神様等）**　10柱(体)

**■出演者**　13人

**■囃子**　６曲

**■囃子構成**

篠笛（６孔６本調子）・大太鼓・大鼓（小太鼓）

## 大輪の里神楽

（おおわのさとかぐら）

伝 承 地　明和町大輪
伝承団体　大輪親和会
公開期日　７月第２土曜日　大輪地区

**■由来・伝承**

八坂神社に伝わる郷土芸能で、江戸時代から伝えられてきたものと言われている。笛や太鼓のお囃子に合わせて、ユーモラスなおかめ・ひょっとこ踊りが毎年７月に演じられている。

## 吉田西里神楽

（よしだにしさとかぐら）

伝 承 地　大泉町吉田西
伝承団体　吉田西里神楽保存会
公開期日　４月中旬　白山神社（春祭り）
　　８月下旬　地域公民館（納涼祭）
　　10月中旬　白山神社（秋祭り）
　　２月中旬　大泉町文化むら（伝統芸能祭り）
大泉町指定重要無形民俗文化財（昭和59年10月12日指定）

**■由来・伝承**

吉田西里神楽は、農作物の無事な成長を祈り、大地の恵みに心から感謝し、集落の人々の幸せを願って舞った伝統芸能である。言い伝えによると江戸末期から明治初期頃に始められ、出雲流神楽に演技性の高い江戸神楽や神話的要素の強い岩戸神楽、さらに太々神楽などの要素を混入した東毛地方に分布する神楽の系統に入るものとされている。里神楽はもともと五穀豊穣を祈る意味合いの厳粛な神事であった。関東地方の神楽は唄や言葉のない無言劇が大半をしめていると言われているが、吉田西の里神楽は、特に対話を交える特徴を有し古くから春や秋の祭りに上演され庶民の楽しみとされてきた。演目には、三番叟、岩戸開き、にんば（種まき）、えびす

さま、刀鍛冶屋、ひょっとこおかめ、狐つりの７つが伝わる。この神楽は、舞手が自由な趣向を取り入れて面白おかしく楽しませるが、三番叟だけは祝儀などの目出たい席で五穀豊穣や諸業の繁栄を祈る厳粛で大変縁起の良い舞である。

**■演目**（２座：式舞１座・興舞１座）
「にんば（種まき）」「三番叟」

**■登場する配役（神様等）** ５柱(体)

**■構成員** 21人（出演者12人・その他９人）

**■囃子** ３曲

**■囃子構成**
篠笛（７孔７本調子）・大太鼓・小太鼓・鉦

## 長良神社の里神楽
（ながらじんじゃのさとかぐら）

伝 承 地　邑楽町篠塚
伝承団体　里神楽獅子舞保存会
公開期日　１月第２日曜日　富士講秋葉様（どんと祭り）
４・９月第４日曜日　社日神社（春秋の例大祭）
９月第１土曜日　稲荷神社（秋祭り）
11月19日　出雲神社（えびす講）
11月第２日曜日　神明宮（例大祭）　ほか
邑楽町指定重要無形民俗文化財（平成16年１月27日指定）

**■由来・伝承**

江戸時代後期の安永８年（1779）に一ノ宮長柄神社が正殿の改築工事記念を祝し、武蔵武州から伝播された。絵馬や奉二人記念画が物語っている。演目は、里神楽（９演目）とかぐら獅子舞（二人舞：９つの舞）があり、夜神楽、五大妖怪（白狐、大蛇、大鬼、獅子、大カッパ）の出現など特異とし、滑稽、厳粛、凛々しさがある。お囃子は40曲余あり、正調音源として伝承されている。

かぐら獅子舞（二人舞）も巫女がリード世話役として登場し、門付け舞や四方固めの舞など人気を博している。

**■演目**（10座）
「天の岩戸開きの舞」「恵比寿・大黒様の鯛つりの舞」「追儺の鬼退治の舞」「大蛇退治の舞」「ひょっとこ・おかめの子守り子育ての舞」「猿田彦大神の天孫降臨の舞」「金山彦大神の刀かじ屋の舞」「獅子の鼻通しの舞」「稲荷大明神の種まきの舞」「かぐら獅子舞（9つの舞）」

**■登場する配役（神様等）** 38柱(体)

**■出演者** 14人

**■囃子** 40曲

**■囃子構成**
篠笛（７孔５本調子・６本調子）・太鼓・締太鼓・チャッパ・鉦・ドラ

**《参考文献》**
群馬県史編さん委員会『群馬県史 資料編26 民俗2』1982年
群馬県教育委員会『群馬県の民俗芸能―群馬県民俗芸能実態調査報告書―』1986年
群馬県教育委員会『群馬県の民俗芸能―群馬県民俗芸能実態調査報告書―』1997年
群馬県教育委員会『群馬県の祭り・行事―群馬県祭り・行事調査報告書―』2001年
群馬県『群馬のふるさと伝統文化－群馬県伝統文化調査報告書－』2009年
群馬県生活文化部文化振興課『伝統文化継承状況アンケート 調査結果報告書』2013年
公益財団法人群馬県教育文化事業団『平成24年度伝統文化継承事業調査報告書』2013年
公益財団法人群馬県教育文化事業団『平成25年度伝統文化継承事業調査報告書』2014年
公益財団法人群馬県教育文化事業団『平成26年度伝統文化継承事業調査報告書』2015年
公益財団法人群馬県教育文化事業団『平成27年度伝統文化継承事業調査報告書』2016年
公益財団法人群馬県教育文化事業団『平成28年度伝統文化継承事業調査報告書』2017年
埼玉県立歴史と民俗の博物館『神楽を楽しむ～埼玉の神楽入門～』2012年
萩原進『郷土芸能と行事（群馬県）』1957年　煥乎堂
萩原進『群馬の郷土芸能（下）』1994年　みやま文庫
三田村佳子『里神楽ハンドブック 福島・関東・甲信越』2005年　おうふう

# 神楽の開催日程

※日程は変更・中止になる場合があります。神楽団体、神社、教育委員会などに確認してお出かけください。

| 期　日 | | 神楽の名称 | 地　域 | 神　社 |
|---|---|---|---|---|
| 1月 | 1日（元日） | 二宮赤城神社太々神楽 | 前橋市二之宮町 | 二宮赤城神社 |
| | | 三夜沢赤城神社太々神楽 | 前橋市三夜沢町 | 赤城神社 |
| | | 諏訪神社太々神楽 | 藤岡市藤岡 | 諏訪神社 |
| | | 上戸塚太々神楽 | 藤岡市上戸塚 | 戸塚神社 |
| | | 太々神楽 | 板倉町大字大高嶋 | 高鳥天満宮 |
| | 1日～3日 | 烏子稲荷神社太々神楽 | 高崎市上小塙町 | 烏子稲荷神社 |
| | 10日 | 立石神社太々神楽 | 藤岡市立石 | 立石神社 |
| | 13日 | 片貝神社太々神楽 | 前橋市東片貝町 | 片貝神社 |
| | 14日 | 神楽 | 富岡市黒川 | 黒川地区 |
| | | 松谷神社の太々神楽 | 東吾妻町松谷 | 松谷神社 |
| | 第2日曜日 | 八幡八幡宮大々神楽 | 高崎市八幡町 | 八幡宮 |
| 2月 | 11日（建国記念日） | 二宮赤城神社太々神楽 | 玉村町樋越 | 神明宮神社 |
| | 15日 | 榛名神社神代神楽 | 高崎市榛名山町 | 榛名神社 |
| | 25日 | 菅原神社の太々神楽 | 東吾妻町岩下 | 菅原神社 |
| | 25日近日曜日 | 大島岡里神代神楽 | 板倉町大字大高嶋 | 高鳥天満宮 |
| | 第4日曜日 | 太々神楽 | 板倉町大字大高嶋 | 高鳥天満宮 |
| 3月 | 15日 | 総社神社太々神楽 | 前橋市元総社町 | 総社神社 |
| | | 里神楽 | 館林市赤生田町 | 子神社 |
| | | 貫前神社太々神楽 | 富岡市一ノ宮 | 一之宮貫前神社 |
| | 15日近日曜日 | 野殿白山神社太々神楽 | 安中市野殿 | 白山比咩神社 |
| | 第2日曜日 | 笹森稲荷神社の太々神楽 | 甘楽町福島 | 笹森稲荷神社 |
| | 19日近日曜日 | 本郷下郷太々神楽 | 藤岡市本郷 | 土師神社 |
| | 第3日曜日 | 西中之条太々神楽 | 中之条町西中之条 | 柴宮神社 |
| | 27日近日曜日 | 岩本太々神楽 | 中之条町岩本 | 諏訪神社 |
| | 最終日曜日 | 金古諏訪神社の太々神楽 | 高崎市金古町 | 諏訪神社 |
| | | 薄根太々神楽（硯田町） | 沼田市硯田町 | 菅原神社 |
| | | 稲荷神社太々神楽 | 藤岡市下栗須 | 稲荷神社 |
| | | 丹生神社太々神楽 | 富岡市下丹生 | 丹生神社 |
| 4月 | 第二庚申の日 | 猿田彦神社の大和神楽 | 渋川市石原 | 猿田彦神社 |
| | 1日 | 富士浅間神社太々神楽 | 藤岡市藤岡 | 富士浅間神社 |
| | | 咲前神社太々神楽 | 安中市鷺宮 | 咲前神社 |
| | | 高津太々神楽 | 中之条町横尾字高津 | 吾妻神社 |
| | | 三島神社太々神楽 | 高山村大字中山 | 中山神社 |
| | 3日 | 椿名神社太々神楽 | 高崎市倉渕町権田 | 椿名神社 |
| | | 伊勢町太々神楽 | 中之条町大字伊勢町 | 伊勢宮 |
| | | 雷電神社太々神楽 | 玉村町下之宮 | 火雷神社 |
| | 4日近日曜日 | 大島岡里神代神楽 | 板倉町西岡 | 西丘神社 |
| | 7日近日曜日 | 中栗須神明宮太々神楽 | 藤岡市中栗須 | 神明宮 |
| | 第1土・日曜日 | 横町太々神楽 | みどり市笠懸町阿左美 | 秋葉神社 |
| | 第1日曜日 | 植野稲荷神社太々神楽 | 前橋市総社町植野 | 稲荷神社 |
| | | 飯玉神社太々神楽 | 前橋市広瀬町 | 飯玉神社 |
| | | 八幡八幡宮大々神楽 | 高崎市八幡町 | 八幡宮 |
| | | 八幡原大和舞太々里神楽 | 高崎市八幡原町 | 若宮八幡宮 |
| | | 諏訪神社太々神楽 | 渋川市上白井直松 | 諏訪神社 |
| | | 下南室太々御神楽 | 渋川市北橘町下南室 | 赤城神社 |
| | | 上戸塚太々神楽 | 藤岡市上戸塚 | 戸塚神社 |
| | | 白石太々神楽 | 藤岡市白石 | 飯玉神社 |
| | | 八幡宮太々神楽 | 榛東村新井 | 八幡宮 |
| | | 三宮神社太々神楽 | 吉岡町大久保 | 三宮神社 |
| | | 蟻川太々神楽 | 中之条町蟻川 | 熊野神社 |
| | | 小高諏訪神社の太々神楽 | みなかみ町後閑 | 小高諏訪神社 |
| | | 村主八幡神社の太々神楽 | みなかみ町上津 | 八幡神社 |

# 神楽の開催日程

| 期　日 | | 神楽の名称 | 地　域 | 神　社 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 第１日曜日 | 小松八幡宮の太々神楽 | みなかみ町下津 | 八幡宮 |
| | ８日 | 雷電神社太々神楽 | 前橋市上新田町 | 雷電神社 |
| | | 薄根太々神楽（硯田町） | 沼田市榛名町 | 榛名神社 |
| | | 諏訪神社太々神楽 | 藤岡市藤岡 | 諏訪神社 |
| | | 川原湯神社太々神楽 | 長野原町川原湯 | 川原湯神社 |
| | | 吉岡神社の太々神楽 | 東吾妻町本宿 | 吉岡神社 |
| | | 須賀尾諏訪神社太々神楽 | 東吾妻町須賀尾 | 諏訪神社 |
| | ９日 | 進雄神社太々神楽 | 高崎市柴崎町 | 進雄神社 |
| | ９日近日曜日 | 丹生神社の太々神楽 | 藤岡市浄法寺 | 丹生神社 |
| | 12日 | 八木原諏訪神社の太々神楽 | 渋川市八木原 | 諏訪神社 |
| | 第２日曜日 | 片貝神社太々神楽 | 前橋市東片貝町 | 片貝神社 |
| | | 飯玉神社太々神楽 | 前橋市山王町 | 日枝神社 |
| | | 駒形神社太々神楽 | 前橋市駒形町 | 駒形神社 |
| | | 烏子稲荷神社太々神楽 | 高崎市上小塙町 | 烏子稲荷神社 |
| | | 植野稲荷神社太々神楽 | 渋川市北牧 | 若子持神社 |
| | | 神明宮太々神楽 | 渋川市中郷 | 神明宮 |
| | | 下南室太々御神楽 | 渋川市横堀 | 大山祇神社 |
| | | 三嶋神社太々神楽 | 藤岡市西平井 | 三嶋神社 |
| | | 東平井太々神楽 | 藤岡市東平井 | 諏訪神社 |
| | | 鬼石神社太々神楽 | 藤岡市鬼石 | 鬼石神社 |
| | | 下沢渡太々神楽 | 中之条町下沢渡 | 諏訪神社 |
| | | 高津太々神楽 | 中之条町横尾 | 石喰稲荷神社 |
| | | 山田太々神楽 | 中之条町山田 | 吾嬬神社 |
| | | 猿ヶ京神明神社の神道修成派太々神楽 | みなかみ町猿ヶ京温泉 | 神明神社 |
| | | 新巻日枝神社太々神楽 | みなかみ町新巻 | 日枝神社 |
| | | 熊野神社太々神楽 | みなかみ町須川 | 熊野神社 |
| | | 大島岡里神代神楽 | 板倉町除川 | 除川神社 |
| | 14・15日 | 賀茂神社太々神楽 | 桐生市広沢町 | 賀茂神社 |
| | 15日 | 二宮赤城神社太々神楽 | 前橋市二之宮町 | 二宮赤城神社 |
| | | 太々神楽 | 渋川市入沢 | 八幡宮 |
| | | 蛇宮神社太々神楽 | 富岡市七日市 | 蛇宮神社 |
| | | 常将神社太々神楽 | 榛東村山子田 | 常将神社 |
| | | 聖宮神社太々神楽 | 榛東村広馬場 | 聖宮神社 |
| | | 轟の神楽獅子 | 甘楽町轟 | 厳島神社 |
| | | 三島神社太々神楽 | 高山村大字中山 | 三島神社 |
| | | 月夜野神社の太々神楽 | みなかみ町月夜野 | 月夜野神社 |
| | | 雷電神社太々神楽 | 玉村町下新田 | 八幡宮 |
| | 15日近日曜日 | 鹿島太々御神楽 | 藤岡市上日野 | 鹿島神社 |
| | | 大島岡里神代神楽 | 館林市大島町 | 大島神社 |
| | | 中山神社の太々神楽 | 神流町魚尾 | 中山神社 |
| | 中旬 | 吉田西里神楽 | 大泉町吉田西 | 白山神社 |
| | 17・18日 | 産泰神社太々神楽 | 前橋市下大屋町 | 産泰神社 |
| | 19日 | 倉賀野神社太々神楽 | 高崎市倉賀野町 | 倉賀野神社 |
| | | 小祝神社太々神楽 | 高崎市石原町 | 小祝神社 |
| | 第３土曜日 | 矢倉鳥頭神社の太々神楽 | 東吾妻町矢倉 | 鳥頭神社 |
| | 第３日曜日 | 御霊神社太々神楽 | 前橋市粕川町女渕 | 御霊神社 |
| | | 小金井松尾神社の太々神楽 | 太田市新田小金井町 | 松尾神社 |
| | | 白倉神社の太々神楽 | 甘楽町白倉 | 白倉神社 |
| | | 永井箱根神社の太々神楽 | 昭和村川額 | 箱根神社 |
| | | 小川神社の太々神楽 | みなかみ町小川 | 小川神社 |
| | | 布施稲荷神社太々郷神楽 | みなかみ町布施 | 稲荷神社 |
| | 25日近日曜日 | 菅原神社太々神楽 | 富岡市妙義町菅原 | 菅原神社 |
| | 29日（昭和の日） | 薄根太々神楽（原町） | 沼田市原町三峰山 | 河内神社 |
| | | 勝保沢の太々神楽 | 渋川市赤城町勝保沢 | 諏訪神社 |

# 神楽の開催日程

| 期　日 | | 神楽の名称 | 地　域 | 神　社 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | 29日 | 立石神社太々神楽 | 藤岡市立石 | 立石神社 |
| | | 川戸神社太々神楽 | 東吾妻町川戸 | 川戸神社 |
| | | 榛名神社の太々神楽 | 東吾妻町岡崎 | 榛名神社 |
| | | 三島鳥頭神社の太々神楽 | 東吾妻町大字三島 | 鳥頭神社 |
| | | 冨士浅間神社太々神楽 | みなかみ町谷川 | 冨士浅間神社 |
| | 第４日曜日 | 長良神社の里神楽 | 大泉町城之内 | 社日神社 |
| 5月 | １日（隔年） | 神明宮太々神楽 | 渋川市中郷 | 子持神社 |
| | | 諏訪神社太々神楽 | 渋川市中郷 | 子持神社 |
| | 上旬（八十八夜） | 大峯神社太々神楽 | 前橋市嶺町 | 大峯神社 |
| | ３日（憲法記念日） | 春日神社太々神楽 | 前橋市上佐鳥町 | 春日神社 |
| | | 大胡神社太々神楽 | 前橋市堀越町 | 大胡神社 |
| | | 金古諏訪神社の太々神楽 | 高崎市金古町 | 桃山稲荷神社 |
| | | 稲含神社の太々神楽 | 甘楽町秋畑 | 稲含神社 |
| | | 四万太々神楽 | 中之条町四万 | 稲裏神社 |
| | | 菅原神社の太々神楽 | 東吾妻町岩下 | 菅原神社 |
| | | 松谷神社の太々神楽 | 東吾妻町松谷 | 松谷神社 |
| | | 大峰神社太々里神楽 | みなかみ町小仁田 | 大峰神社 |
| | ５日（こどもの日） | 三夜沢赤城神社太々神楽 | 前橋市三夜沢町 | 赤城神社 |
| | | 榛名神社神代神楽 | 高崎市榛名山町 | 榛名神社 |
| | | 五反田太々神楽 | 中之条町五反田 | 親都神社 |
| | | 王城山神社里神楽 | 長野原町林 | 王城山神社 |
| | | 大宮巌鼓神社の太々神楽 | 東吾妻町原町 | 大宮巌鼓神社 |
| | | 熊野講社の太々神楽 | 東吾妻町大字三島 | 熊野講社 |
| | | 粟沢武尊神社太々神楽 | みなかみ町粟沢 | 武尊神社 |
| | ８日 | 榛名神社神代神楽 | 高崎市榛名山町 | 榛名神社 |
| | 15日 | 与喜屋養蚕神社太々神楽 | 長野原町与喜屋 | 養蚕神社 |
| | 31日 | 里神楽 | 館林市花山町 | 富士嶽神社 |
| 7月 | 第２土曜日 | 大輪の里神楽 | 明和町大輪 | 大輪地区 |
| | 第４日曜日 | 里神楽 | 館林市羽附町 | 八坂神社 |
| 8月 | １日近日曜日 | 乃久里神社の太々神楽 | 上野村新羽 | 乃久里神社 |
| | 第１土曜日 | 白瀧神社太々神楽 | 桐生市川内町 | 白瀧神社 |
| 9月 | １日 | 三島神社太々神楽 | 高山村大字中山 | 中山神社 |
| | 第１土曜日 | 長良神社の里神楽 | 邑楽町篠塚 | 稲荷神社 |
| | ９日 | 大宮巌鼓神社の太々神楽 | 東吾妻町原町 | 大宮巌鼓神社 |
| | 中旬（日曜日） | 尻高神社太々神楽 | 高山村大字尻高 | 尻高神社 |
| | 第３日曜日 | 高津太々神楽 | 中之条町横尾字高津 | 吾妻神社 |
| | 第３月曜日 | 山田太々神楽 | 中之条町山田 | 吾嬬神社 |
| | （敬老の日） | 中之条太々神楽 | 中之条町大字中之条町 | 伊勢宮 |
| | | 三島神社太々神楽 | 高山村大字中山 | 三島神社 |
| | 27日近日曜日 | 折田太々神楽 | 中之条町折田 | 報徳折田神社 |
| | 第４日曜日 | 長良神社の里神楽 | 大泉町城之内 | 社日神社 |
| | 最終日曜日 | 乙母神社の太々神楽 | 上野村乙母 | 八幡神社 |
| 10月 | １日近日曜日 | 乃久里神社の太々神楽 | 上野村乙母 | 八幡神社 |
| | 第１日曜日 | 上池太々神楽 | 高崎市吉井町池 | 大宮神社 |
| | | 御倉御子神社太々神楽 | 藤岡市浄法寺 | 御倉御子神社 |
| | ９日 | 進雄神社太々神楽 | 高崎市柴崎町 | 進雄神社 |
| | | 常将神社太々神楽 | 榛東村山子田 | 常将神社 |
| | | 聖宮神社太々神楽 | 榛東村広馬場 | 聖宮神社 |
| | | 川戸神社太々神楽 | 東吾妻町川戸 | 川戸神社 |
| | 第２日曜日 | 駒形神社太々神楽 | 前橋市駒形町 | 駒形神社 |
| | | 八幡原大和舞太々里神楽 | 高崎市八幡原町 | 若宮八幡宮 |
| | | 折茂神楽舞 | 高崎市吉井町長根 | 長根神社 |
| | 中旬 | 吉田西里神楽 | 大泉町吉田西 | 白山神社 |
| | 15日近土・日曜日 | 賀茂神社太々神楽 | 桐生市広沢町 | 賀茂神社 |

# 神楽の開催日程

| 期　日 | | 神楽の名称 | 地　域 | 神　社 |
|---|---|---|---|---|
| 10月 | 15日近日曜日 | 長根神社宿神楽舞 | 高崎市吉井町長根 | 長根神社 |
| | | 土塩太神楽 | 安中市松井田町土塩 | 神明神社 |
| | | 轟の神楽獅子 | 甘楽町轟 | 厳島神社 |
| | 19日 | 倉賀野神社太々神楽 | 高崎市倉賀野町 | 倉賀野神社 |
| | | 小祝神社太々神楽 | 高崎市石原町 | 小祝神社 |
| | 第３土曜日 | 藤木神楽 | 富岡市藤木 | 西小野神社 |
| | 第３土・日曜日 | 横町太々神楽 | みどり市笠懸町阿左美 | 秋葉神社 |
| | 第３日曜日 | 御霊神社太々神楽 | 前橋市粕川町女渕 | 御霊神社 |
| | | 小金井松尾神社の太々神楽 | 太田市新田小金井町 | 松尾神社 |
| | | 東平井太々神楽 | 藤岡市東平井 | 諏訪神社 |
| | | 笹森稲荷神社の太々神楽 | 甘楽町福島 | 笹森稲荷神社 |
| | | 白倉神社の太々神楽 | 甘楽町白倉 | 白倉神社 |
| | | 大山の神楽舞 | 甘楽町白倉 | 八幡神社 |
| | | 天引の神楽舞 | 甘楽町天引 | 諏訪神社 |
| | | 白倉の神楽舞 | 甘楽町白倉 | 白倉神社 |
| | 第４日曜日 | 蛇宮神社太々神楽 | 富岡市七日市 | 蛇宮神社 |
| 11月 | ３日（文化の日） | 八幡八幡宮大々神楽 | 高崎市八幡町 | 八幡宮 |
| | | 宇芸神社太々神楽 | 富岡市神成 | 宇芸神社 |
| | | 矢倉鳥頭神社の太々神楽 | 東吾妻町矢倉 | 鳥頭神社 |
| | | 三島鳥頭神社の太々神楽 | 東吾妻町大字三島 | 鳥頭神社 |
| | ８日 | 吉岡神社の太々神楽 | 東吾妻町本宿 | 吉岡神社 |
| | | 須賀尾諏訪神社太々神楽 | 東吾妻町須賀尾 | 諏訪神社 |
| | 19日 | 白瀧神社太々神楽 | 桐生市宮本町 | 西宮神社 |
| | 23日（勤労感謝の日） | 椿名神社太々神楽 | 高崎市倉渕町権田 | 椿名神社 |
| | | 大島岡里神代神楽 | 板倉町西岡 | 西丘神社 |
| | | 村上太々神楽 | 渋川市村上 | 作間神社 |
| | 25日 | 菅原神社の太々神楽 | 東吾妻町岩下 | 菅原神社 |
| | 第４日曜日 | 大島岡里神代神楽 | 板倉町除川 | 除川神社 |
| | 最終日曜日 | 川原湯神社太々神楽 | 長野原町川原湯 | 川原湯神社 |
| 12月 | 31日 | 八幡八幡宮大々神楽 | 高崎市八幡町 | 八幡宮 |
| | | 烏子稲荷神社太々神楽 | 高崎市上小塙町 | 烏子稲荷神社 |
| | | 立石神社太々神楽 | 藤岡市立石 | 立石神社 |
| | | 三嶋神社太々神楽 | 藤岡市西平井 | 三嶋神社 |
| | 31日～１月１日 | 飯玉神社太々神楽 | 前橋市広瀬町 | 飯玉神社 |
| | | 金古諏訪神社の太々神楽 | 高崎市金古町 | 諏訪神社 |
| | | 富士浅間神社太々神楽 | 藤岡市藤岡 | 富士浅間神社 |
| | | 東平井太々神楽 | 藤岡市東平井 | 諏訪神社 |
| | | 貫前神社太々神楽 | 富岡市一ノ宮 | 一之宮貫前神社 |
| | | 乃久里神社の太々神楽 | 上野村新羽 | 乃久里神社 |
| | | 伊勢町太々神楽 | 中之条町大字伊勢町 | 伊勢宮 |
| | | 猿ヶ京神明神社の神道修成派太々神楽 | みなかみ町猿ヶ京温泉 | 神明神社 |

**■主な伝統芸能発表**

１月　富岡甘楽芸能発表会（かぶら文化ホール）
２月　館林市芸術文化祭 郷土芸能発表大会（三の丸芸術ホール）
３月　利根沼田伝承古典芸能祭（利根沼田文化会館）
　　伝統芸能まつり in 文化むら（大泉町文化むら）
５月　藤岡市郷土芸能鑑賞会（みかぼみらい館）
　　吉井民俗芸能大会（吉井文化会館）
10月　中之条町郷土芸能発表会（中之条町ふるさと交流センターつむじ）
11月　甘楽町民俗芸能大会（甘楽ふれあいの丘）※３日
　　高崎伝統民俗芸能祭り（高崎市文化会館）
　　渋川市民文化祭 郷土芸能発表会（渋川市子持社会体育館）
　　前橋市郷土芸能大会（前橋市民文化会館）
その他　高崎の伝統芸能 神楽の集い（榛名文化会館）：秋季（３年周期）ほか

平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）

「ぐんまの神楽シンポジウム報告書」

■発　行　日　平成30年３月20日
■発 行 部 数　300部（非売品）
■編集・発行　群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会
■問　合　せ　公益財団法人群馬県教育文化事業団
前橋市文京町二丁目20-22　TEL027-224-3960
■印　　刷　朝日印刷工業株式会社